

別 冊

いいだ障がい福祉プラン2024 資料編

飯田市障害者計画

第7期飯田市障害福祉計画

第3期飯田市障害児福祉計画

(令和6 (2024) 年度～令和11 (2029) 年度)

飯 田 市

健康福祉部 福祉課

令和6 (2024) 年3月

目次

別冊 資料編

飯田市社会福祉審議会 本部会委員名簿	1
飯田市社会福祉審議会 障害者福祉分科会委員名簿	2
飯田市社会福祉審議会・障害者福祉分科会の開催状況	3
飯田市障がいのある方の実態調査 報告書	5
飯田市障がいのある方の実態調査 分析結果	70
飯田市障がい福祉に関する市民アンケート 報告書	88

飯田市社会福祉審議会 本部会委員名簿

令和6年2月7日現在
(分科会別・敬称略)

No.	氏名	分科会	所属団体等	本部会役職
1	宮下 智	障がい者福祉分科会	南信州広域連合地域自立支援協議会	会長
2	菱田 博之	障がい者福祉分科会	飯田短期大学	
3	松澤 陽子	障がい者福祉分科会	飯伊圏域障がい者総合支援センター	
4	原 久	児童福祉分科会	社会福祉法人飯田市社会福祉協議会	
5	塩澤 鎮子	児童福祉分科会	飯田市私立保育園連盟	
6	小池 とし子	児童福祉分科会	飯田市ひとり親家庭福祉会	
7	幸森 信良	高齢者福祉分科会	飯伊圏域介護保険事業者連絡協議会	副会長
8	田中 光子	高齢者福祉分科会	飯伊圏域介護保険事業者連絡協議会	
9	多田 雅幸	高齢者福祉分科会	飯田市民生児童委員協議会	
10	藤本 清明	健康づくり分科会	飯田市公民館長会	
11	今牧 とき子	健康づくり分科会	飯田市食生活改善推進協議会	
12	生島 雄太	健康づくり分科会	飯田市健康福祉委員等代表者連絡会	
13	原 重一	健康づくり分科会	社会福祉法人飯田市社会福祉協議会	

(任期：令和4年4月1日～令和7年3月31日)

飯田市社会福祉審議会 障害者福祉分科会委員名簿

令和6年1月29日現在

(50音順・敬称略)

No.	氏名	所属団体等	備考
1	浦野 憲一郎	長野県飯田養護学校	
2	小木曾 俊夫	飯田市身体障がい者福祉協会	
3	鎌倉 崇	飯田市民生児童委員協議会	
4	窪田 幾子	株式会社 暖	
5	高橋 泰宏	NPO 法人 子ども若者サポートはみんぐ	
6	長谷川 貴之	南信地域活動支援センター	
7	疋田 泰規	長野県飯田児童相談所	
8	菱田 博之	飯田短期大学	副会長(本部会委員)
9	古瀬 かほる	社会福祉法人 飯田市社会福祉協議会	
10	穂谷 太一	飯田公共職業安定所	
11	松澤 陽子	飯伊圏域障がい者総合支援センター	本部会委員
12	宮下 智	南信州広域連合地域自立支援協議会	会長(本部会委員)
13	宮島 恵樹	飯伊 PT・OT・ST 連絡協議会	
14	矢嶋 志保	飯田市手をつなぐ育成会	
15	山住 貴子	公募	
16	山田 徹	公益社団法人 長野県建築士会飯伊支部	
17	山中 文彦	飯田手話サークル	

(任期：令和4年4月1日～令和7年3月31日)

飯田市社会福祉審議会本部会・障害者福祉分科会の開催状況

<p>第1回 障害者福祉分科会</p> <p>開催期日 令和5年7月3日(月) 会場:市役所A301-302会議室</p> <p>協議事項 1 第4次障害者施策に関する長期行動計画の取組結果と課題について 2 第6期障がい福祉計画及び第2期障がい児福祉計画の実績等について 3 第5次障害者基本計画概要・第7期障害福祉計画及び第3期障害児福祉計画に係る基本指針等について 4 (仮称)いいだ障がい福祉プラン2024(飯田市障害者計画・第7期障害福祉計画及び第3期障害児福祉計画)の策定方針について</p>
<p>社会福祉審議会 本部会(令和5年度 第1回)</p> <p>開催期日 令和5年8月10日(木) 会場:市役所 A203-204 会議室</p> <p>協議事項 いいだ障がい福祉プラン2024(飯田市障害者計画・第7期障害福祉計画及び第3期障害児福祉計画)の諮問</p>
<p>第2回 障害者福祉分科会</p> <p>開催期日 令和5年9月29日(金) 会場:勤労者福祉センター第1、2視聴覚室</p> <p>協議事項 いいだ障がい福祉プラン2024(飯田市障害者計画・第7期障害福祉計画及び第3期障害児福祉計画)素案について</p>
<p>第3回 障害者福祉分科会</p> <p>開催期日 令和5年11月1日(水) 会場:市役所A301-302会議室</p> <p>協議事項 いいだ障がい福祉プラン2024(飯田市障害者計画・第7期障害福祉計画及び第3期障害児福祉計画)原案について</p>
<p>社会福祉審議会 本部会(令和5年度 第2回)</p> <p>開催期日 令和5年11月22日(水) 会場:市役所 C311-313 会議室</p> <p>協議事項 いいだ障がい福祉プラン2024(飯田市障害者計画・第7期障害福祉計画及び第3期障害児福祉計画)(原案)の報告</p>
<p>第4回 障害者福祉分科会</p> <p>開催期日 令和6年1月29日(月) 会場:市役所A203-204 会議室</p> <p>協議事項 1 パブリックコメントについて 2 いいだ障がい福祉プラン2024(飯田市障害者計画・第7期障害福祉計画及び第3期障害児福祉計画)案について 3 いいだ障がい福祉プラン2024(飯田市障害者計画・第7期障害福祉計画及び第3期障害児福祉計画)の審議報告について</p>

社会福祉審議会 本部会（令和5年度 第3回）

開催期日 令和6年2月7日（水） 会場：市役所 C311-313 会議室

協議事項 いいだ障がい福祉プラン2024（飯田市障害者計画・第7期障害福祉計画及び第3期障害児福祉計画）の答申案検討について



令和6年1月29日開催
障害者福祉分科会の様子

飯田市

障がいのある方の実態調査

報告書

令和5年9月

飯田市 健康福祉部 福祉課 障害福祉係

I 調査概要

(1) 調査の目的

飯田市内在住の障がいのある人に対して生活の実態等について調査を行い、次期いいだ障がい福祉プラン 2024（計画期間：令和6年度から令和11年度の計画）の策定及び障がい者施策を検討するための基礎資料とすることを目的としている。

(2) 調査の項目

- ・対象者自身について ・権利擁護などについて ・相談先等について ・暮らしについて
- ・障害福祉サービスの利用について ・教育について ・就労について（※18歳以上のみ）
- ・社会参加等について（※18歳以上のみ） ・障がい児の療育について（※18歳未満のみ）
- ・災害対策について
- ・行政への要望について

(3) 調査の設計

調査対象者：飯田市在住で、身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、児童通所支援を利用している方

調査方法：郵送配布・郵送回収またはインターネット回答

調査期間：令和5年1月23日～令和5年2月13日（18歳以上）、
令和5年1月30日～令和5年2月20日（18歳未満）

発送数：18歳以上700件、18歳未満100件

(4) 回収状況

年齢種別	発送数	回収数	有効回収数	有効回収率
18歳以上	700	326	326	46.5%
18歳未満	100	54	54	54.0%

※有効回収数とは、白票または回収が著しく少なくなる票を除いた数

(5) 調査対象者の障害手帳の種類について¹

問5 お持ちの手帳等の種類をお答えください。(当てはまる番号をすべて○で囲む)

【18歳以上】

身体障害者手帳 (162人、49.7%) 療育手帳 (90人、27.6%)

精神障害者保健福祉手帳 (89人、27.3%)

【18歳以下】

身体障害者手帳 (11人、20.4%)、療育手帳 (25人、46.3%)

精神障害者保健福祉手帳 (1人、1.85%) 手帳は持っていない (23人、42.6%)

(6) 報告書を見る際の注意事項

- ・基礎となるべき実数は調査数nとして記載しています。
- ・比率はすべて百分率で表し、少数第二位を四捨五入しています。そのため、百分率の合計が100%にならないことがあります。また、グラフにおける比率の合計は、コメントにおける比率の合計と一致しないことがあります。
- ・複数回答可能な設問の場合、回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- ・18歳未満の「精神障害者保健福祉手帳」は、回答件数が少なく個人の特定に繋がりがねないため、グラフ及び集計表の掲載を割愛しています。
- ・全体の回答者数(件数)が15件未満のものについては、回答の標本誤差が大きくなることから、グラフを割愛し、集計表を掲載しています。各回答件数が5件以下のものについてはコメント、グラフ、及び集計表を割愛しています。
- ・選択肢の文言が長い項目については、グラフ・集計表のレイアウトの都合上、省略している場合があります。

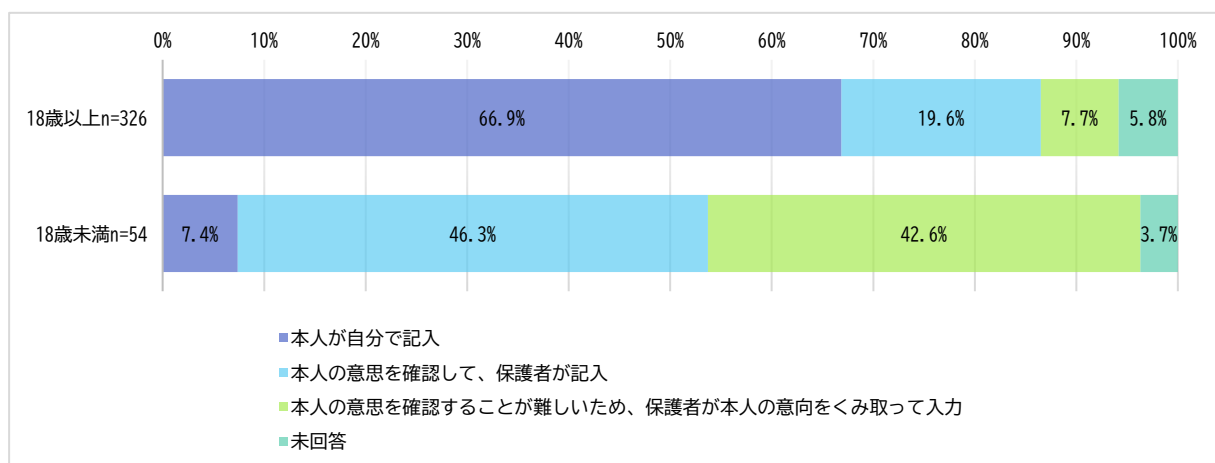
¹ 宮國氏の資料と本調査書では、研究同意等により対象人数に差が生じています。

II 調査結果

●本人（対象の児）について

(1) 調査票の記入者についてお答えください。(番号を1つだけ○で囲む)

≪18歳以上：問1、18歳未満：問1≫

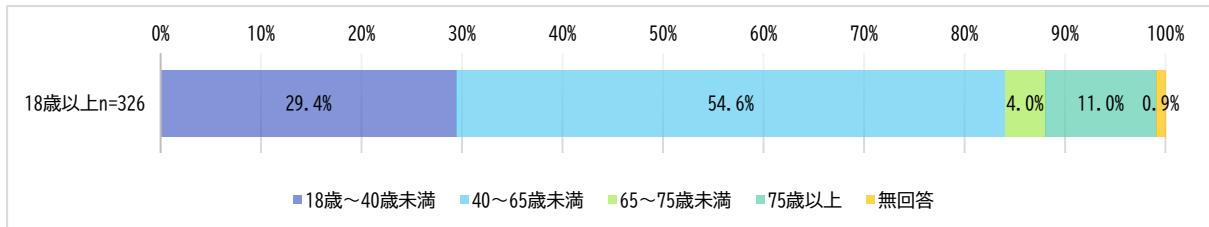


調査票の記入者は、18歳以上において「本人が自分で記入」が66.9%、「本人の意思を確認して、家族や介護者（施設職員等）が代筆で記入」が19.6%、「本人の意思を確認することが難しいため、家族や介護者（施設職員等）が本人の意向をくみ取って代わりに記入」が7.7%となっています。

18歳未満においては、「本人が自分で記入」が7.4%、「本人の意思を確認して、保護者が記入」が46.3%、「本人の意思を確認することが難しいため、保護者が本人の意向をくみ取って記入」が42.6%となっています。

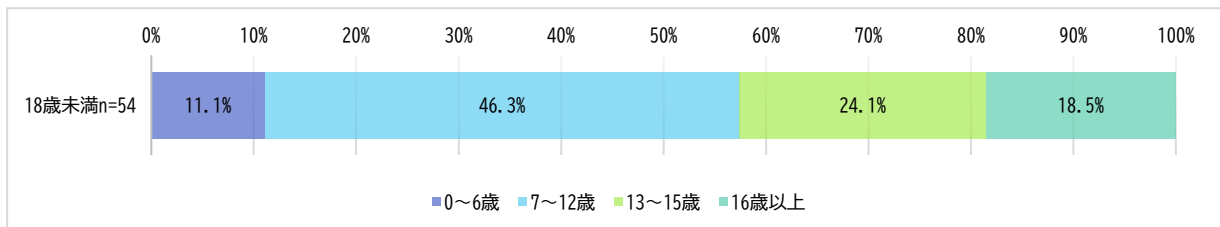
(2) あなた（本人）の年齢をお答えください。（令和5年1月1日現在）

《18歳以上：問2》



年齢は、「18歳～40歳未満」が29.6%、「40歳～65歳未満」が54.9%、「65歳～75歳未満」が4.0%、「75歳以上」が0.9%となっています。

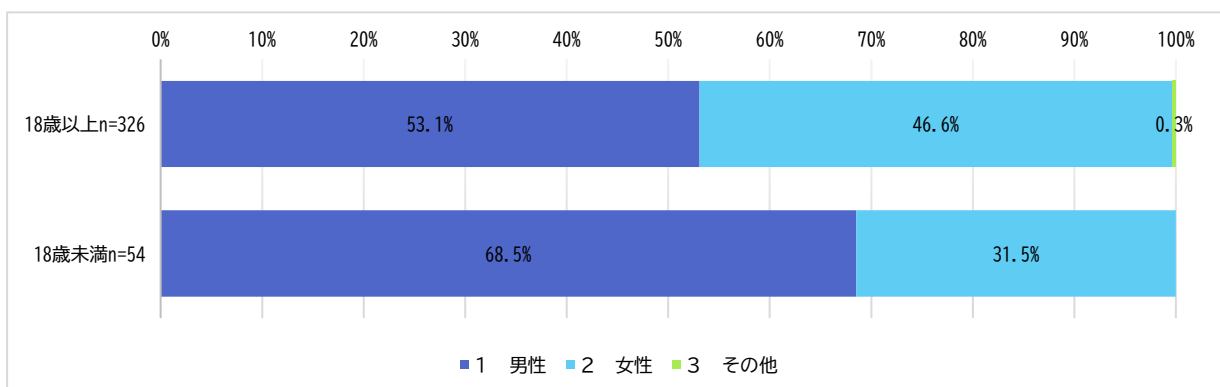
《18歳未満：問2》



年齢は、「0～6歳」が11.1%、「7～12歳」が46.3%、「13～15歳」が24.1%、「16歳以上」が18.5%となっています。

(3) あなた（本人）の自認する性別をお答えください。（番号を1つだけ○で囲む）

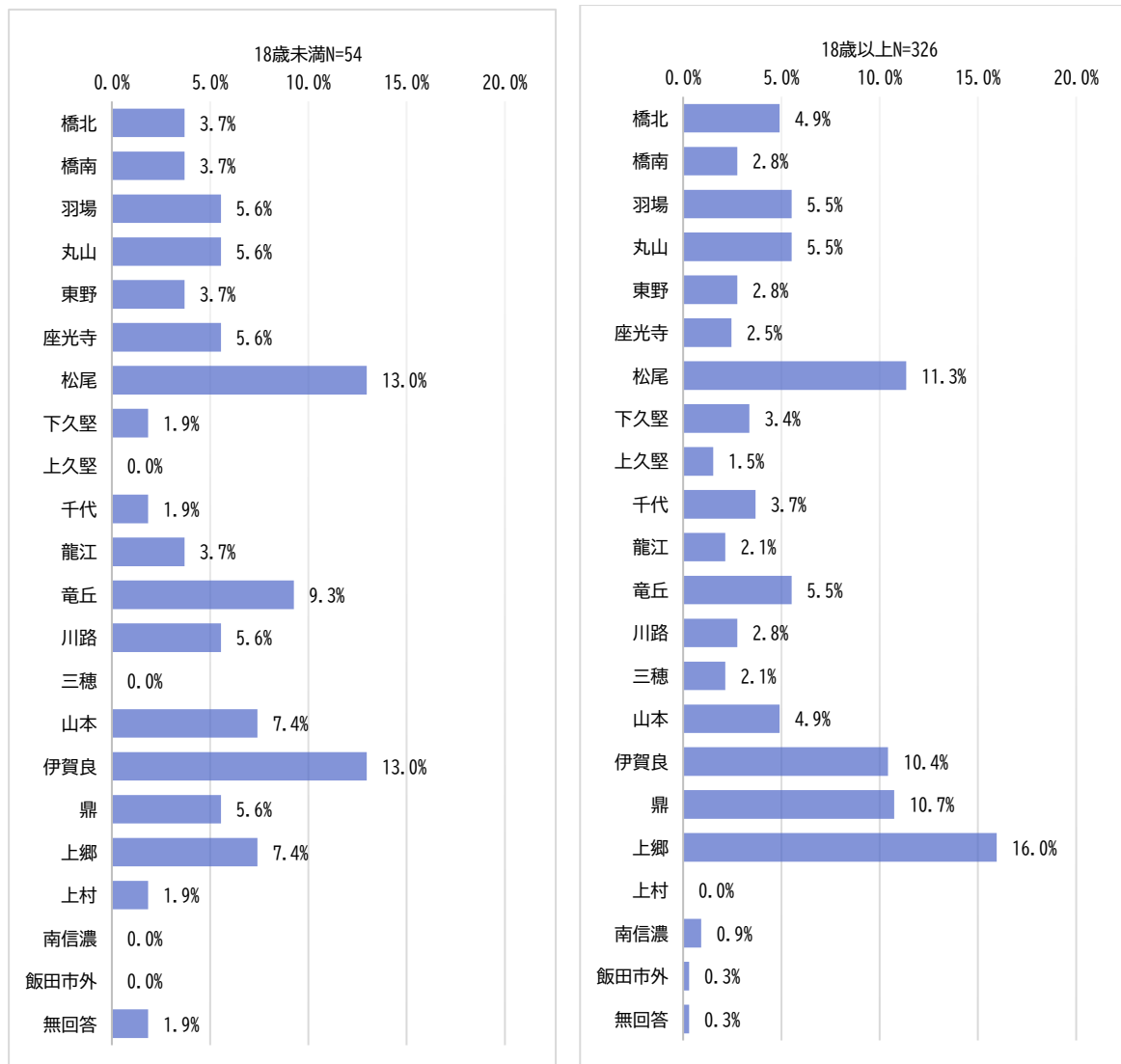
《18歳以上：問3、18歳未満：問3》



性別は、18歳以上において「男性」が53.1%、「女性」が46.6%、「その他」が0.3%となっています。18歳未満においては「男性」が68.5%、「女性」が31.5%となっています。

(4) お住まいの地区をお答えください。(番号を1つだけ○で囲む)

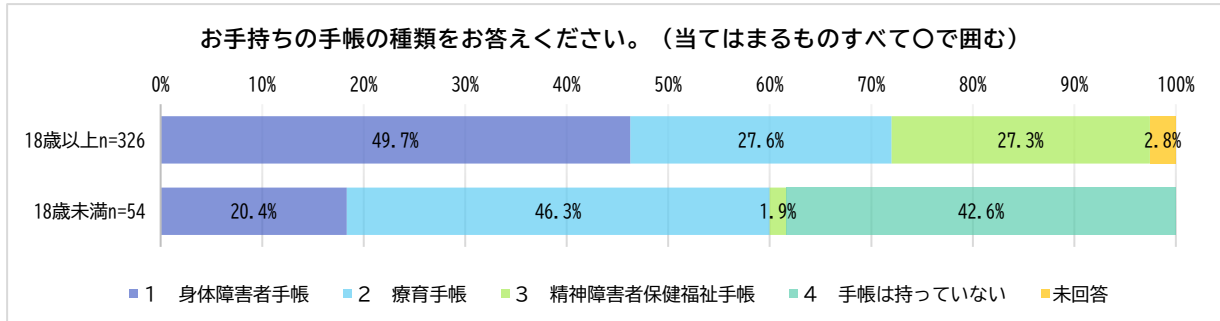
≪18歳以上：問4、18歳未満：問4≫



住まいの地区は、18歳以上において「上郷」が16.0%と最も多く、次いで松尾が11.3%などとなっています。18歳未満においては、「伊賀良」「松尾」が13.0%と最も多くなっています。

(5) お手持ちの手帳の種類をお答えください。(当てはまるものすべて○で囲む)

≪18歳以上：問5、18歳未満：問5≫



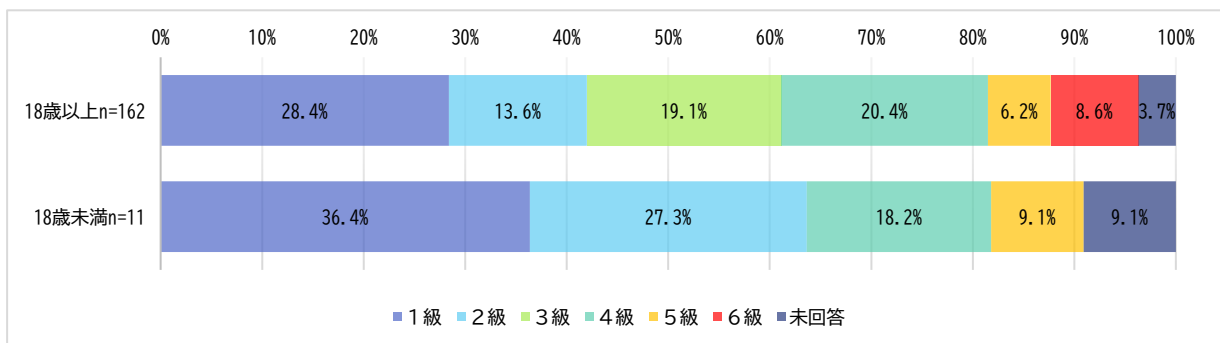
所持している障がいの種別は、18歳以上において「身体障害者手帳」が49.7%、「療育手帳」が27.6%、「精神障害者保健福祉手帳」が27.3%となっています。

18歳未満においては、「身体障害者手帳」が20.4%、「療育手帳」が46.3%、「精神障害者保健福祉手帳」が1.9%、「手帳は持っていない」が42.6%となっています。

(5) で「身体障害者手帳」を選んだ方のみ

(6) お持ちの手帳の障害の程度をお答えください(等級を1つだけ○で囲む)

≪18歳以上：問6、18歳未満：問6≫

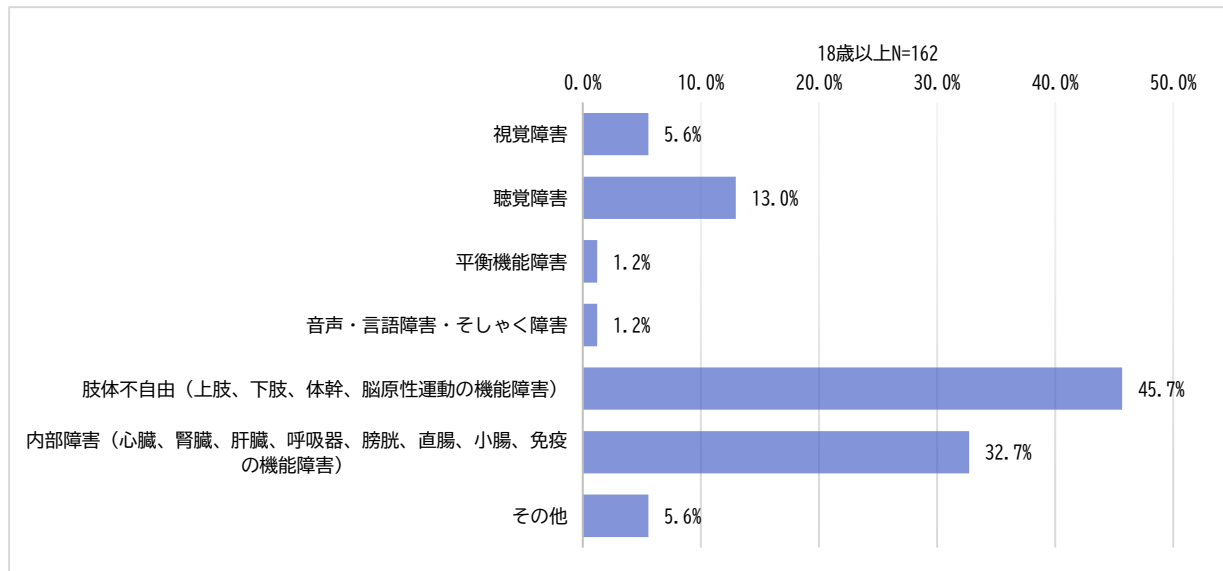


身体障害者手帳の障がいの程度は、18歳以上において「1級」が28.4%で最も多く、次いで「4級」が20.4%などとなっています。18歳未満においては「1級」が36.4%で最も多く、次いで「2級」が27.3%となっています。

問5で「身体障害者手帳」を選んだ方のみ

(7) 身体障害者手帳に表示されている障がいの種類をお答えください。(当てはまる番号をすべて○で囲む)

≪18歳以上：問7、18歳未満：問7≫



身体障害者手帳に表示されている障がいの種類は、18歳以上において「肢体不自由(上肢、下肢、体幹、脳原性運動の機能障害)」が45.7%で最も多く、次いで「内部障害(心臓、腎臓、肝臓、呼吸器、膀胱、直腸、小腸、免疫の機能障害)」が32.7%となっています。

	全体	視覚障害	聴覚障害	平衡機能障害	障害音声・言語障害・そしゃく	害) 肢体不自由(上肢、下肢、体幹、脳原性運動の機能障害)	小腸、内部障害(心臓、腎臓、肝臓、呼吸器、膀胱、直腸、免疫の機能障害)	その他	無回答
全体	11	0	0	0	1	10	1	0	0
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	90.9%	9.1%	0.0%	0.0%
県	100.0%	2.2%	22.2%	0.0%	0.0%	57.8%	20.0%	2.2%	4.4%

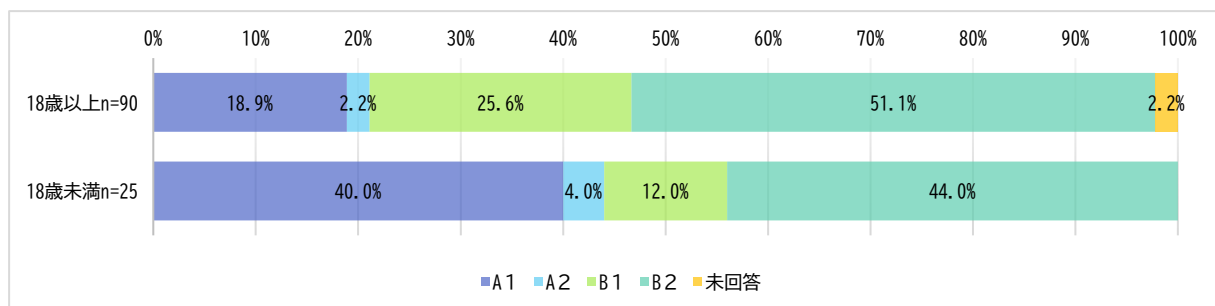
18歳未満においては、「肢体不自由(上肢、下肢、体幹、脳原性運動の機能障害)」が90.9%と最も多く、次いで「音声・言語障害・そしゃく障害」及び「内部障害(心臓、腎臓、肝臓、呼吸器、膀胱、直腸、小腸、免疫の機能障害)」が9.1%などとなっています。

※18歳未満においては、回答数が15件以下であり回答の標本誤差が大きくなることから、グラフを割愛し、集計表を掲載しています。

(5) で「療育手帳」を選んだ方のみ

(8) お持ちの手帳の障がいの程度をお答えください。(番号を1つだけ○で囲む)

≪18歳以上：問8、18歳未満：問8≫



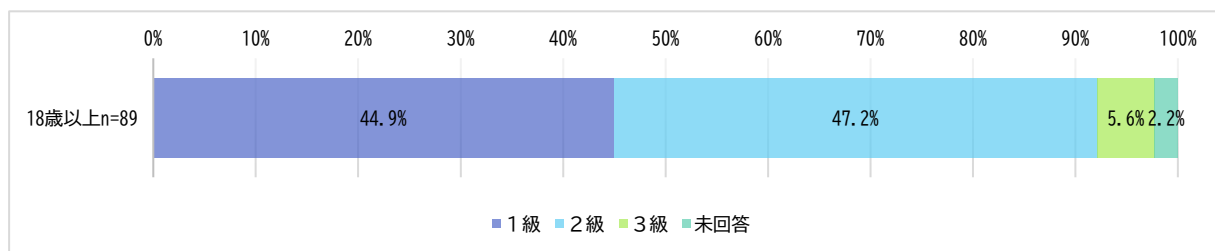
療育手帳の障がいの程度は、18歳以上において、「A1」が18.9%、「A2」が2.2%、「B1」が51.1%、「B2」が51.1%となっています。

18歳未満においては、「A1」が40.0%、「A2」が4.0%、「B1」が12.0%、「B2」が44.0%となっています。

問5で「精神障害者保健福祉手帳」を選んだ方のみ

(9) お持ちの手帳の障がいの程度をお答えください。(番号を1つだけ○で囲む)

≪18歳以上：問9、18歳未満：問9≫

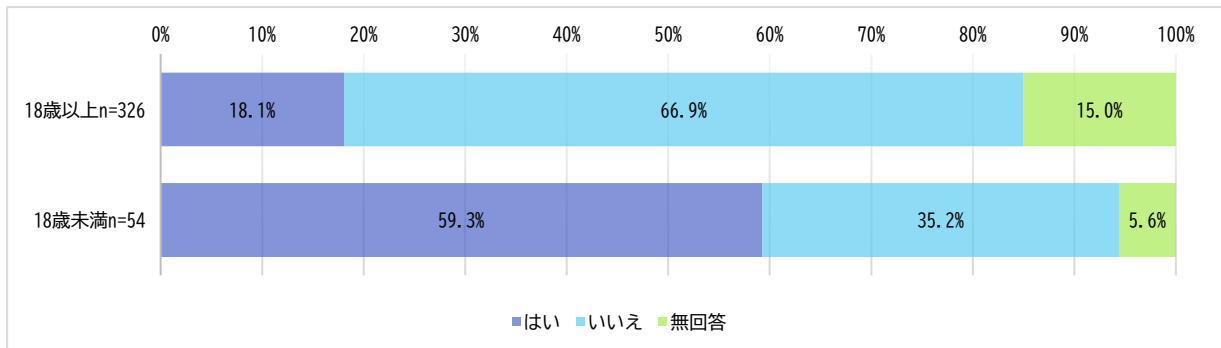


精神障害者保健福祉手帳の障がいの程度は、18歳以上において、「1級」が44.9%、「2級」が47.2%、「3級」が5.6%となっています。

※18歳未満においては、回答件数が少ないためグラフ・集計表の掲載を割愛します。

(10) これまで発達障害として診断されたことがありますか。(番号を1つだけ○で囲む)

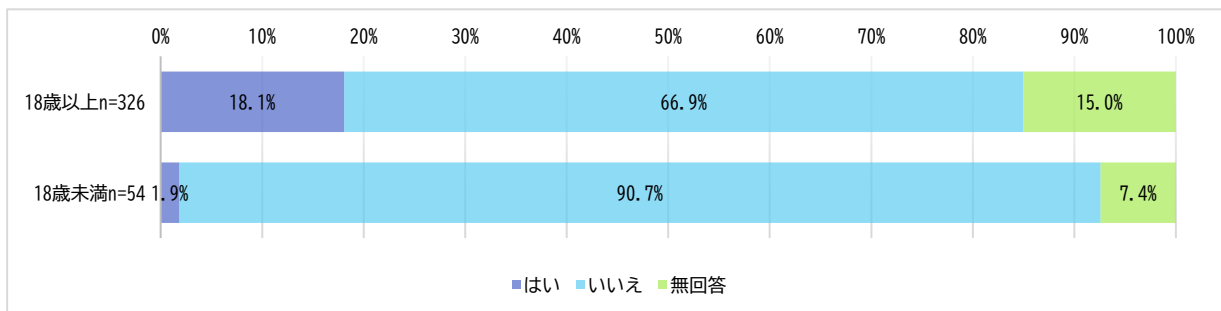
≪18歳以上：問10、18歳未満：問10≫



発達障害の診断有無は、18歳以上において、「はい」が18.1%、「いいえ」が66.9%となっています。18歳未満においては「はい」が59.3%、「いいえ」が35.2%となっています。

(11) これまで高次脳機能障害として診断されたことがありますか。(番号を1つだけ○で囲む)

≪18歳以上：問11、18歳未満：問11≫

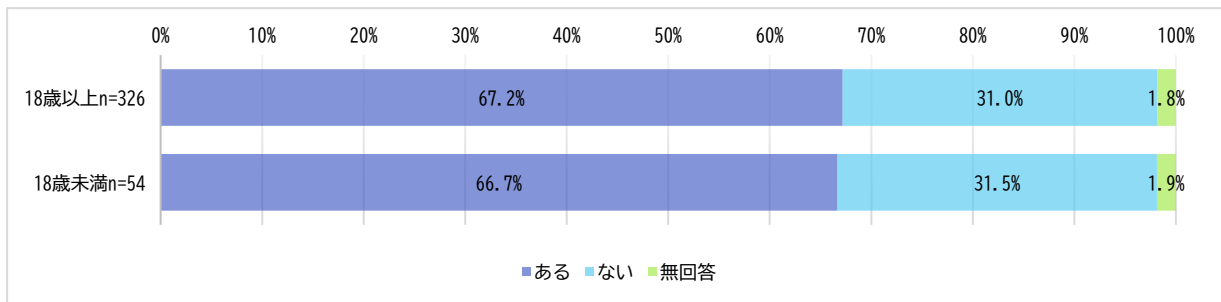


高次脳機能障害の診断有無は、18歳以上において、「はい」が18.1%、「いいえ」が66.9%となっています。18歳未満においては「はい」が1.9%、「いいえ」が90.7%となっています。

●権利擁護などについて

(1) あなた(本人)は障がいがあることで、困ったり嫌な思いをしたことがありますか。
(番号を1つだけ○で囲む)

≪18歳以上：問12、18歳未満：問12≫

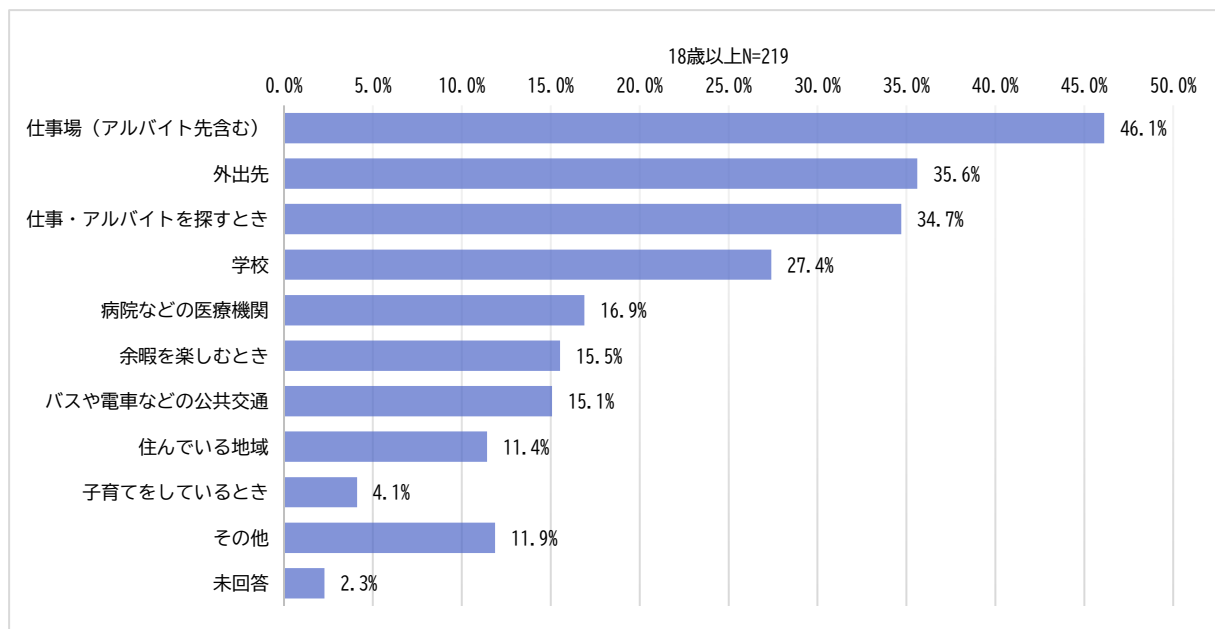


障がいがあることにより、困ったり嫌な思いをしたことがあるかどうかについては、18歳以上において「ある」が67.2%、「ない」が31.0%となっています。18歳未満においては「ある」が66.7%、「ない」が31.5%となっています。したことがあると言えます。

(1) で「ある」を選んだ方のみ

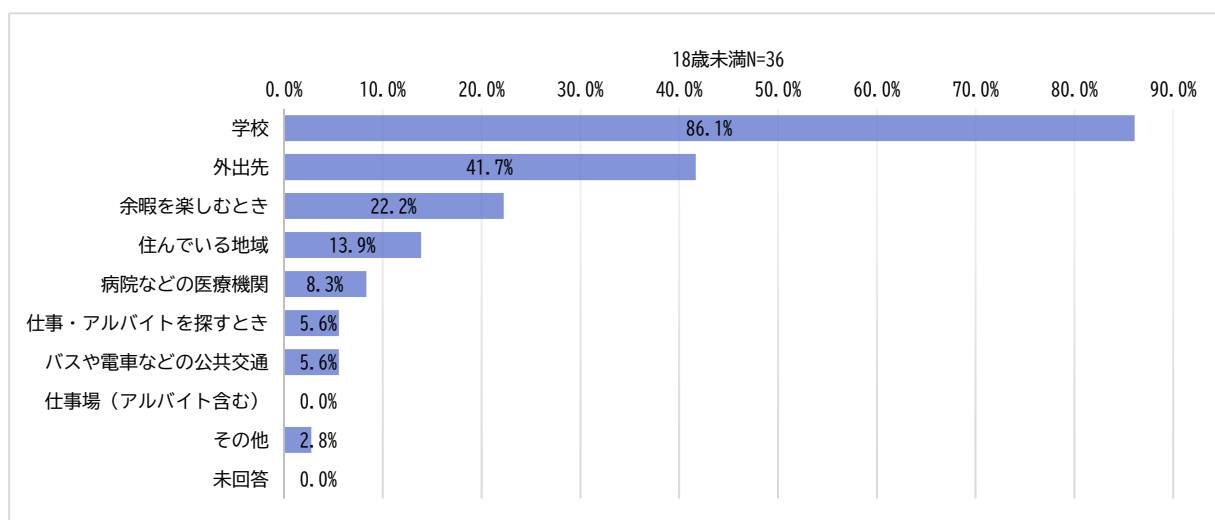
(2) それは、どのような場所で感じましたか（番号を3つまで○で囲む）

≪18歳以上：問13≫



障がいがあることにより、困ったり嫌な思いをしたりしたことがある場所は、18歳以上において、「仕事場（アルバイト先）」が46.1%と最も多く、次いで「外出先」が35.6%となっています。

≪18歳未満：問13≫

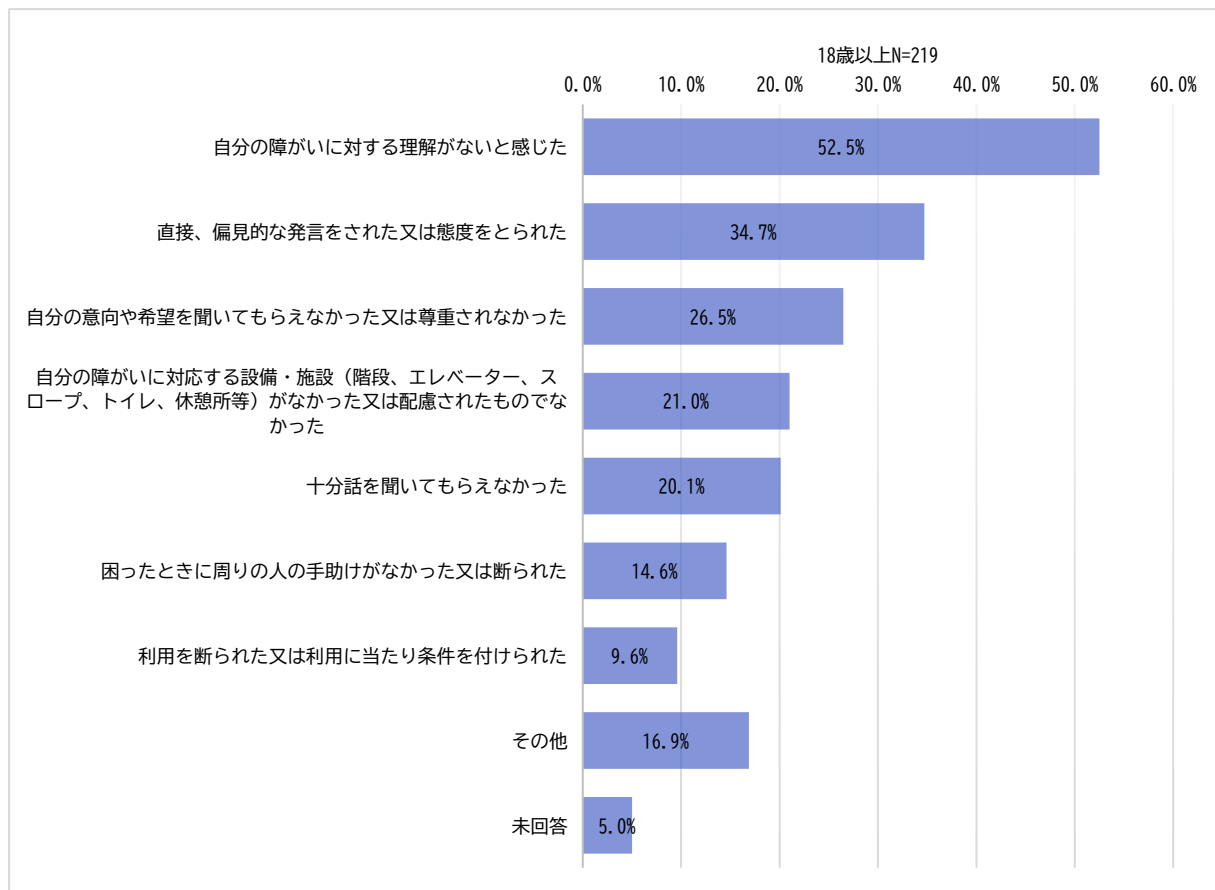


障がいがあることにより、困ったり嫌な思いをしたりしたことがある場所は、18歳未満において、「学校」が86.1%と最も多く、次いで「外出先」が53.6%となっています。

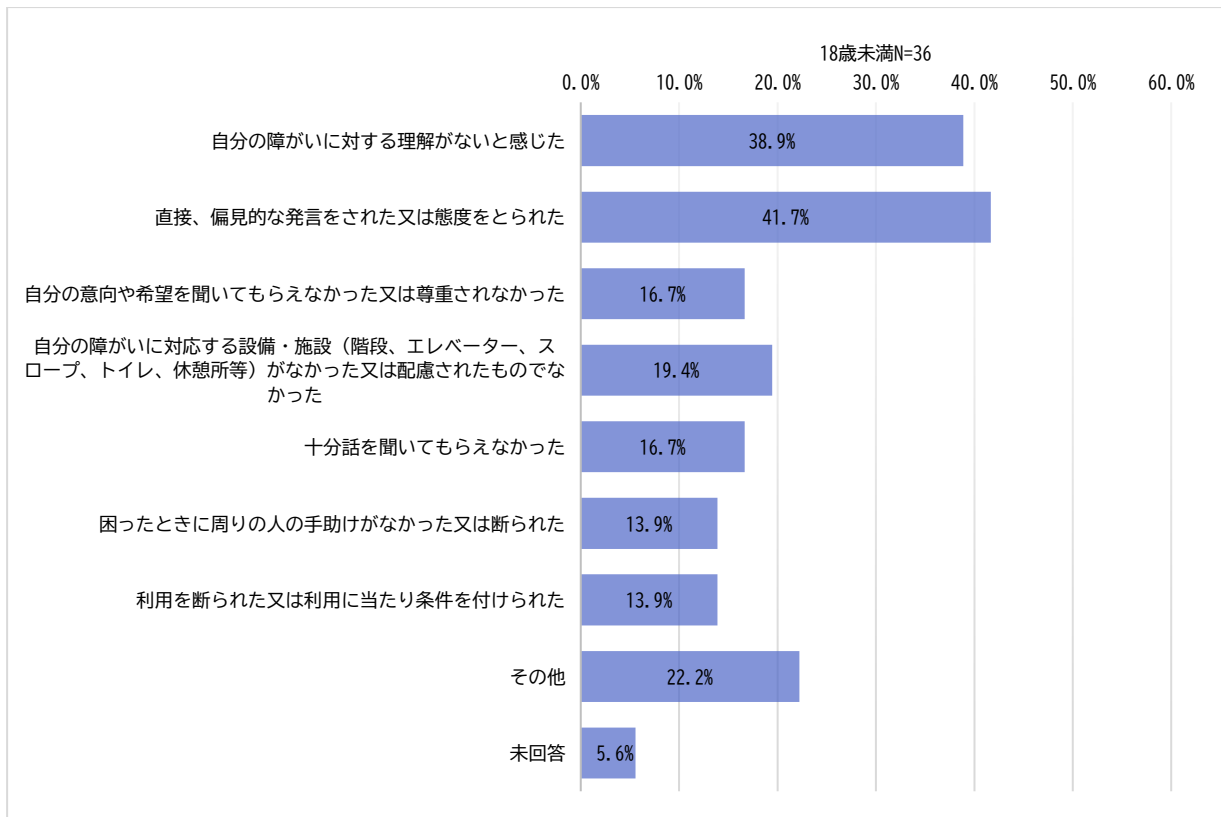
(2) で「ある」を選んだ方のみ

(3) それは、どのような時に感じましたか（番号を3つまで○で囲む）

≪18歳以上：問14≫

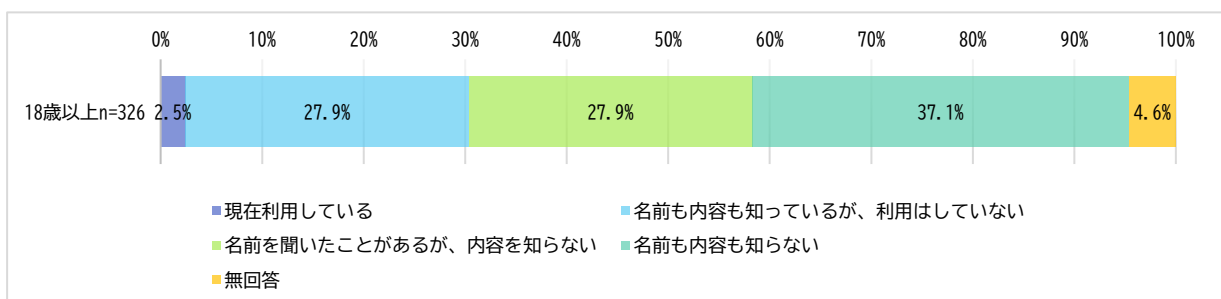


障がいがあることにより、困ったり嫌な思いをしたりしたことがある時は、18歳以上において、「自分の障がいに対する理解がないと感じた」が52.5%と最も多く、次いで「直接、偏見的な発言をされた又は態度をとられた」が34.7%となっています。



障がいがあることにより、困ったり嫌な思いをしたりしたことがある時は、18歳未満において、「直接、偏見的な発言をされた又は態度をとられた」が41.7%と最も多く、次いで「自分の障がいに対する理解がないと感じた」が38.9%となっています。

(4) 成年後見制度について知っていますか。(番号を1つだけ○で囲む)

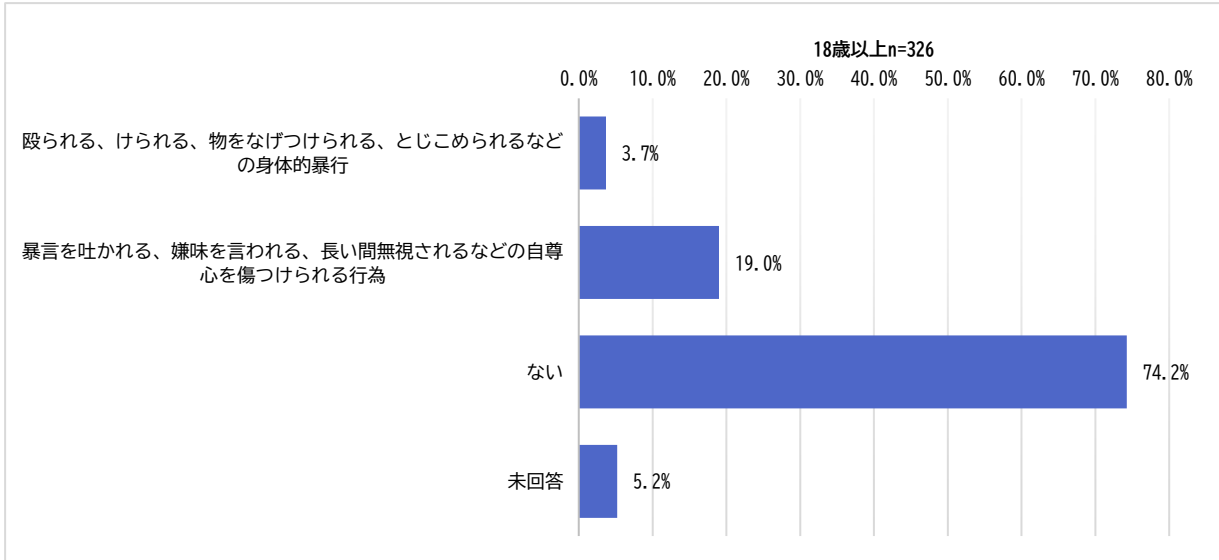


成年後見制度の認知度は、「名前も内容も知らない」が37.1%と最も多く、次いで「名前も内容も知っているが、利用はしていない」「名前を聞いたことがあるが、内容を知らない」が27.9%などとなっています。

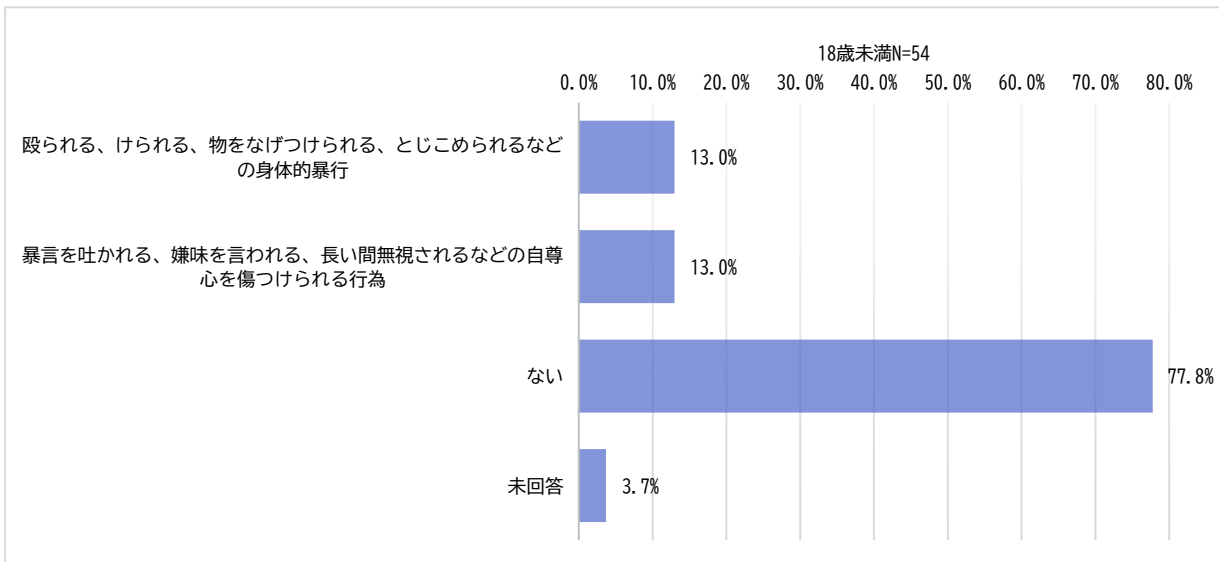
(5) あなたはこの1年間に、誰かから次のようなことをされた経験はありますか。

(当てはまる番号をすべて○で囲む)

≪18歳以上：問16、18歳未満：問15≫



飯田市独自の設問で、「殴られる、けられる、物をなげつけられる、とじこめられるなどの身体的暴行」が3.7%、「暴言を吐かれる、嫌みを言われる、長い間無視されるなどの自尊心を傷つけられる行為」が19.0%となっています。

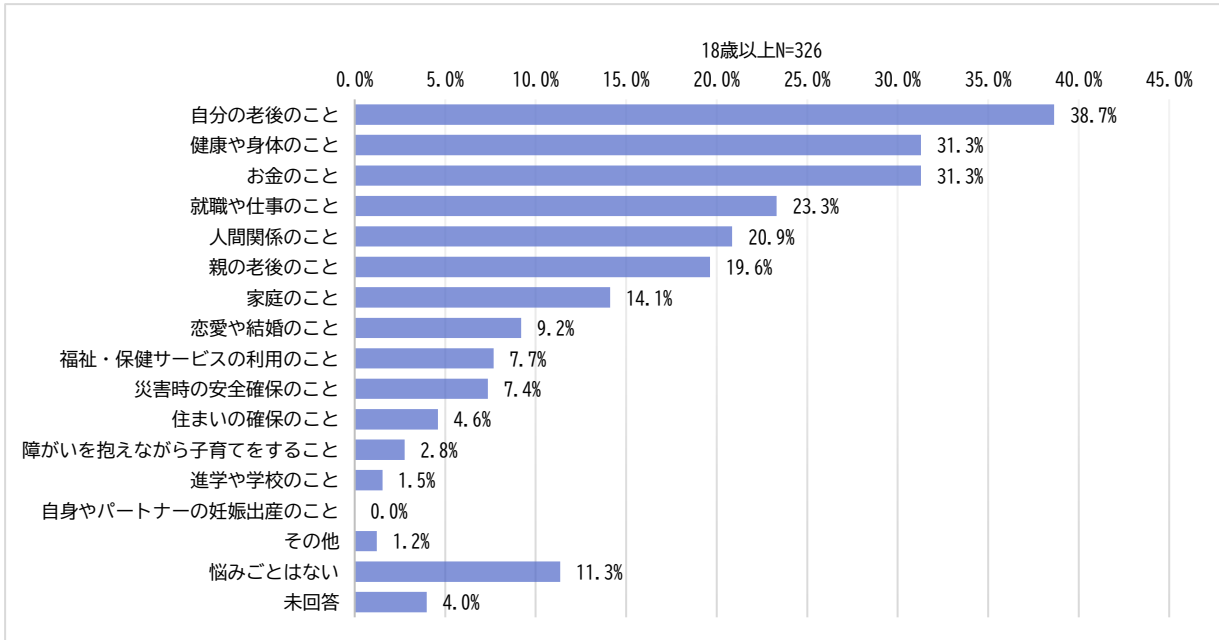


飯田市独自の設問で、「殴られる、けられる、物をなげつけられる、とじこめられるなどの身体的暴行」が13.0%、「暴言を吐かれる、嫌みを言われる、長い間無視されるなどの自尊心を傷つけられる行為」が13.0%となっています。

●相談先等について

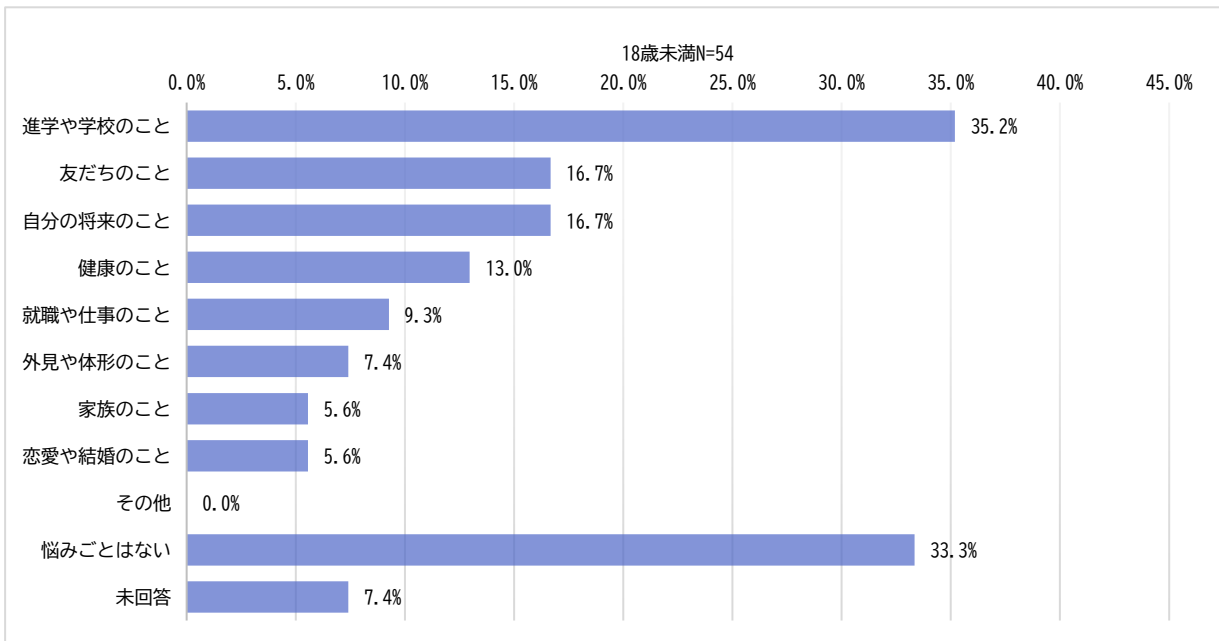
(1) あなた（本人）は現在、悩みごとがありますか。（番号を3つまで○で囲む）

≪18歳以上：問17≫



現在の悩みごとは、18歳以上において「自分の老後のこと」が38.7%と最も多く、次いで「健康や身体のこと」「お金のこと」が31.3%などとなっています。

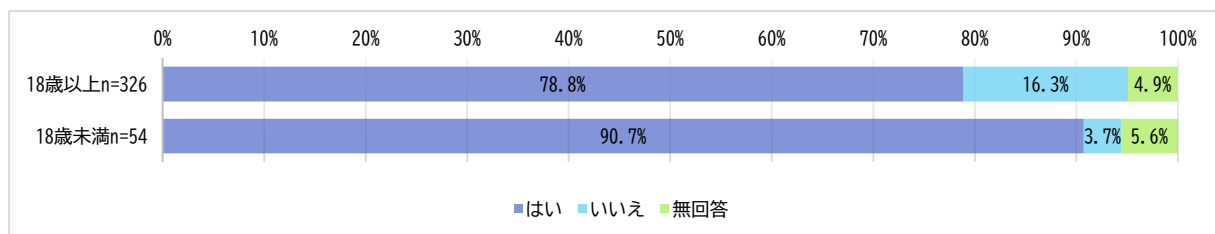
≪18歳未満：問16≫



現在の悩みごとは、18歳未満において「進学や学校のこと」が35.2%と最も多く、次いで「友達のこと」「自分の将来のこと」が16.7%となっています。

(2) あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人はいますか。(番号を1つだけ○で囲む)

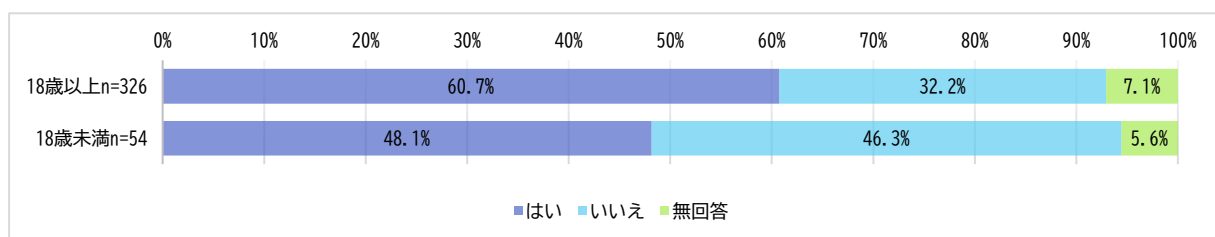
≪18歳以上：問18、18歳未満：問17≫



心配事や愚痴を聞いてくれる人の有無については、18歳以上において「はい」が78.8%、「いいえ」が16.3%となっています。18歳未満においては「はい」が90.7%、「いいえ」が3.7%となっています。

(3) 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人はいますか(番号を1つだけ○で囲む)

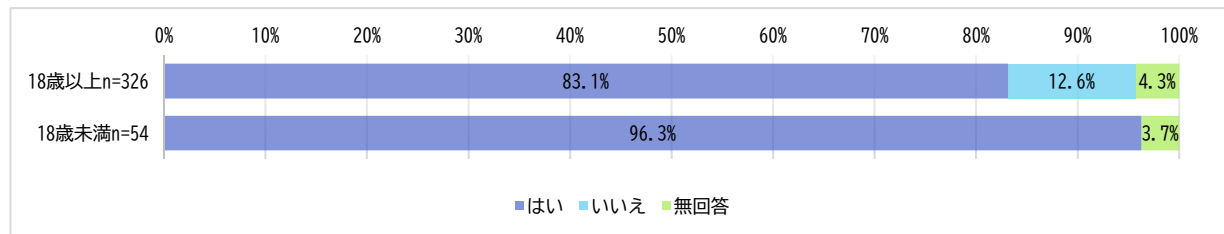
≪18歳以上：問19、18歳未満：問18≫



心配事や愚痴を聞いてあげる人の有無については、18歳以上において「はい」が60.7%、「いいえ」が32.2%となっています。18歳未満においては「はい」が48.1%、「いいえ」が46.3%となっています。

(4) 本人が病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人はいますか（番号を1つだけ○で囲む）

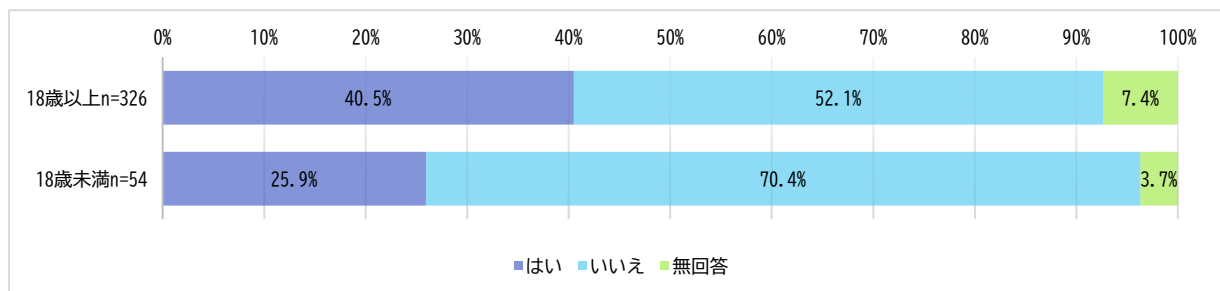
≪18歳以上：問20、18歳未満：問19≫



看病や世話をしてくれる人の有無については、18歳以上において「はい」が83.1%、「いいえ」が12.6%となっています。18歳未満においては「はい」が96.3%となっています。

(5) 反対に、看病や世話をしてあげる人はいますか。（番号を1つだけ○で囲む）

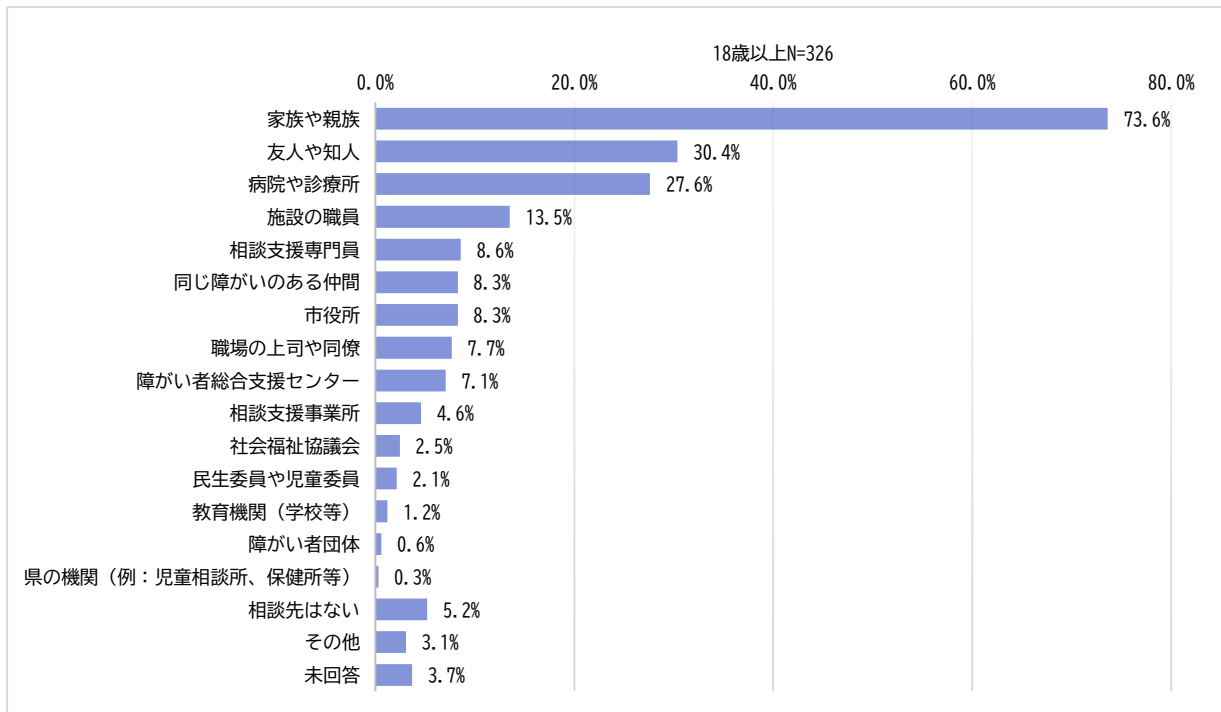
≪18歳以上：問21、18歳未満：問20≫



看病や世話をしてあげる人の有無については、18歳以上において「はい」が40.5%、「いいえ」が52.1%となっています。18歳未満においては「はい」が25.9%、「いいえ」が70.4%となっています。

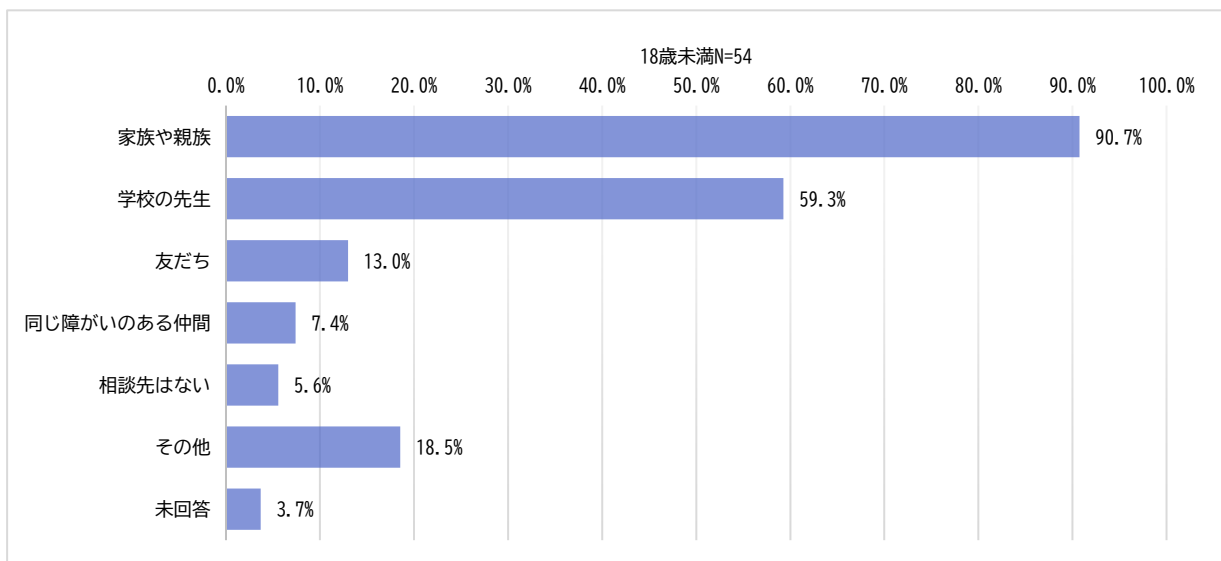
(6) あなた（本人）の悩みごとの相談先はどこですか。（番号を3つまで○で囲む）

≪18歳以上：問22≫



悩みごとの相談先は、18歳以上において「家族や親族」が73.6%と最も多く、次いで「友人や知人」が30.4%などとなっています。

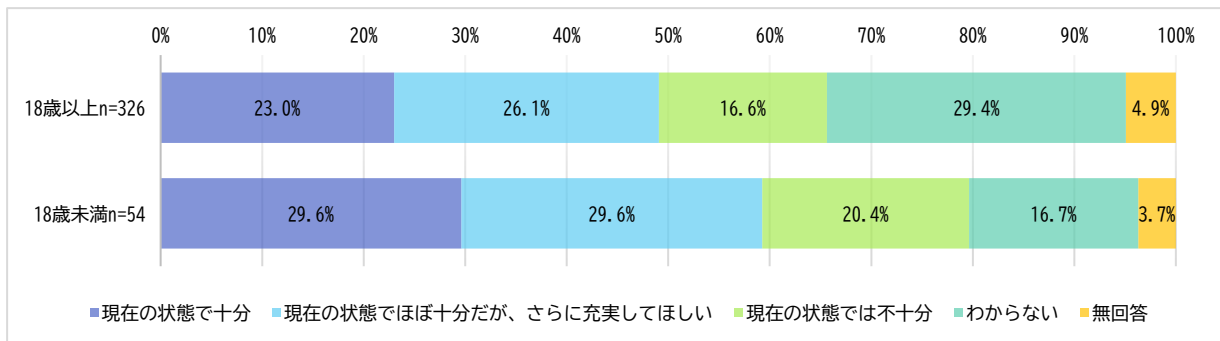
≪18歳以上：問22≫



悩みごとの相談先は、18歳未満において「家族や親族」が90.7%と最も多く、次いで「学校の先生」が59.3%となっています。

(7) 福祉や生活に関する相談支援体制は、現在のあなたにとって十分ですか。(番号を1つだけ○で囲む)

≪18歳以上：問23、18歳未満：問22≫



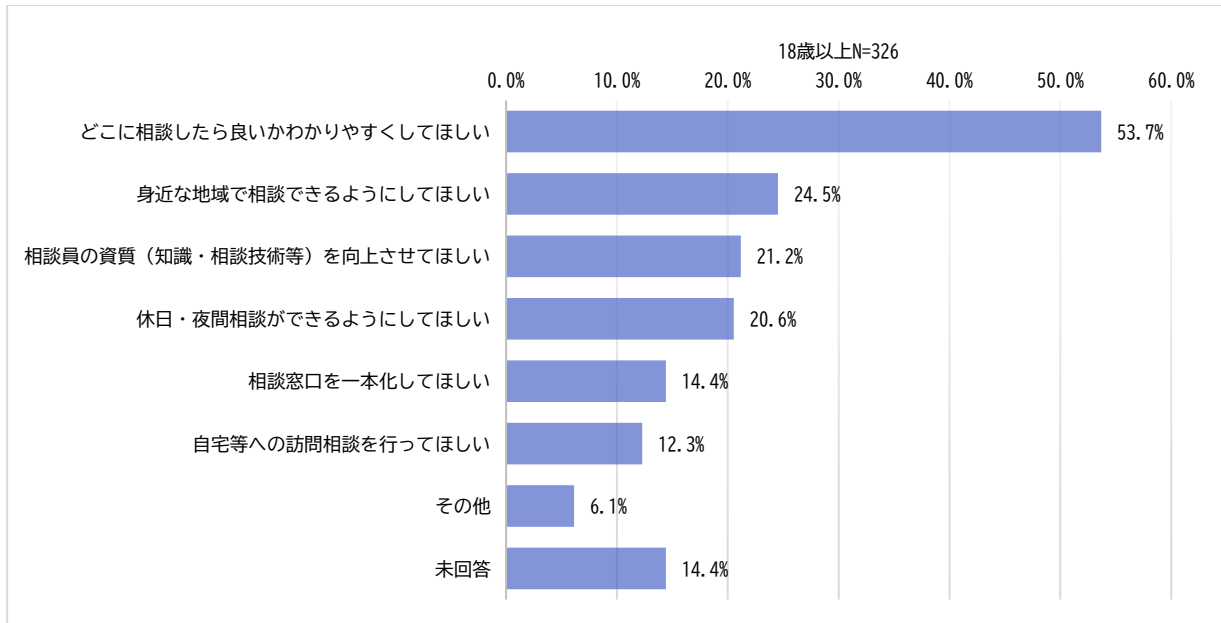
現在の相談支援体制が十分かどうかについては、18歳以上において、「わからない」が29.4%と最も多く、次いで「現在の状態でほぼ十分だが、さらに充実してほしい」が26.1%となっています。

18歳未満においては、「現在の状態で十分」「現在の状態でほぼ十分だが、さらに充実してほしい」が29.6%と最も多く、次いで「現在の状態では不十分」が20.4%となっています。

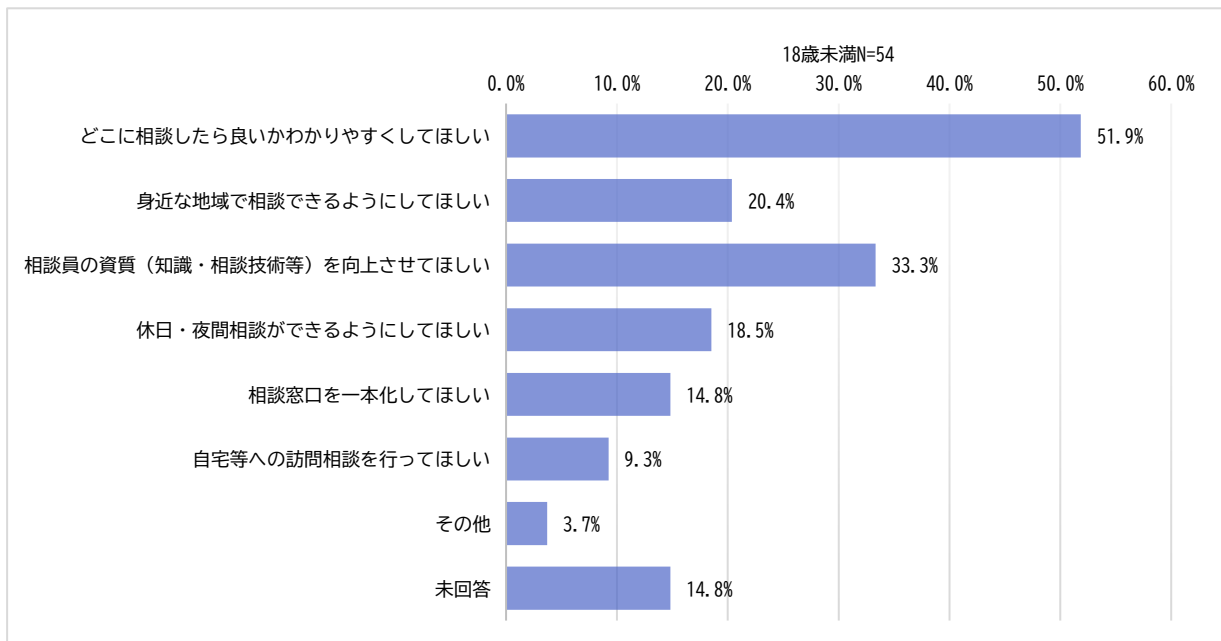
(8) あなた(本人)は福祉や生活に関する相談支援体制として、どのようなことを希望しますか。

(番号を3つまで○で囲む)

≪18歳以上：問24、18歳未満：問23≫



福祉や生活に関する相談支援体制で希望することは、18歳以上において「どこに相談したらいいかわかりやすくしてほしい」が53.7%と最も多く、次いで「身近な地域で相談できるようにしてほしい」が24.5%などとなっています。

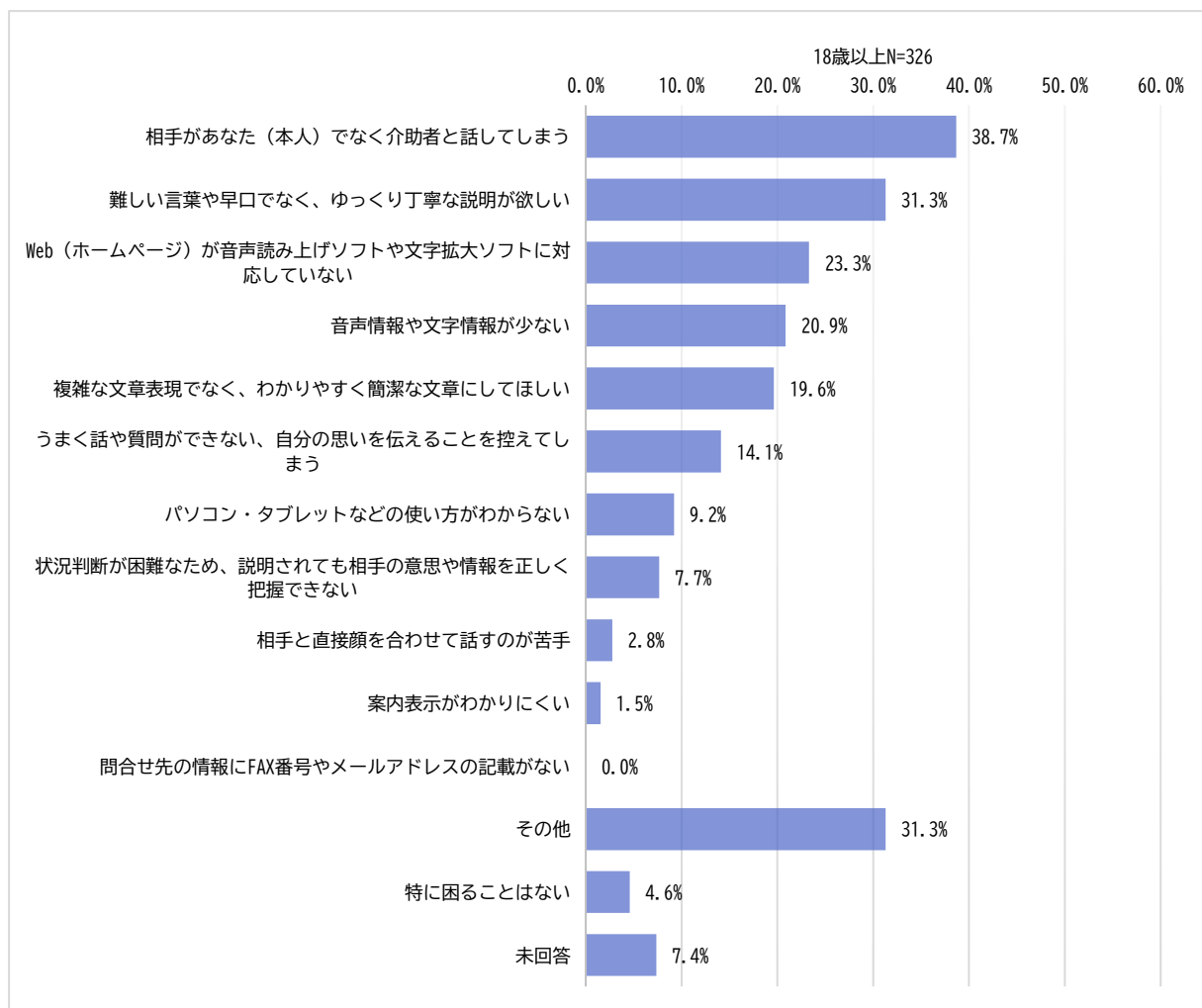


福祉や生活に関する相談支援体制で希望することは、18歳未満において「どこに相談したらいいかわかりやすくしてほしい」が51.9%と最も多く、次いで「相談員の資質(知識・相談技術等)を向上させてほしい」が33.3%などとなっています。

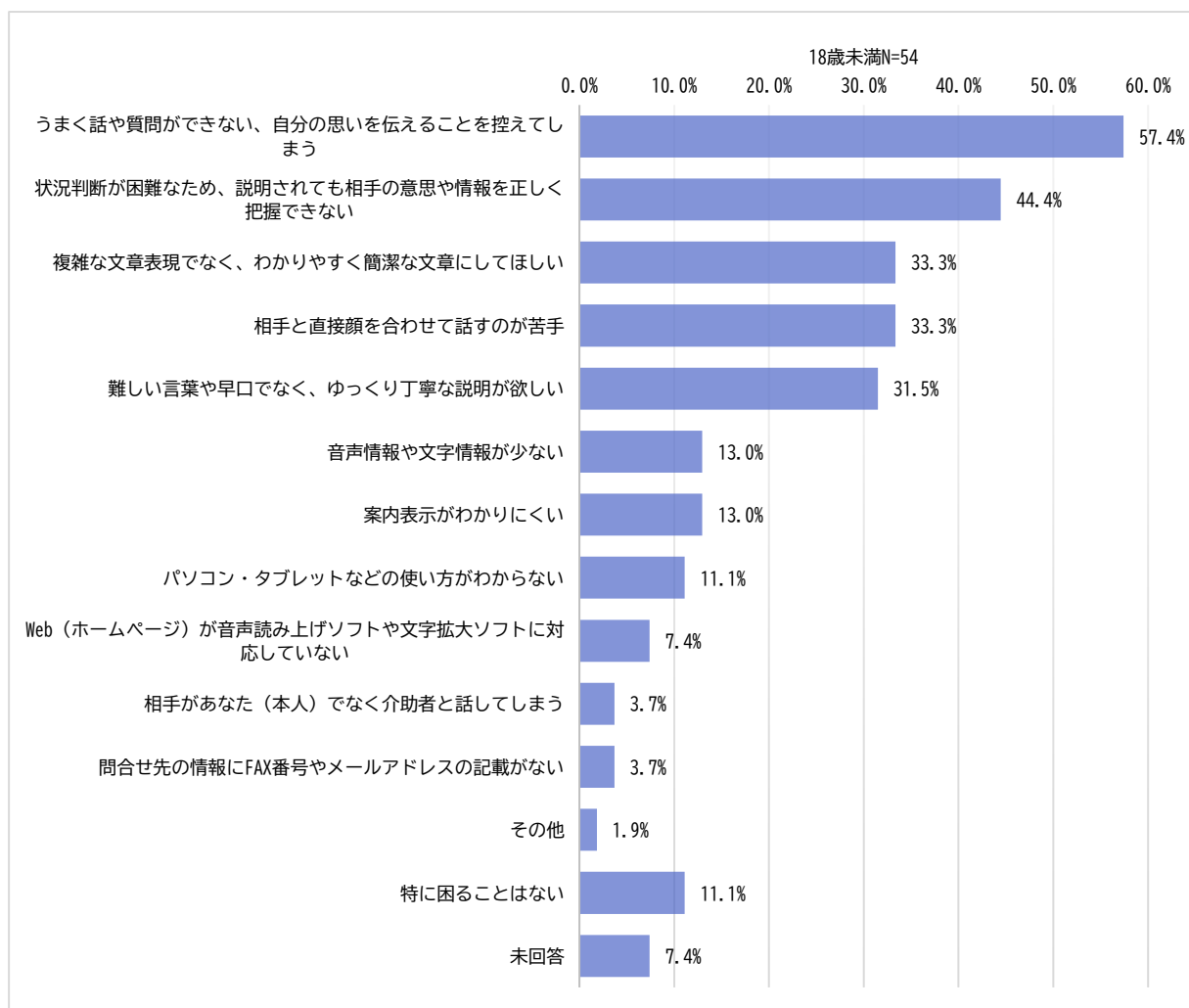
(9) あなた（本人）が情報入手したり、コミュニケーションをとるうえで困ることはありますか。

(当てはまる番号をすべて○で囲む)

≪18歳以上：問25、18歳未満：問24≫



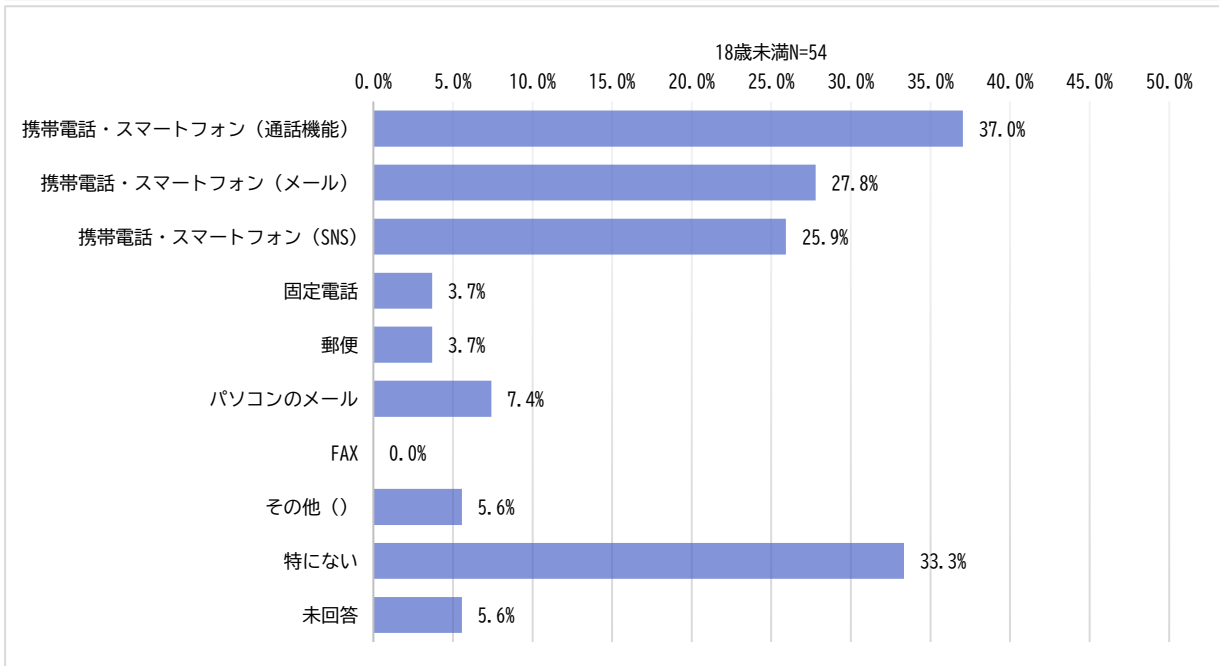
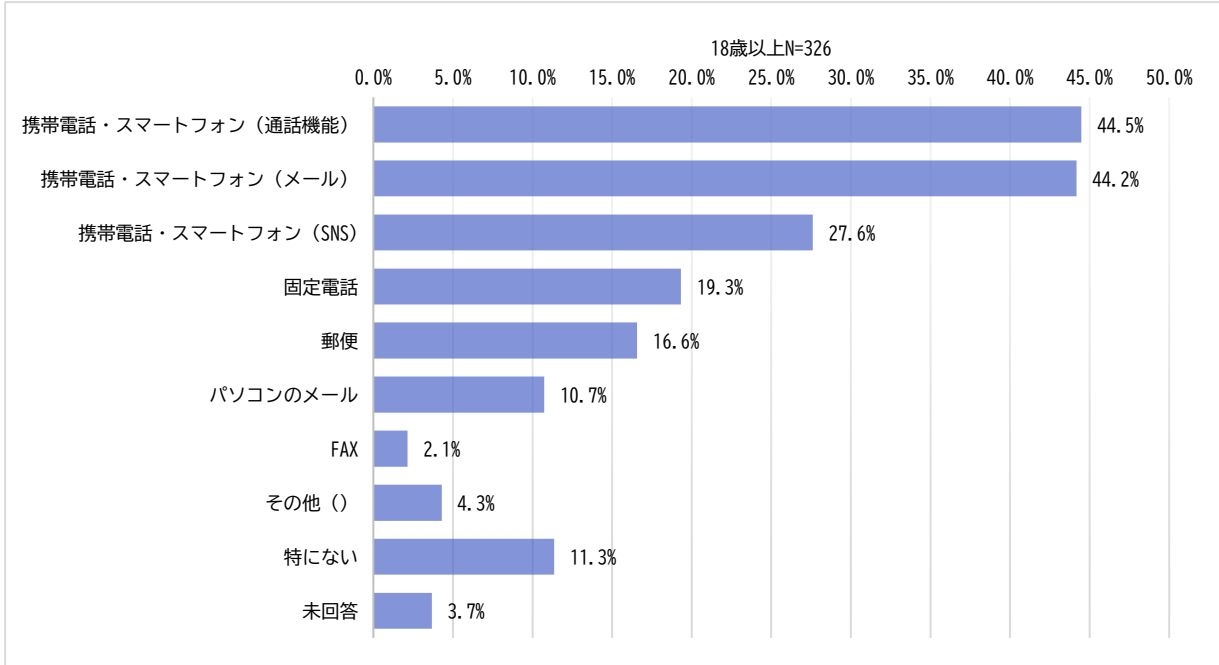
情報入手したり、コミュニケーションをとったりするうえで困ることは、18歳以上において「相手があなた（本人）ではなく介助者と話してしまう」が38.7%と最も多く、次いで「難しい言葉や早口でなく、ゆっくり丁寧な説明が欲しい」が31.3%などとなっています。



情報を入力したり、コミュニケーションをとったりするうえで困ることは、18歳未満において「うまく話や質問ができない、自分の思いを伝えることを控えてしまう」が57.4%と最も多く、次いで「状況判断が困難なため、説明されても相手の意思や情報を正しく把握できない」が44.4%などとなっています。

(10) よく利用する情報通信手段はどれですか。(当てはまる番号すべてを○で囲む)

≪18歳以上：問26、18歳未満：問25≫



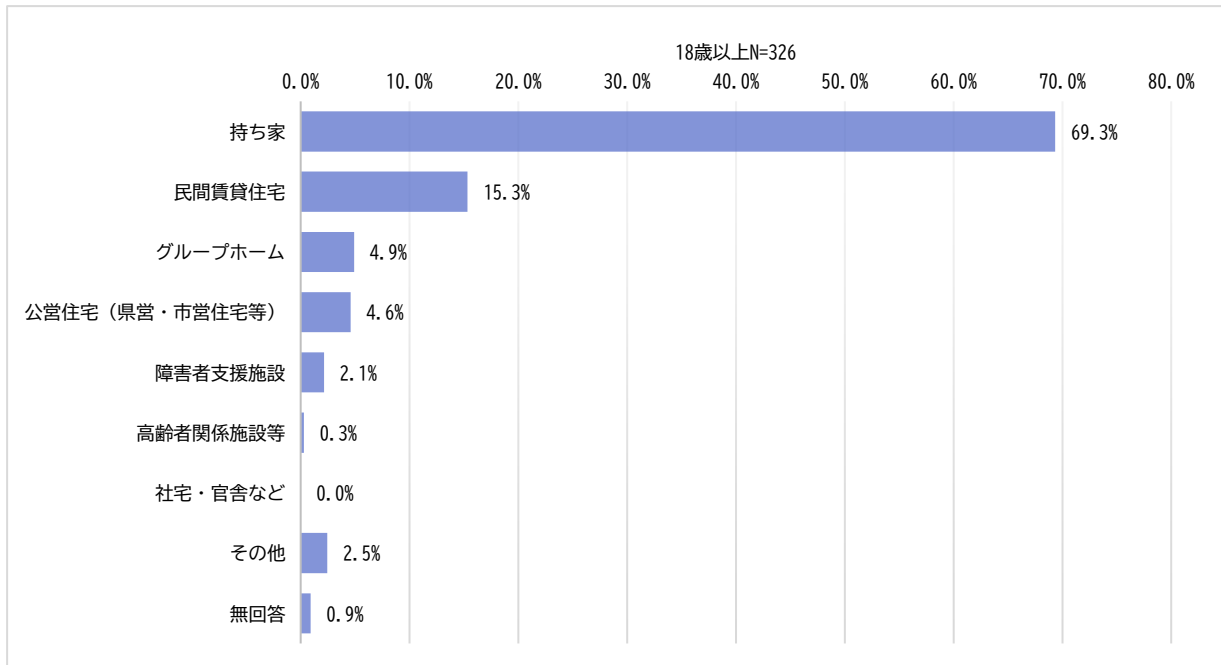
よく利用する情報通信手段は、18歳以上において「携帯電話・スマートフォン（通話機能）」が44.5%と最も多く、次いで「携帯電話・スマートフォン（メール）」が44.2%などとなっています。

18歳未満においても「携帯電話・スマートフォン（通話機能）」が37.0%と最も多く、次いで「携帯電話・スマートフォン（メール）」が27.8%などとなっている一方、「特にない」が33.3%を占めています。

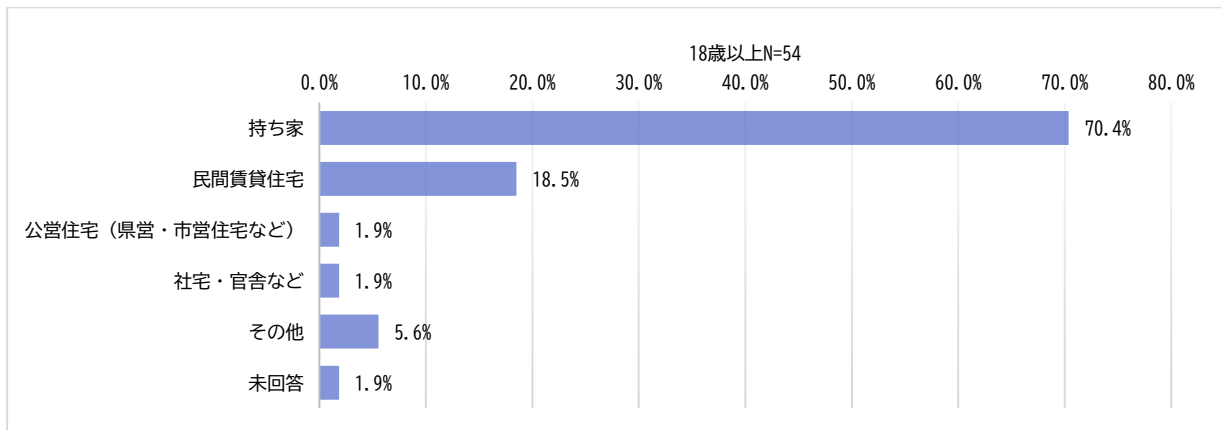
●暮らしについて

(1) あなた（本人）は現在、どこで暮らしていますか。（番号を1つだけ○で囲む）

≪18歳以上：問27、18歳未満：問26≫



現在の住まいは、18歳以上において「持ち家」が69.3%と最も多く、次いで「民間賃貸住宅」が15.3%となっています。

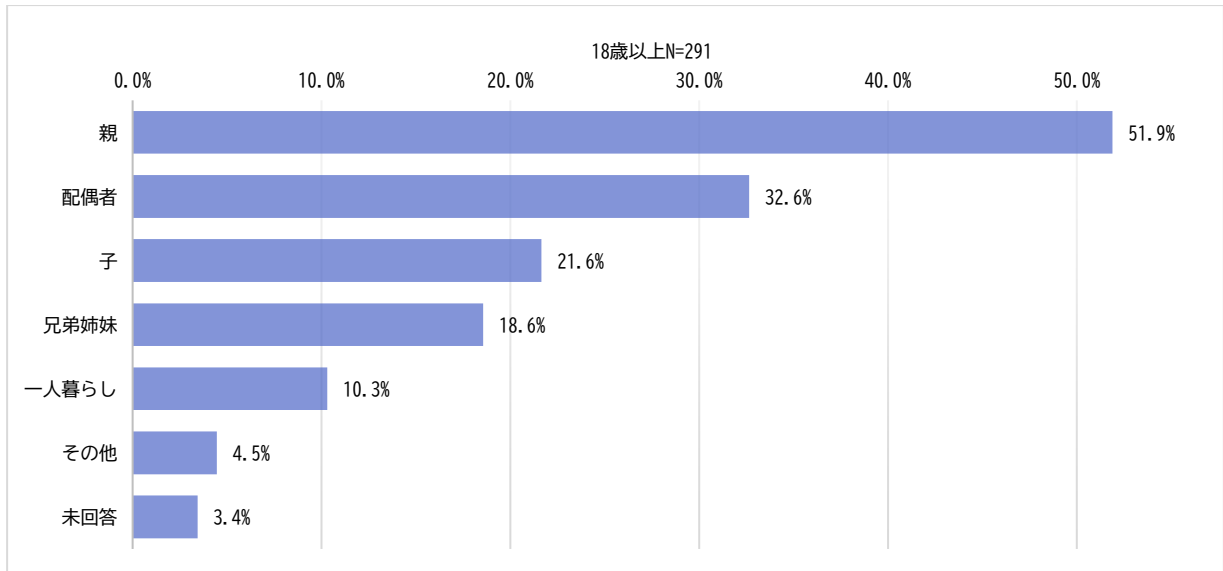


現在の住まいは、18歳未満において「持ち家」が70.4%と最も多く、次いで「民間賃貸住宅」が18.5%となっています。

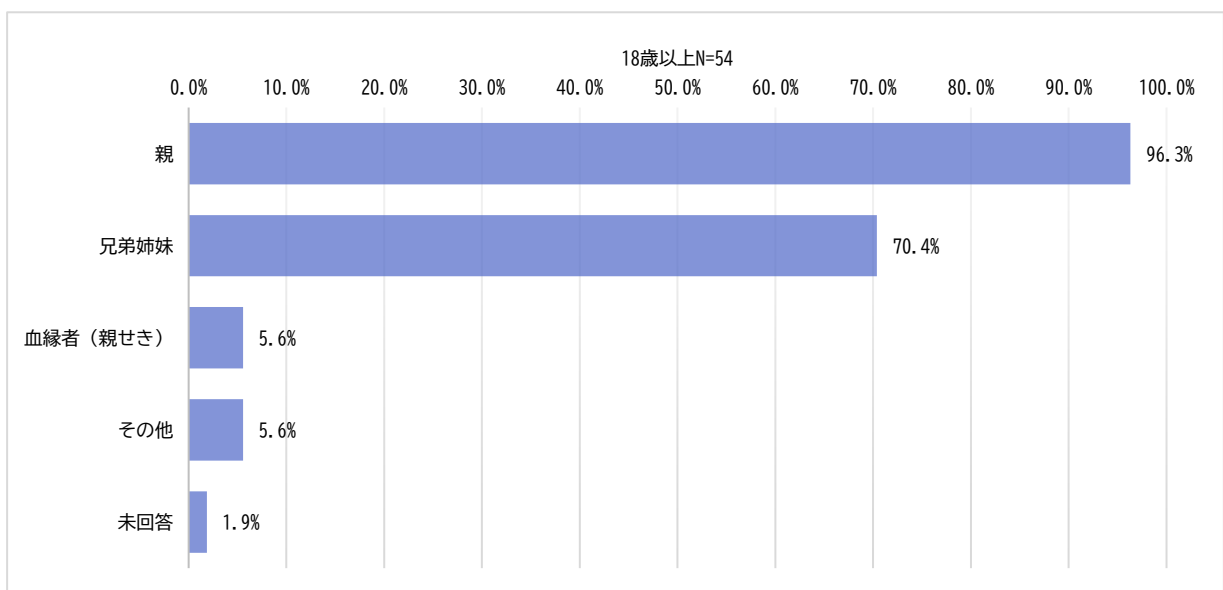
(1) で「持ち家」「民間賃貸住宅」「公営住宅(県営・市営住宅等)」「社宅・官舎等」を選んだ方のみ

(2) あなた(本人)はだれと暮らしていますか。(当てはまる番号をすべて○で囲む)

≪18歳以上：問28、18歳未満：問27≫



一緒に暮らしている人は、18歳以上において「親」が51.9%と最も多く、次いで「配偶者」が32.6%などとなっています。



一緒に暮らしている人は、18歳未満において「親」が96.3%と最も多くなっています。

(1) で「障害者支援施設」を選んだ方のみ

(3) あなた（本人）は今後、どのように暮らしたいですか。（番号を1つだけ○で囲む）

≪18歳以上：問29≫

将来希望する暮らし方は、全体（7名）において、「今の施設で引き続き暮らしたい」が4名、未回答が3名となっています。

※回答者数（件数）が15件未満で回答の標本誤差が大きくなることから、18歳以上：問29についてはグラフ及び集計表の掲載を割愛しています。

(1) で「障害者支援施設」を選んだ方のみ

(4) 障害者支援施設以外で暮らすためには、どのようなことが必要だと思いますか。

（当てはまる番号をすべて○で囲む）

≪18歳以上：問30≫

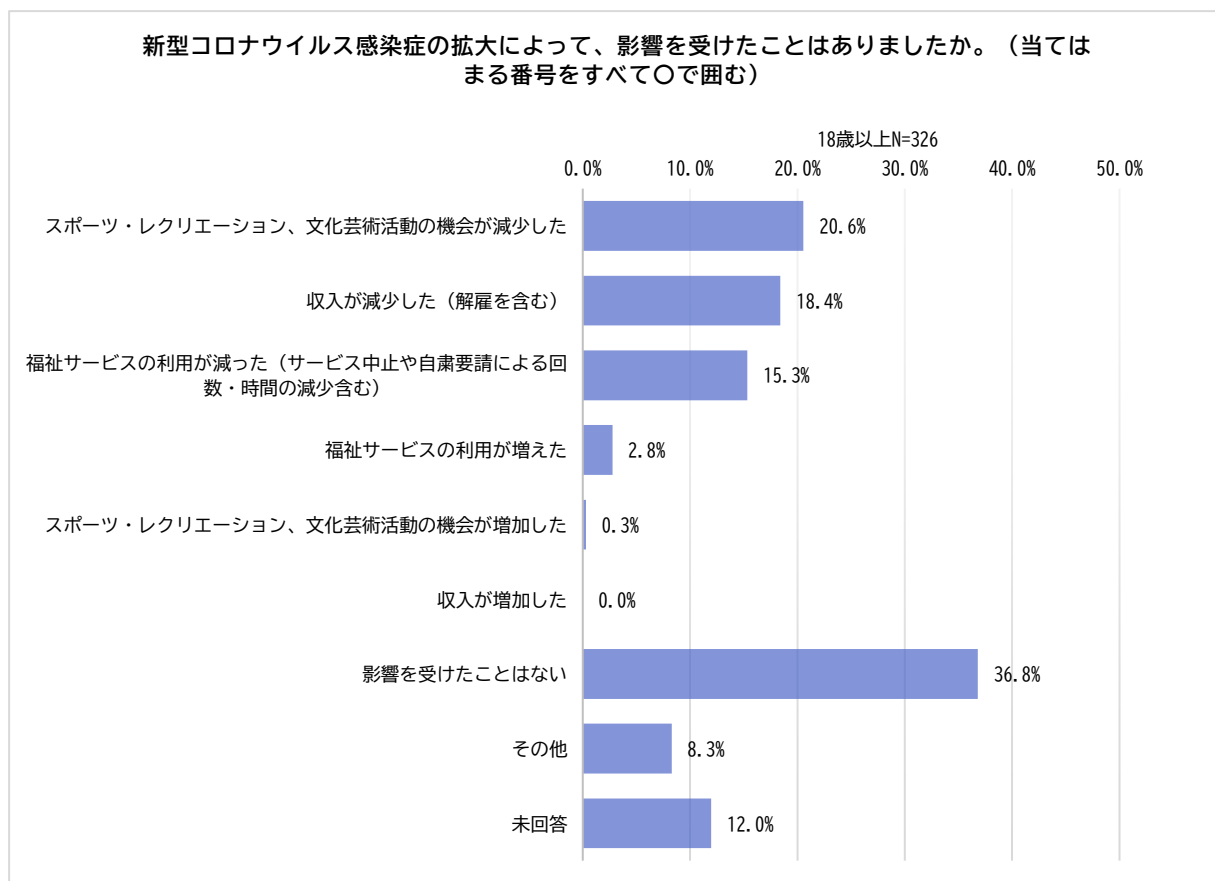
	全体	家族の理解	働いて収入を得られること	困ったときに相談できる人がいること（場所があること）	地域での障がいへの理解	居宅介護、短期入所等のサービスの充実	グループホームの整備の促進	賃貸住宅への入居に関する配慮（保証人の確保、入居要件の緩和等）	その他	未回答
全体	7 100.0 %	4 57.1%	2 28.6%	5 71.4%	2 28.6%	1 14.3%	2 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%

障害者支援施設以外で暮らすために必要だと思うことは、上記集計表のとおりとなっています。

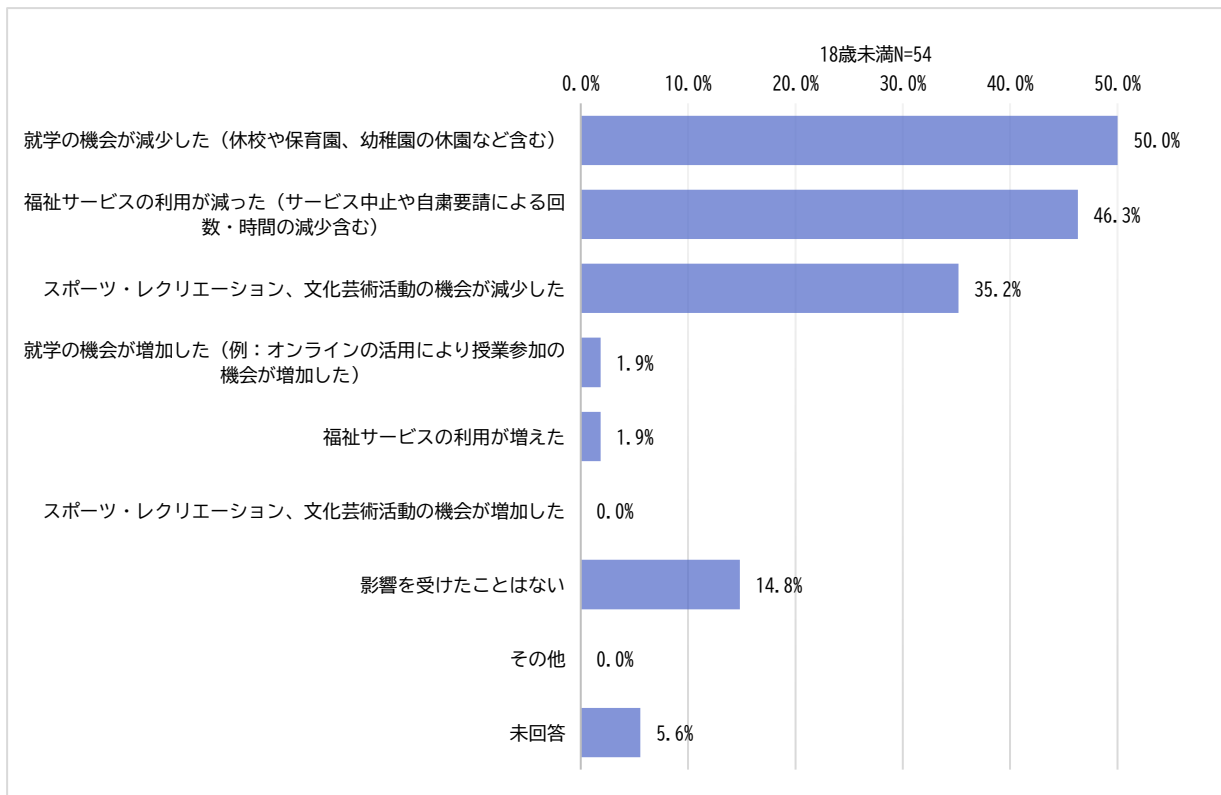
(5) 新型コロナウイルス感染症の拡大によって、影響を受けたことはありませんか。

(当てはまる番号をすべて○で囲む)

≪18歳以上：問31≫



新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことは、18歳以上において「スポーツ・レクリエーション、文化芸術活動の機会が減少した」が20.6%と最も多く、次いで「収入が減少した（解雇を含む）」が18.4%となっている一方、「影響を受けたことがない」が36.8%となっています。

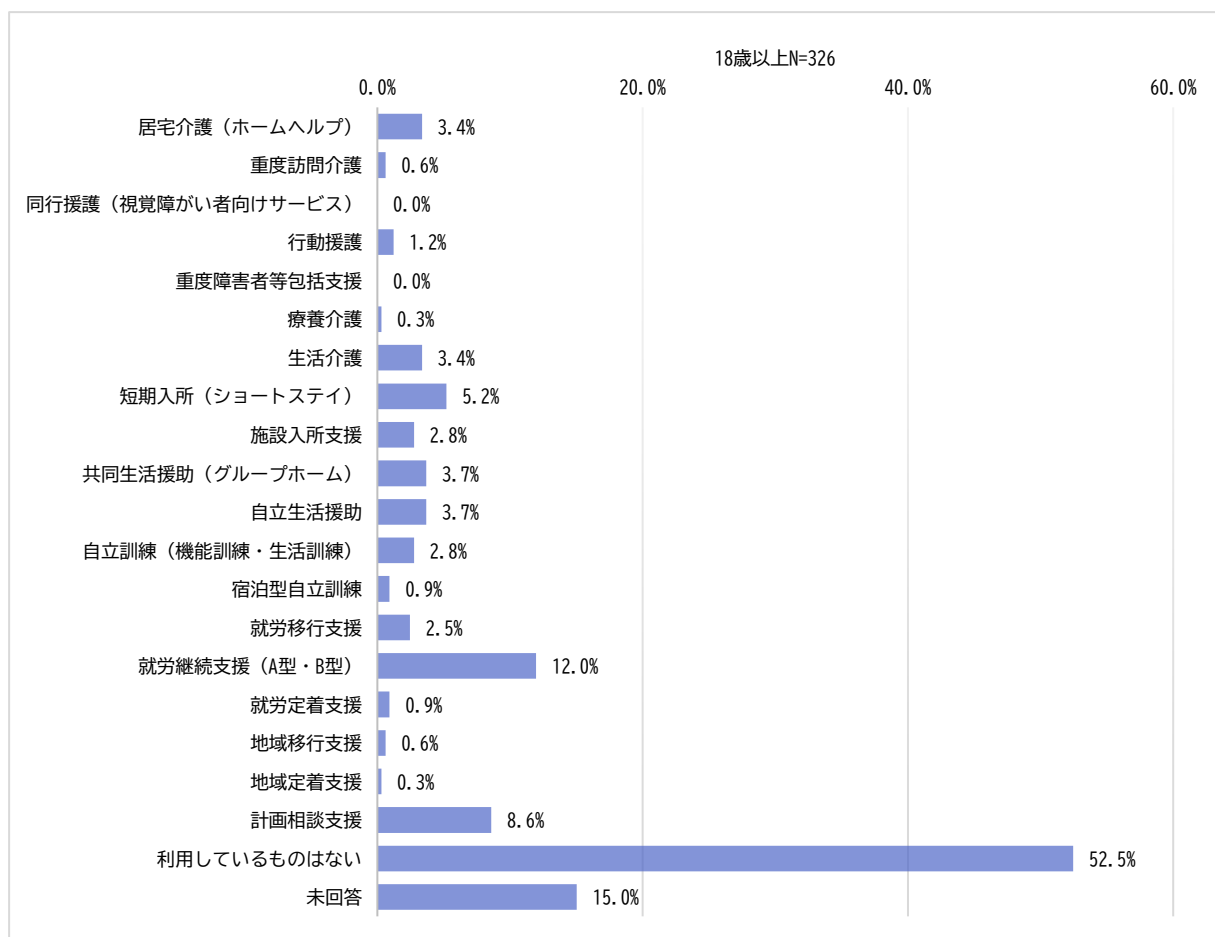


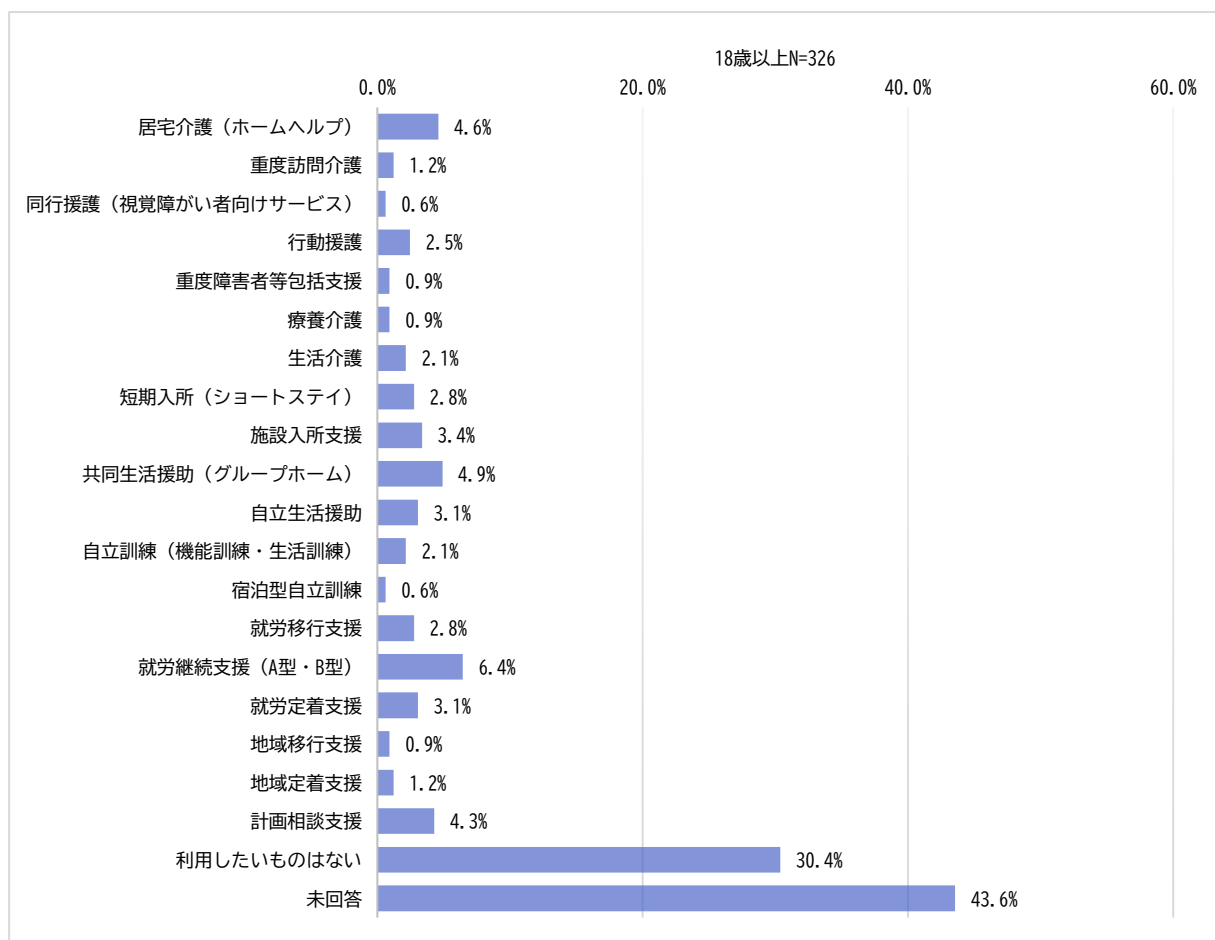
新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことは、18歳未満において「就学の機会が減少した（休校や保育園、幼稚園の休園なども含む）」が50.0%と最も多く、次いで「福祉サービスの利用が減った（サービス中止や自粛要請による回数・時間の減少含む）」が46.3%などとなっています。

●障害福祉サービスの利用について

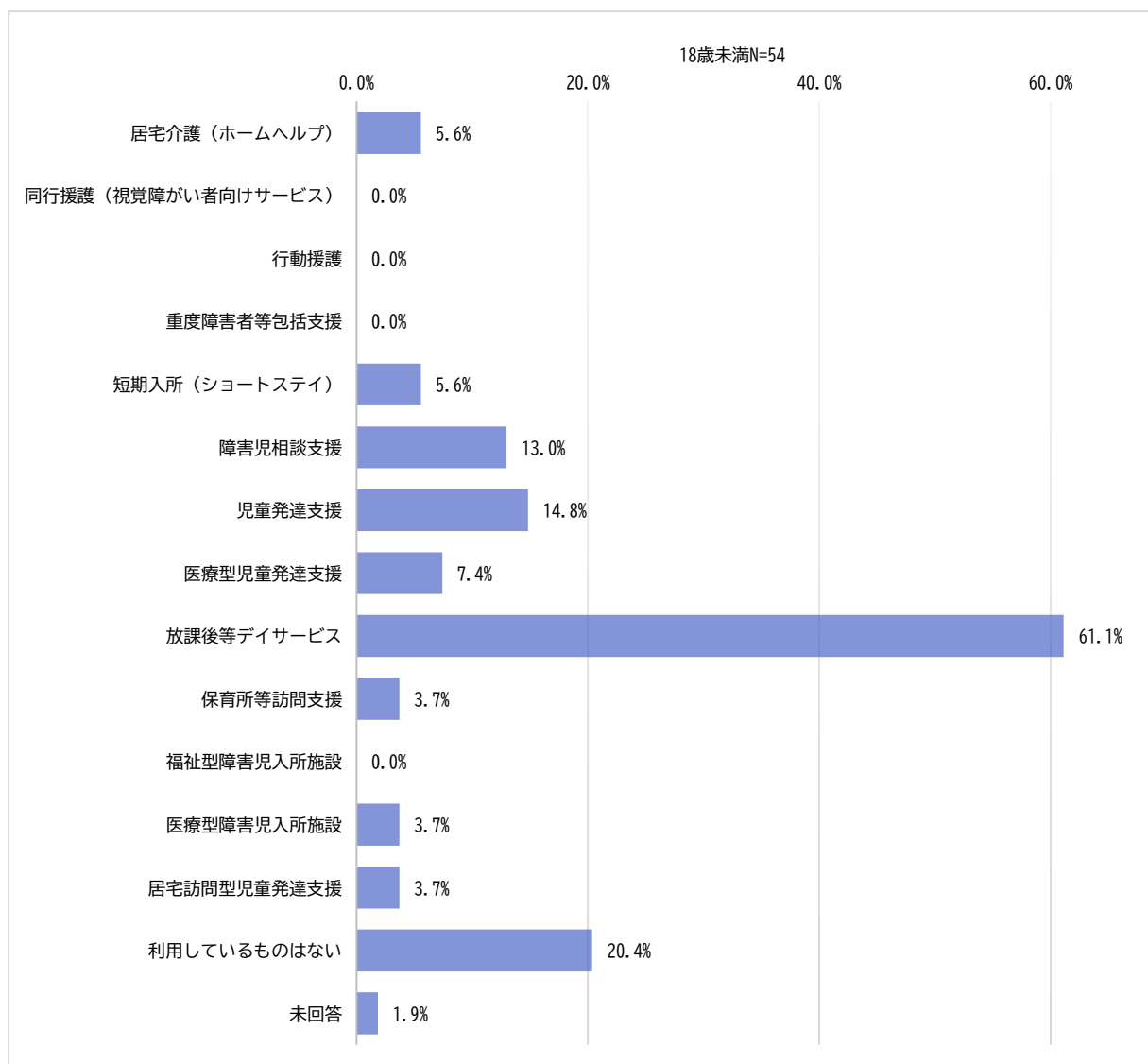
(1) あなた(本人)は現在、どのような障害福祉サービスを利用していますか。また、今後利用したいサービスはありますか。(当てはまる番号をすべて○で囲む)

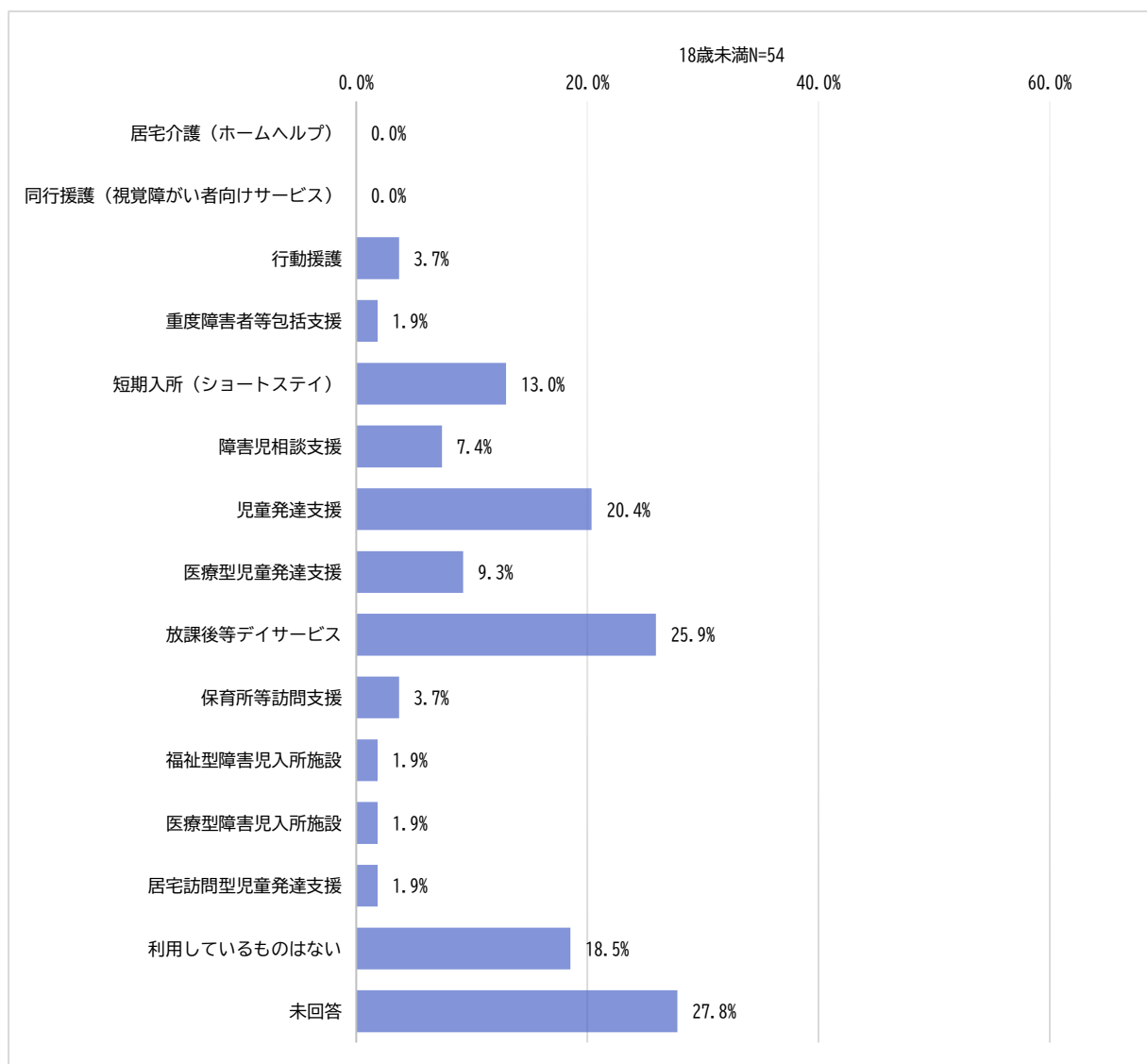
≪18歳以上：問32-1・32-2≫





障害福祉サービスについて、現在利用しているサービスは、「就労継続支援 (A型・B型)」が12.0%と最も多く、次いで「計画相談支援」が8.6%となっている一方、「利用しているものはない」が52.5%を占めています。今後利用したいサービスは「就労継続支援 (A型・B型)」が6.1%と最も多く、次いで「共同生活援助 (グループホーム)」が4.9%となっている一方、「利用したいものはない」が30.4%となっています。



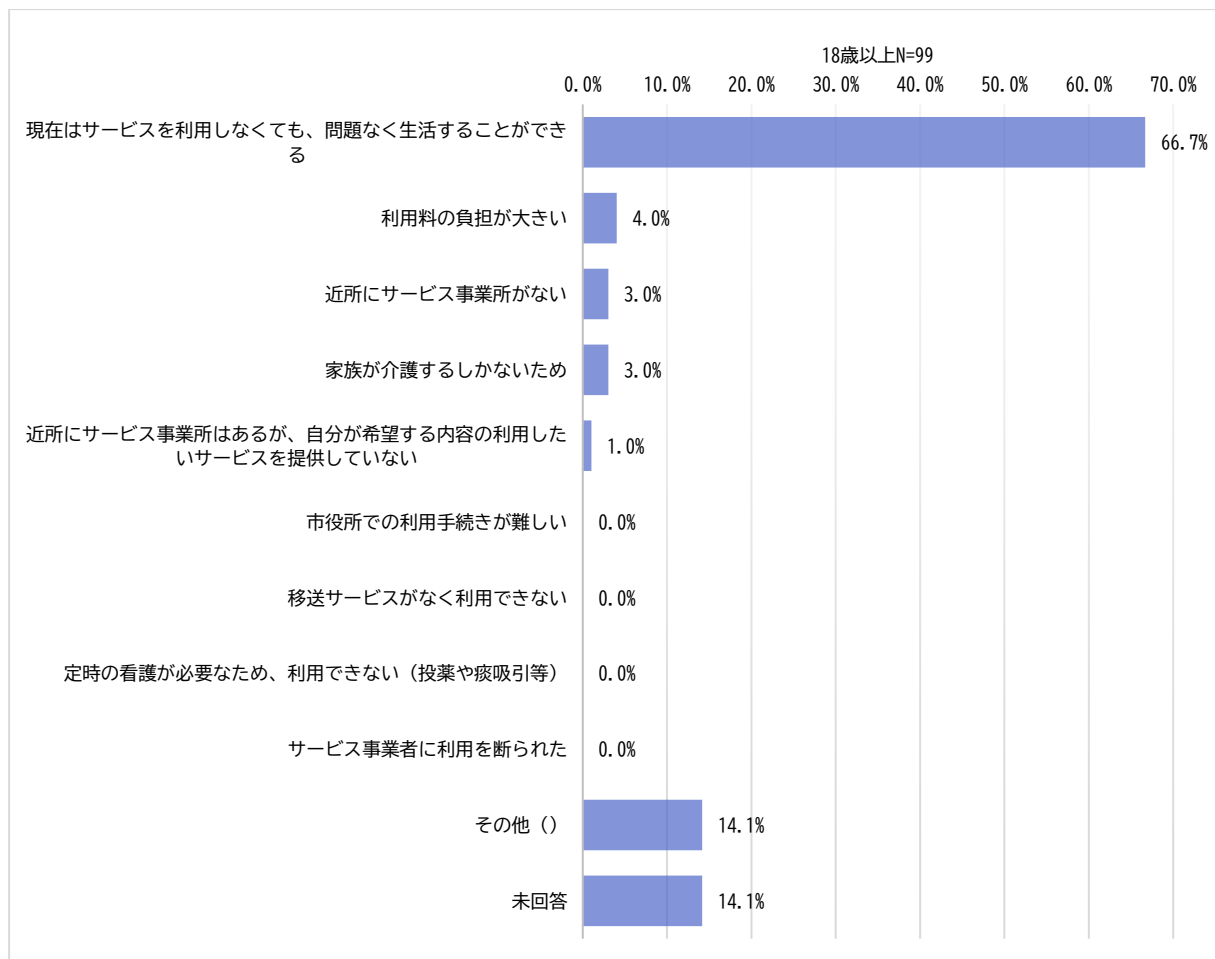


障害福祉サービスについて、現在利用しているサービスは、「放課後等デイサービス」が 25.9%と最も多く、次いで「児童発達支援」が 20.4%となっている一方、「利用しているものはない」が 18.5%を占めています。今後利用したいサービスは「放課後等デイサービス」が 25.9%と最も多く、次いで「児童発達支援」が 20.4%となっています。

(1) で「利用しているものはない」を選んだ方のみ

(2) 現在、サービスを利用していない理由は何ですか。(当てはまる番号をすべて○で囲む)

《18歳以上：問33》



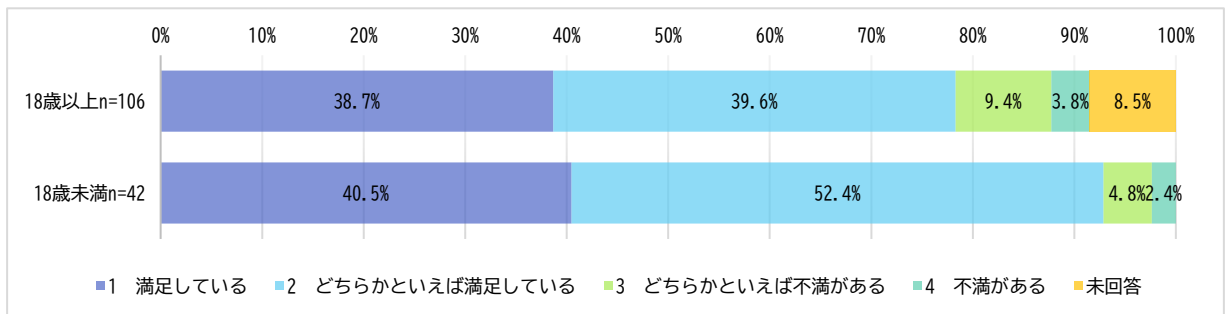
現在、サービスを利用していない理由は、18歳以上において「現在はサービスを利用しなくても、問題なく生活することができる」が66.7%と最も多く、次いで「利用料の負担が大きい」が4.0%となっています。

	全体	現在も、問題はサービスを利用しなくても生活することができ	市役所での利用手続きが難しい	近所にサービス事業所がない	移送サービスがなく利用できない	利用料の負担が大きい	近所にサービス事業所はあるが、自分が希望する内容の提供していない	家族が介護するしかないため	定時の看護が必要なため、利用できない（投薬や痰吸引等）	サービス事業者を利用を断られた	その他（）	未回答
全体	11 100.0%	7 63.6%	1 9.1%	1 9.1%	1 9.1%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%	1 9.1%

現在、サービスを利用していない理由は、上記集計表のとおりとなっています。

※18歳未満においては、回答数が15件以下であり回答の標本誤差が大きくなることから、グラフを割愛し、集計表を掲載しています。

(3) 18歳以上：問34・18歳未満：問50で利用しているサービスに満足していますか。
(番号を1つだけ○で囲む)



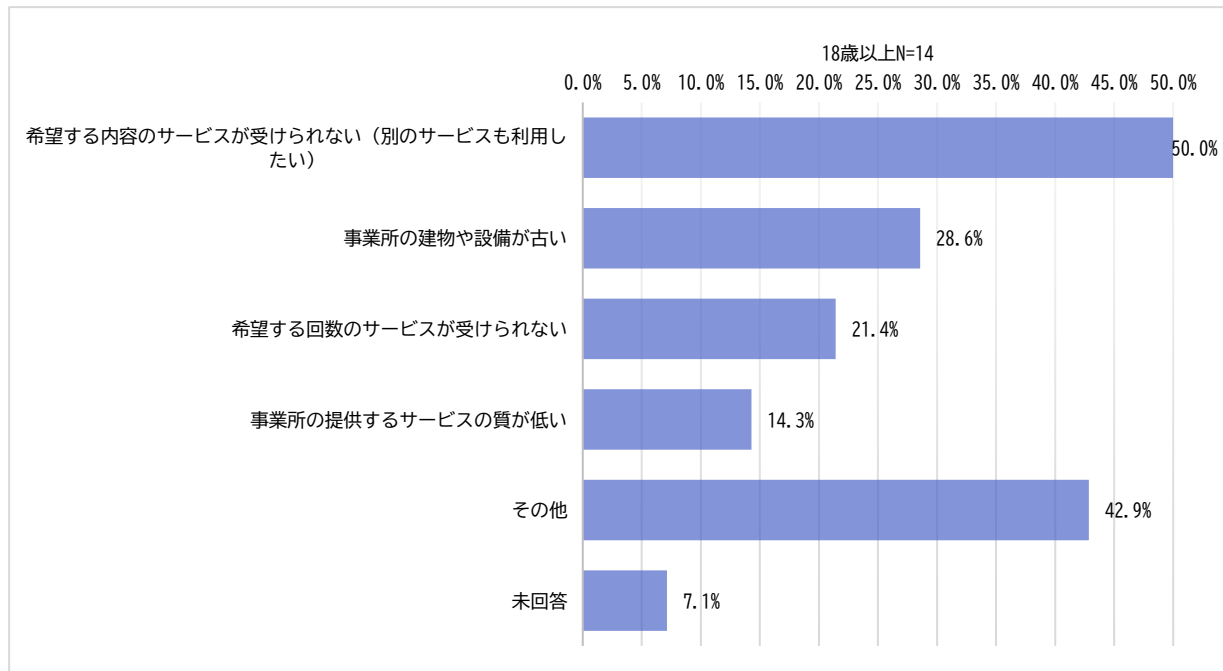
利用しているサービスの満足度は、18歳以上において「どちらかといえば満足している」が39.6%と最も多く、次いで「満足している」が38.7%などとなっています。

18歳未満においては「どちらかといえば満足している」が52.4%と最も多く、次いで「満足している」が40.5%となっています。

18歳以上：問35・18歳未満：問51「どちらかといえば不満がある」又は、「不満がある」を選んだ方のみ。

(4) どのような点に不満をお持ちですか。(当てはまる番号をすべて○で囲む)

≪18歳以上：問35≫



≪18歳未満：問51≫

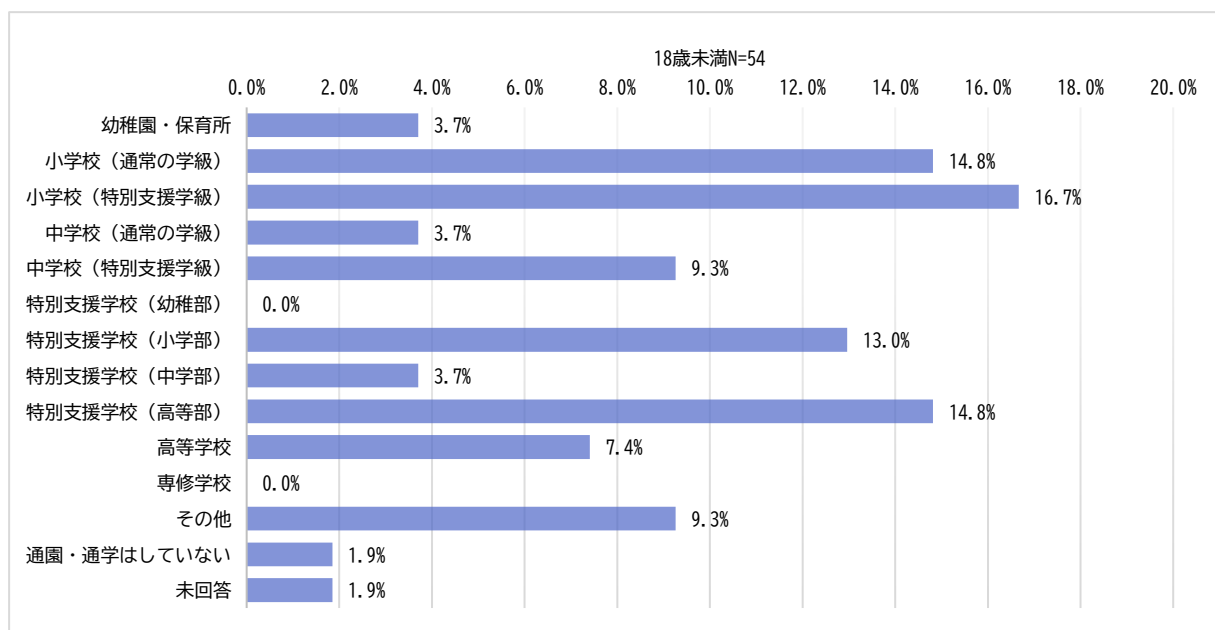
※18歳未満においては、回答数が5件以下であり回答の標本誤差が大きくなることから、グラフ・集計表の掲載を割愛します。

●教育について

問 33～36 は 18 歳未満の調査対象者のみ回答

(1) 現在、通園・通学していますか。(番号を1つだけ○で囲む)

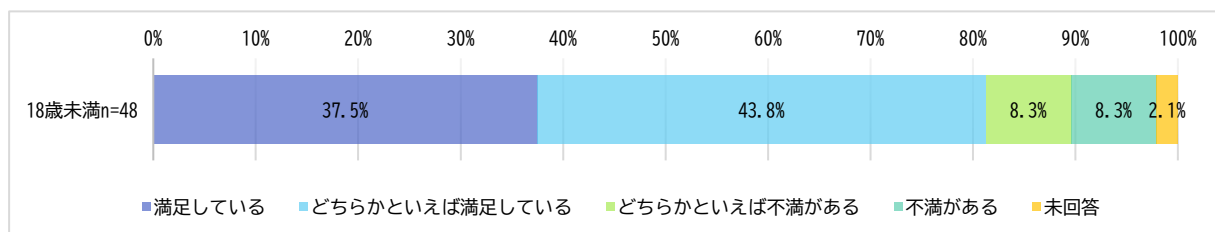
≪18 歳未満：問 33≫



通学の有無は、18 歳未満において「小学校(特別支援学級)」が 16.7%と最も多く、次いで「小学校(通常の学級)」「特別支援学校(高等部)」が 14.8%などとなっています。

(2) 学校などの教育や支援、配慮などについて満足していますか。

≪18 歳未満：問 34≫



学校等の教育や支援、配慮などについての満足度は「どちらかといえば満足している」が 43.8%と最も多く、次いで「満足している」が 37.5%などとなっています。

18歳未満：問34で「どちらかといえば満足している」又は「不満がある」を選んだ方（学校等の教育などに不満がある方）のみ

(3) どのような点に不満をお持ちですか。(当てはまる番号をすべて○で囲む)

◀18歳未満：問35▶

	全 体	設 備 が な ど に ・ 障 不 十 分 に で 応 じ た	学 校 な ど に ・ 障 不 十 分 に で 対 する	教 員 の ・ 障 不 十 分 に で 対 する	解 説 の ・ 障 不 十 分 に で 対 する	ら れ て い る な い 育 ・ 支 援 が 受 け	希 望 す る 教 育 ・ 支 援 が 受 け	い 通 園 ・ 十 分 の 手 助 け が な	が 希 望 す る 学 校 な ど へ の 就 学	そ の 他
全体	8	3	5	3	0	1	1			
	100.0%	37.5%	62.5%	37.5%	0.0%	12.5%	12.5%			

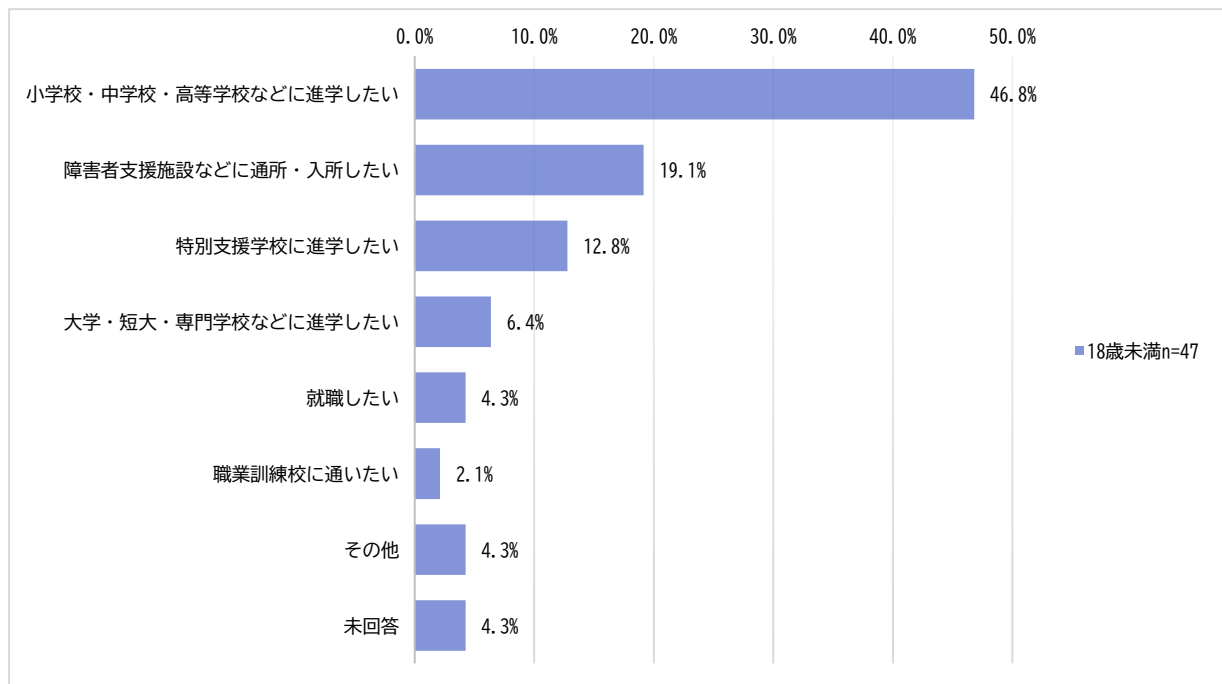
不満を持っている点は、上記集計表のとおりとなっています。

※ 回答者数（件数）が15件未満で回答の標本誤差が大きくなることから、グラフを割愛し、集計表を掲載しています。

現在、通園・通学している方（問 33 で「幼稚園・保育所」～「専修学校等」を選んだ方）のみ

（４） 卒園・卒業後の進路をどう考えていますか。（番号を１つだけ○で囲む）

≪18歳未満：問 35≫



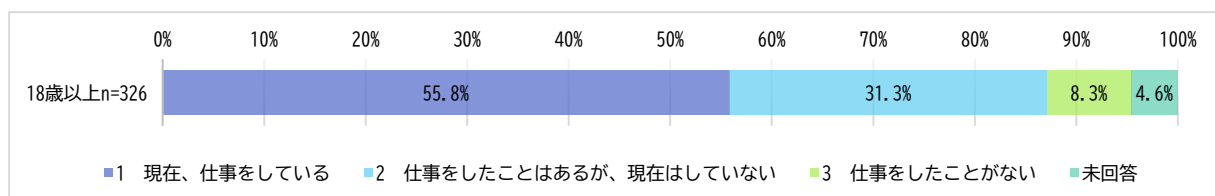
卒園・卒業後の進路は、18歳未満において「小学校・中学校・高等学校などに進学したい」が46.8%と最も多く、次いで「障害者支援施設などに通所・入所したい」が19.1%などとなっています。

●就労について

問 36～40 は 18 歳以上の調査対象者のみ回答

(1) これまでに仕事をしたことがありますか。(番号を1つだけ○で囲む)

≪18歳以上：問36≫

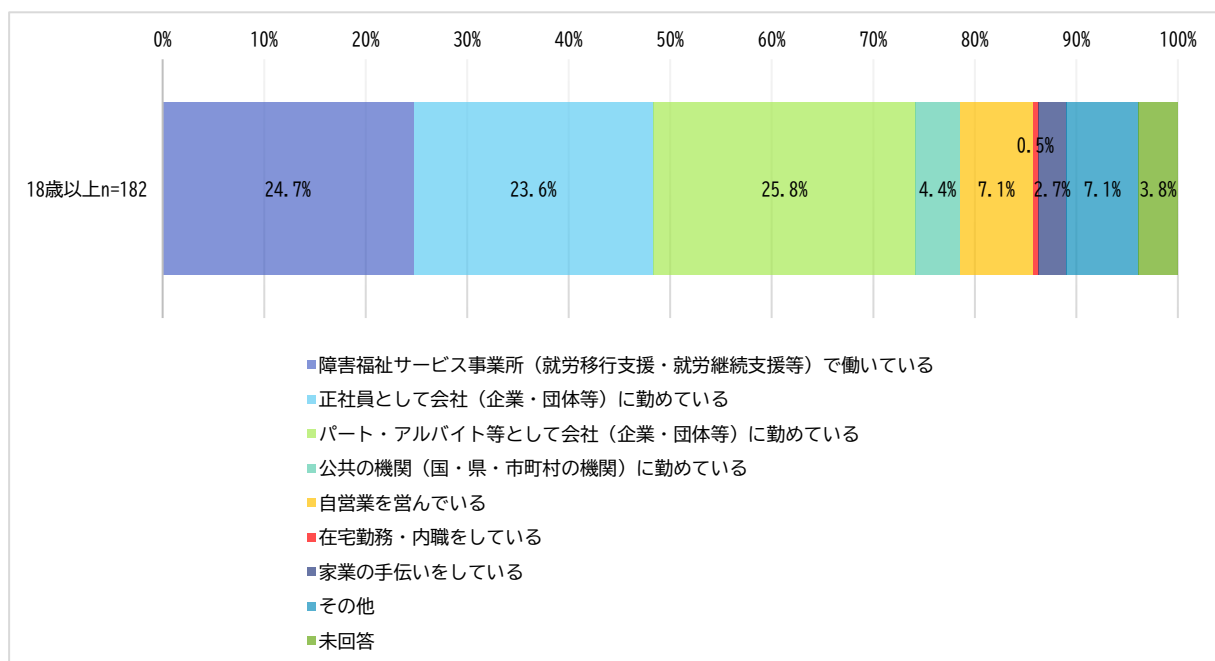


これまで仕事をしたことがあるかどうかについては、「現在仕事をしている」が55.8%で最も多く、次いで「仕事をしたことがあるが、現在はしていない」が31.3%となっています。

問 36 で「現在、仕事をしている」を選んだ方のみ

(2) どのような仕事をしていますか。(番号を1つだけ○で囲む)

≪18歳以上：問37≫

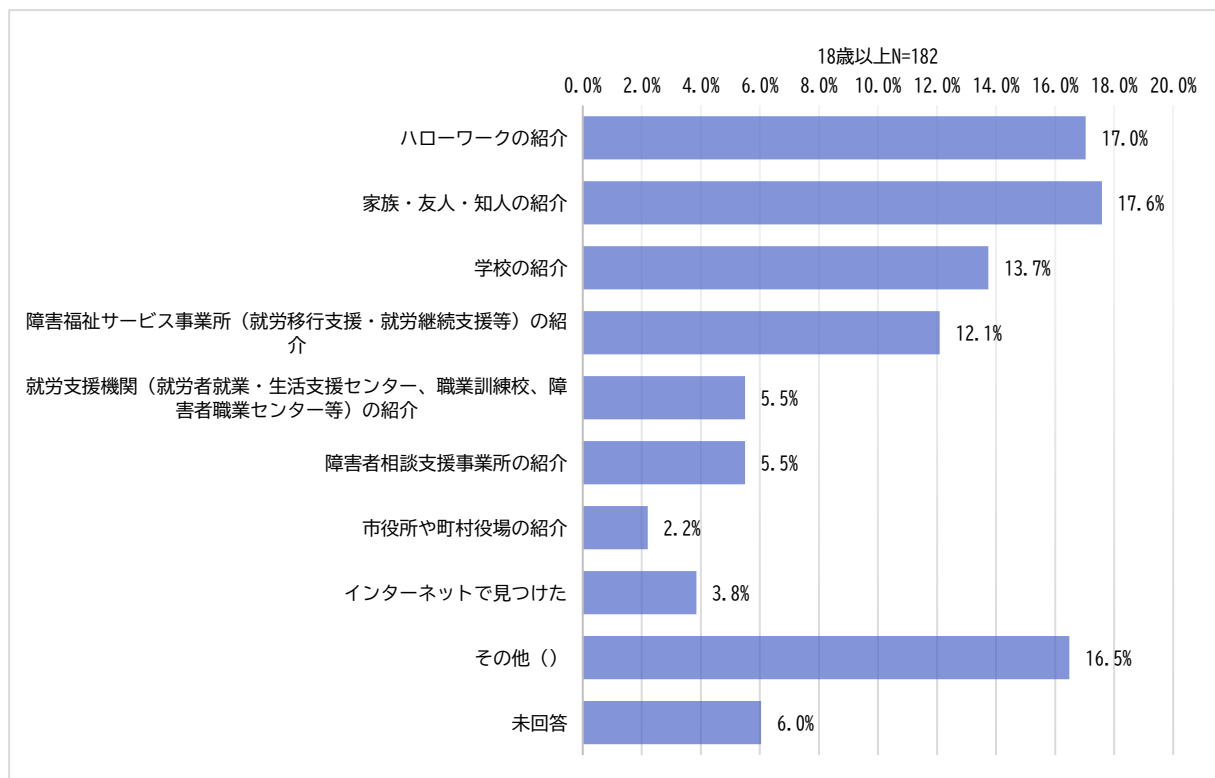


仕事の内容は、「パート・アルバイト等として会社（企業・団体等）に勤めている」が25.8%と最も多く、次いで「障害福祉サービス事業所（就労移行支援・就労継続支援等）で働いている」が23.6%などとなっています。

問 36 で「現在、仕事をしている」を選んだ方のみ

(3) 現在の仕事をどのように見つけましたか。(番号を1つだけ○で囲む)

≪18歳以上：問 38≫

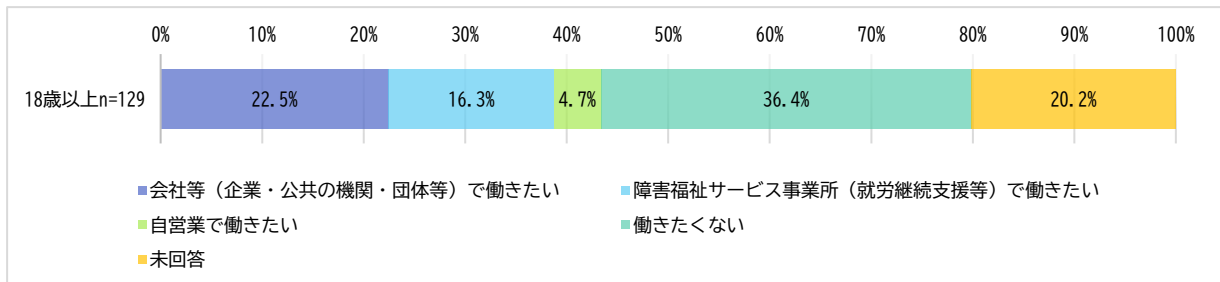


現在の仕事をどのように見つけたかについては、「家族・友人・知人の紹介」が 17.6%と最も多く、次いで「ハローワークの紹介」が 17.0%などとなっています。

問 36 で「仕事をしたことがあるが、現在はしていない」又は「仕事をしたことがない」を選んだ方のみ

(4) 現在の仕事をどのように見つけましたか。(番号を1つだけ○で囲む)

≪18歳以上：問 39≫

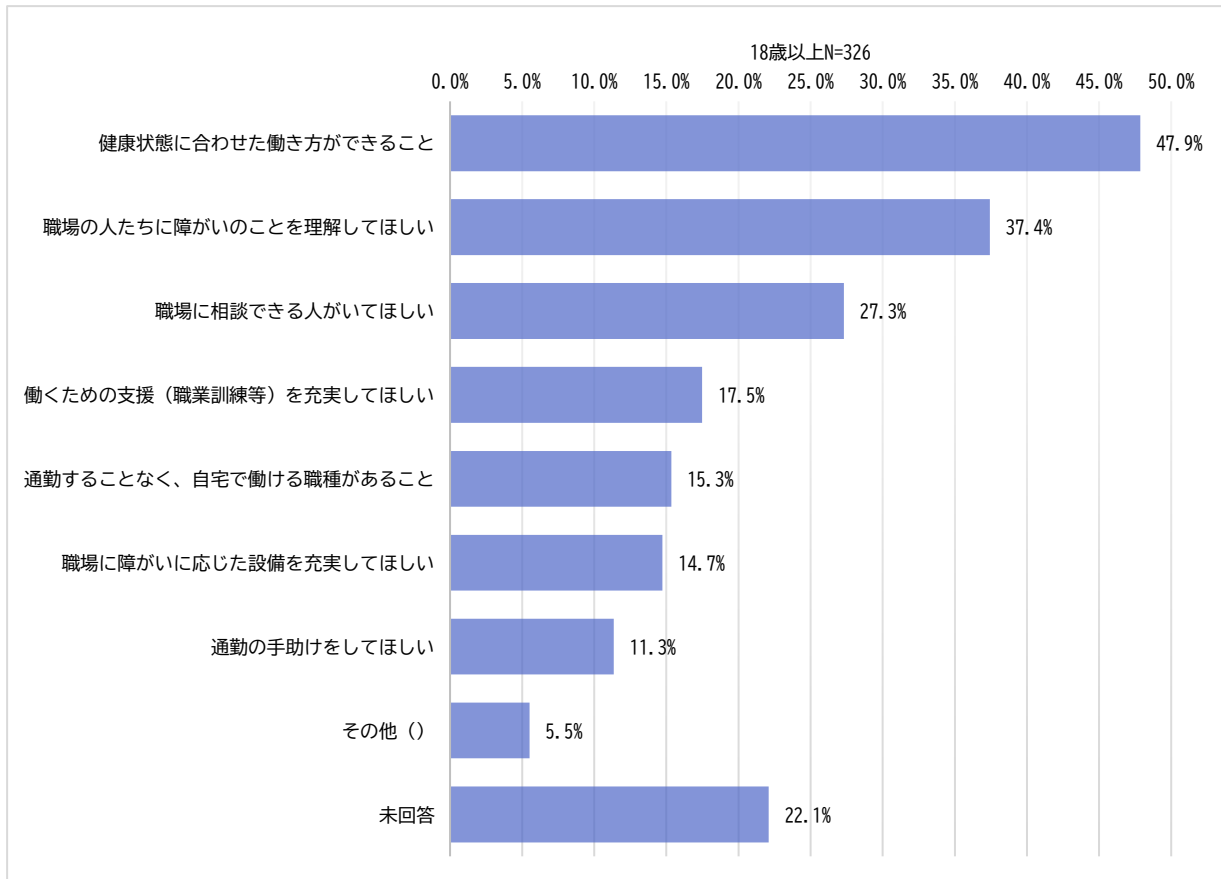


今後、会社等で働きたいかについては、「働きたくない」が36.4%と最も多く、次いで「会社等（企業・公共の機関・団体等）で働きたい」が22.5%となっています。

(5) 仕事をする又は仕事を続けるためには、どのような配慮が必要だと思いますか。

(番号を1つだけ○で囲む)

≪18歳以上：問40≫



仕事をする又は続けるために必要だと思う配慮は、「健康状態に合わせた働き方ができること」が47.9%と最も多く、次いで「職場の人たちに障がいのことを理解してほしい」が37.4%などとなっている。

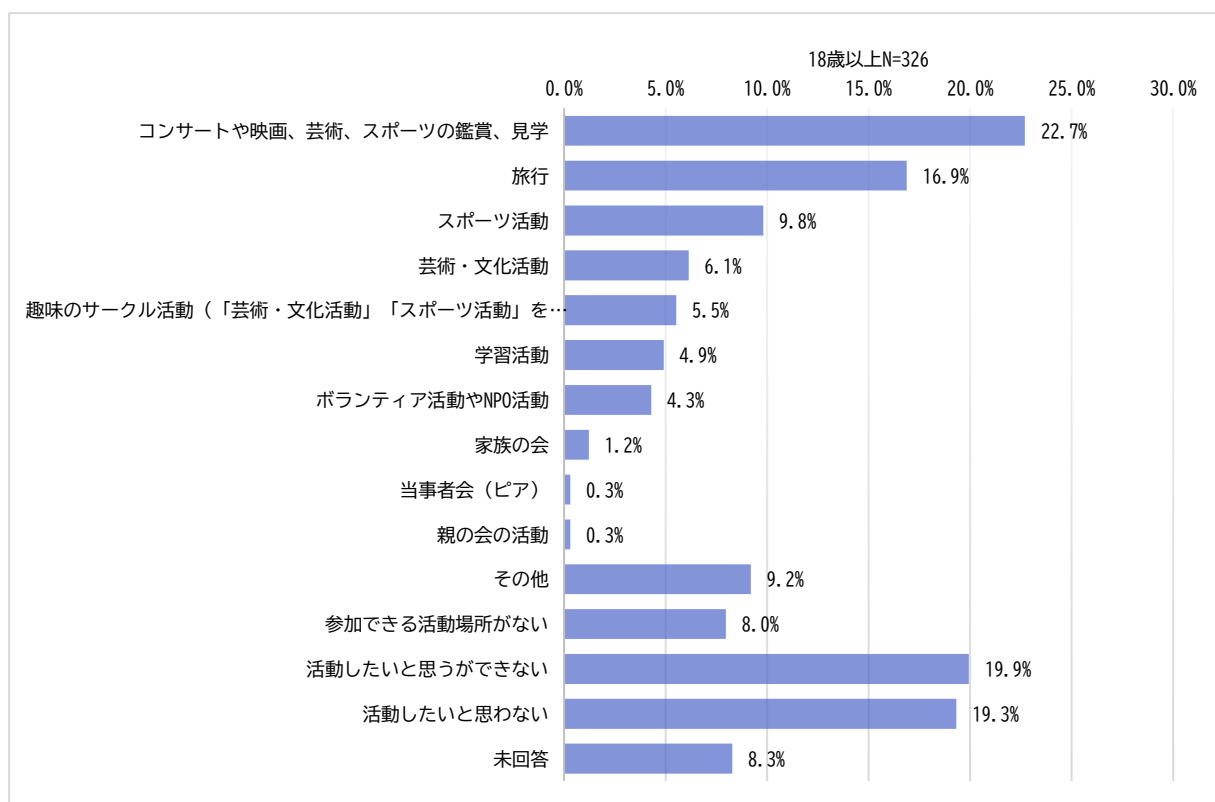
●社会参加等について

問 41～43 は 18 歳以上の調査対象者のみ回答

(1) この1年間に、あなた（本人）は、趣味や学習、スポーツ、社会活動などの活動をしましたか。

(当てはまる番号をすべて○で囲む)

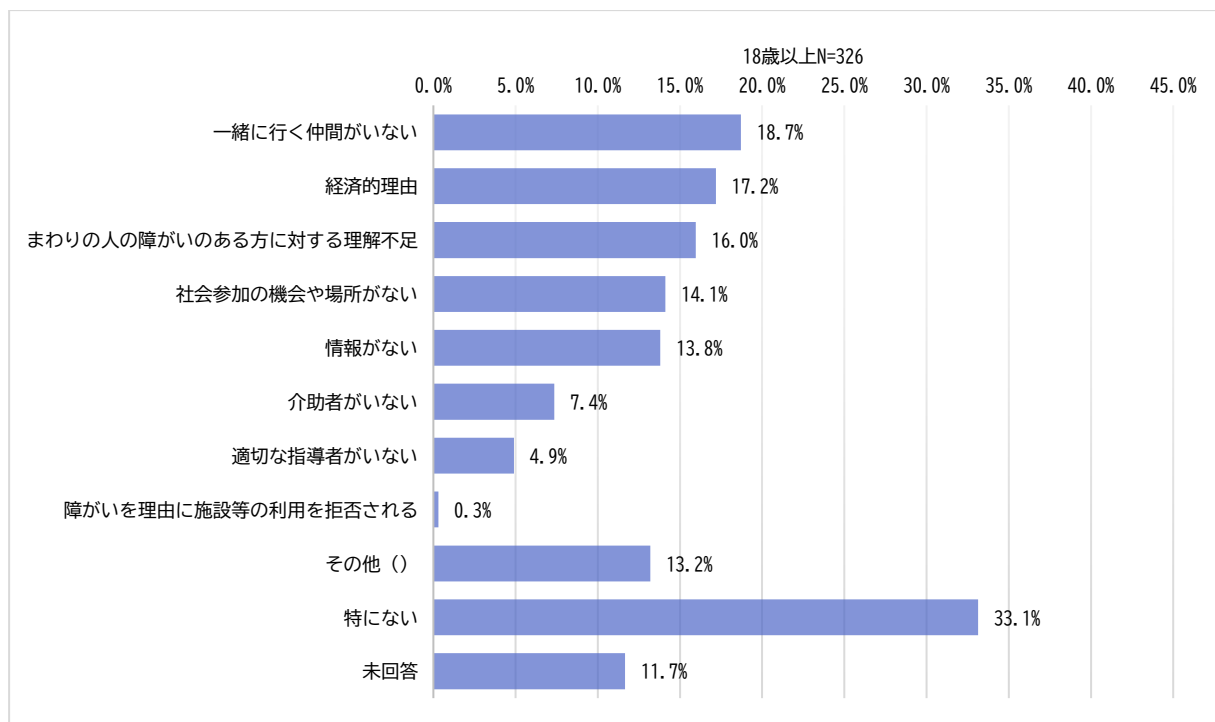
◀18 歳以上：問 41▶



この1年間で行った趣味や学習、スポーツ、社会活動などの内容は、「コンサートや映画、芸術、スポーツの鑑賞、見学」が22.7%と最も多く、次いで「旅行」が16.9%などとなっています。一方、「活動したいと思うができない」が19.9%、「活動したいと思わない」が19.3%となっています。

(2) あなた(本人)が社会参加する上で、妨げになっていることはありますか。(番号を3つまで○で囲む)

≪18歳以上：問42≫

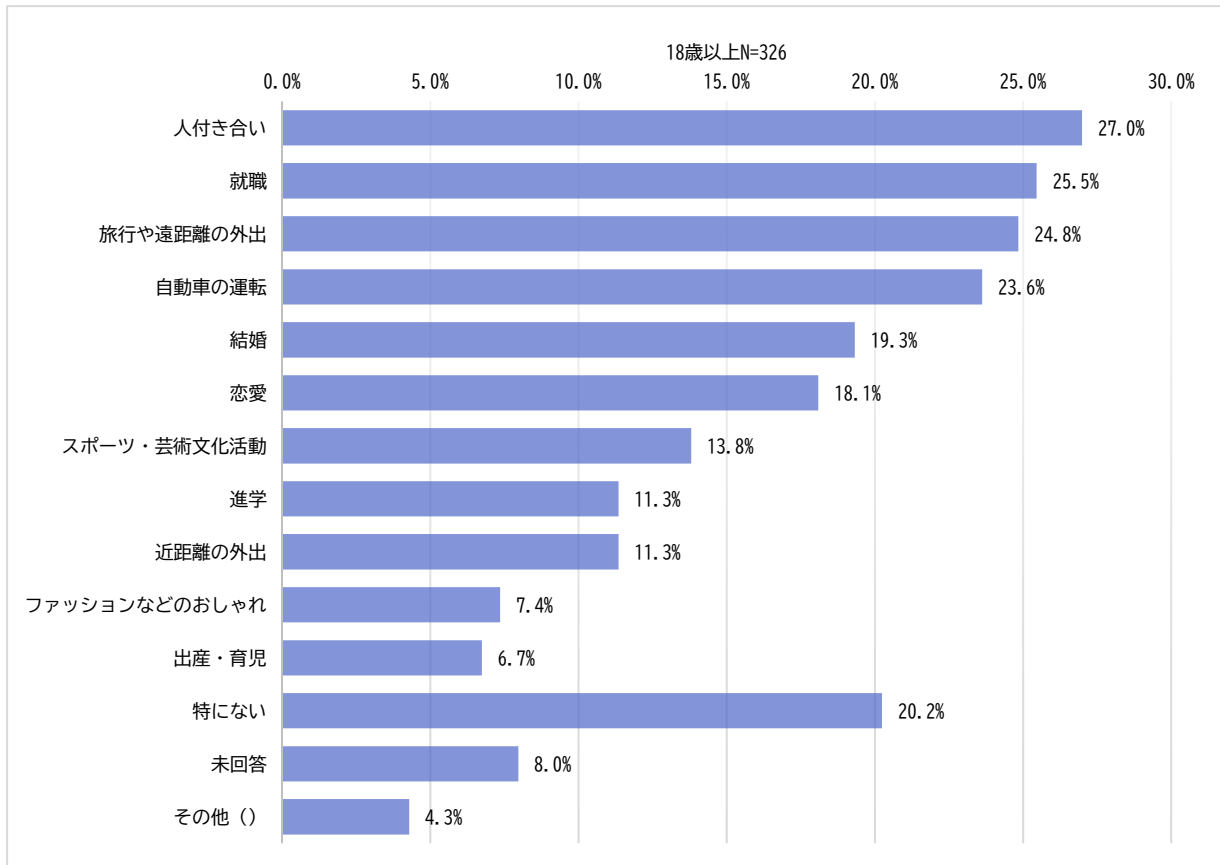


社会参加する上で、妨げになっていることは、「一緒に行く仲間がない」が18.7%と最も多く、次いで「経済的理由」が17.2%となっている一方、「特にない」が33.1%となっています。

(3) あなた(本人)は障がいがあるためにあきらめたり、妥協せざるを得なかったことがありましたか。

(番号を3つまで○で囲む)

≪18歳以上：問43≫



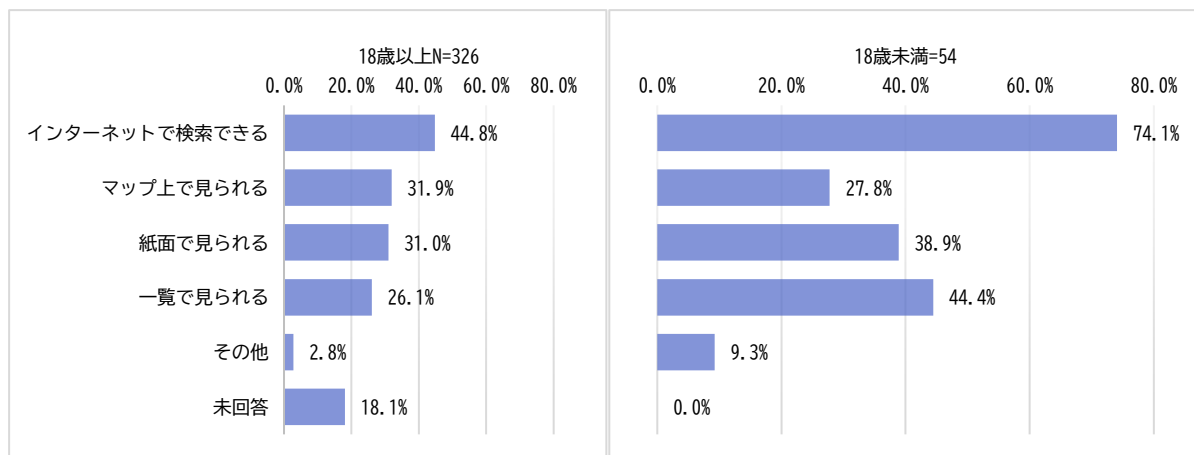
障がいがあるためにあきらめたり、妥協せざるを得なかったことは、18歳以上において「人付き合い」が27.0%と最も多く、次いで「就職」が25.5%などとなっている一方、「特にない」が20.2%となっています。

●トイレマップについて

(1) トイレマップについて、お答えください。どのような検索方法がよいですか。

(当てはまる番号をすべて○で囲む)

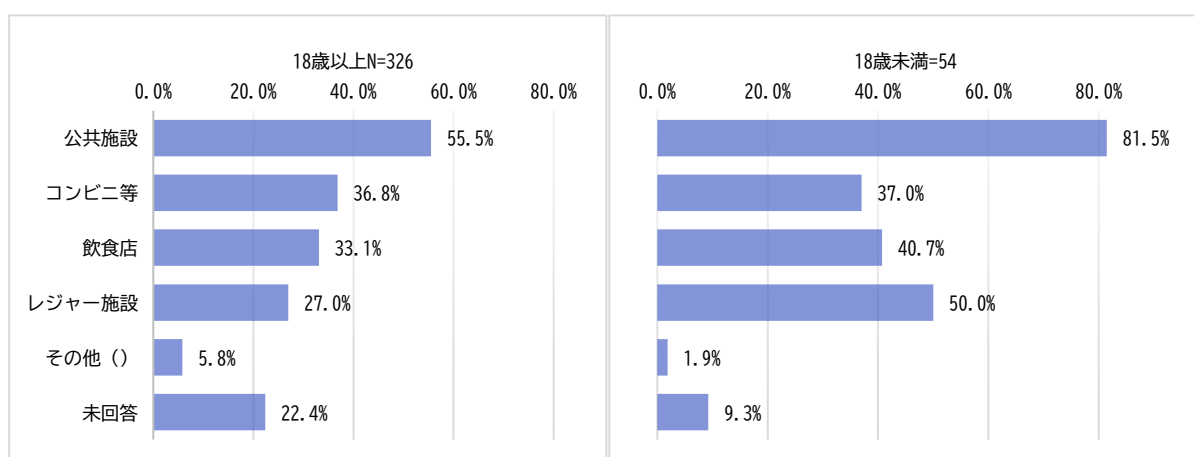
《18歳以上：問44、18歳未満：問30》



トイレマップの検索方法は、18歳以上が「インターネットで検索できる」が44.8%と最も多く、次いで「マップ上で見られる」が31.9%などとなっています。18歳未満では「インターネットで検索できる」が74.1%と最も多く、次いで「一覧で見られる」が44.4%などとなっています。

(2) どのような場所の情報があるとよいですか。(当てはまる番号をすべて○で囲む)

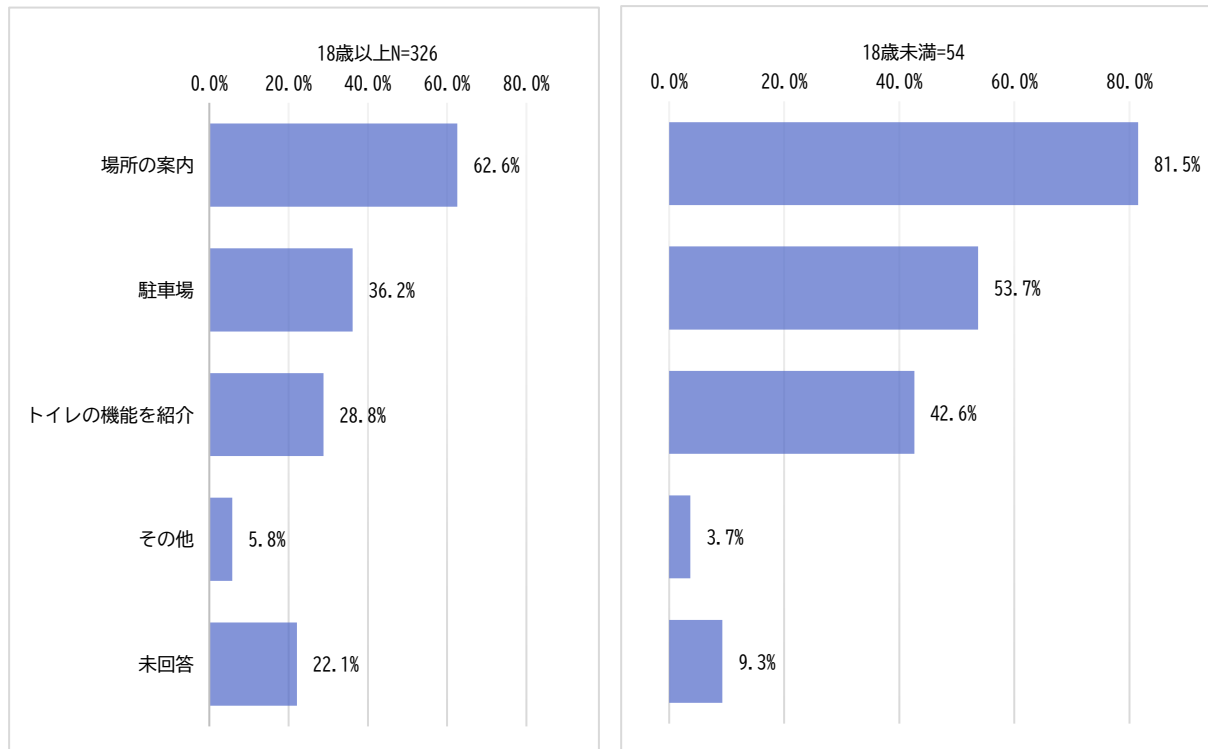
《18歳以上：問45、18歳未満：問31》



トイレマップに求める場所の情報は、18歳以上が「公共施設」が55.5%と最も多く、次いで「コンビニ等」が36.8%などとなっています。18歳未満では「公共施設」が81.5%と最も多く、次いで「レジャー施設」が50.0%などとなっています。

(3) どのような内容の情報があるとよいですか。(当てはまる番号をすべて○で囲む)

≪18歳以上：問46、18歳未満：問32≫

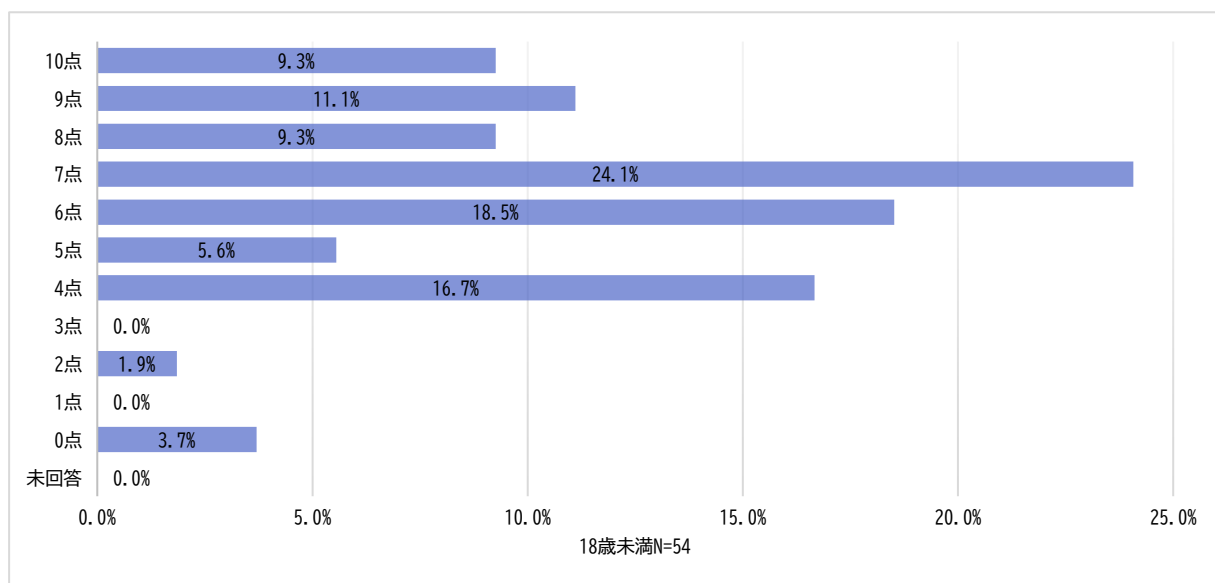
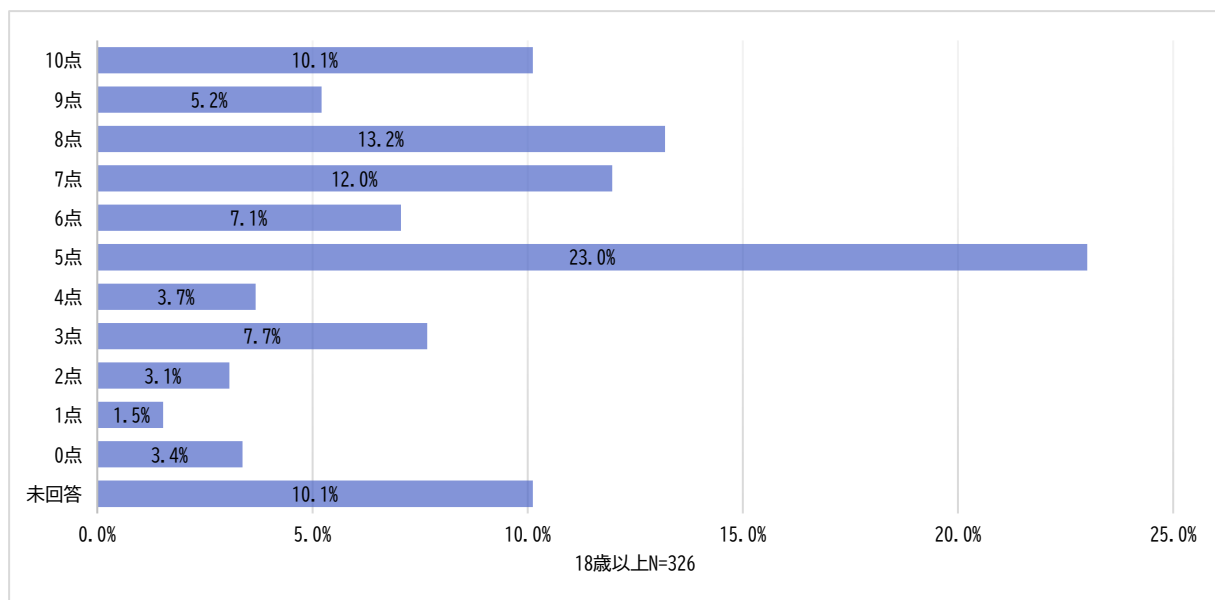


トイレマップに求める内容の情報は、18歳以上で「場所の案内」が62.6%と最も多く、次いで「駐車場」が36.2%などとなっています。18歳未満では、「場所の案内」が81.5%と最も多く、次いで「駐車場」が53.7%などとなっています。

●幸せや地域の愛着等について

(1) あなた（本人）は、現在どの程度幸せですか。

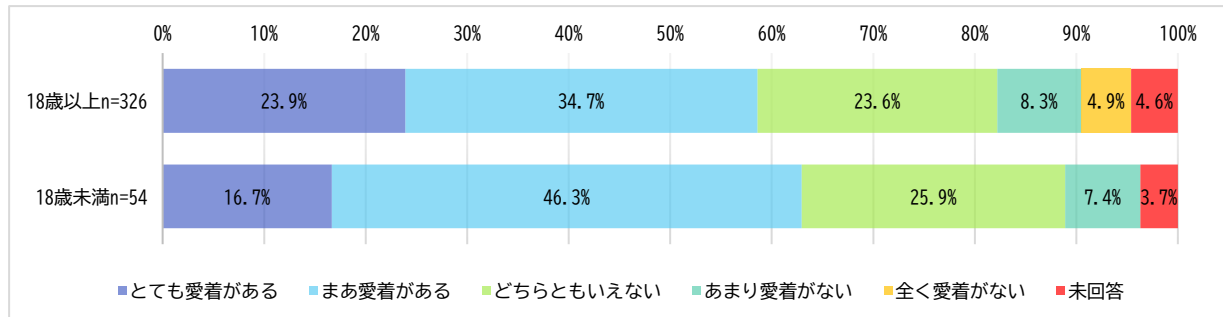
≪18歳以上：問 47、18歳未満：問 37≫



幸福度は、18歳以上で「5点」が23.0%と最も多く、次いで「8点」が13.2%となっています。18歳未満では「7点」が24.1%と最も多く、次いで「6点」が18.5%となっています。

(2) あなた（本人）は、現在住んでいる地域にどの程度愛着がありますか。

《18歳以上：問 48、18歳未満：問 38》

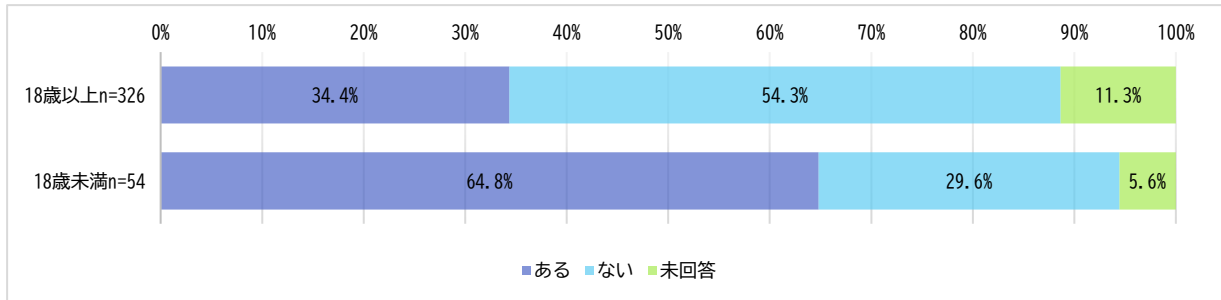


地域への愛着については、18歳以上で「まあ愛着がある」が34.7%が最も多く、次いで「とても愛着がある」「どちらともいえない」が23.6%などとなっています。18歳未満では「まあ愛着がある」が46.3%が最も多く、次いで「どちらともいえない」が25.9%などとなっています。

●居場所について

(1) 自宅（または施設）や職場（または通所先）以外に居心地の良い場所がありますか。

《18歳以上：問49、18歳未満：問39》

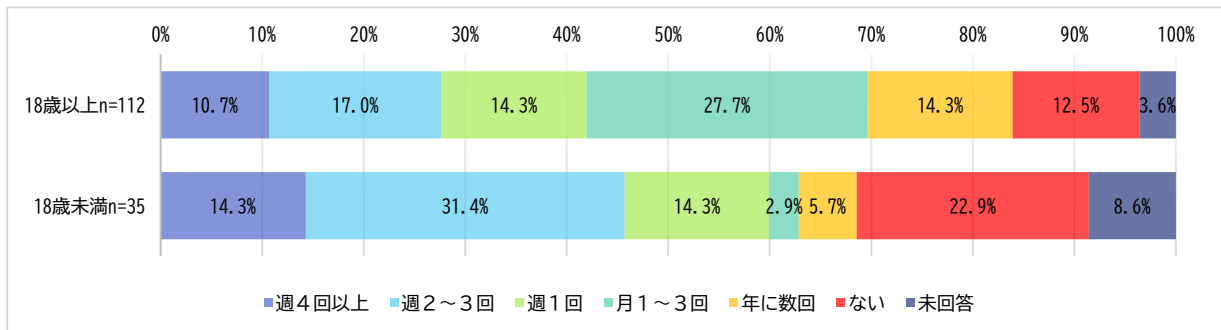


居場所については、18歳以上で「ある」が34.4%、「ない」が54.3%となっています。18歳未満では「ある」が64.8%、「ない」が29.6%となっています。

18歳以上：問49・18歳未満：問39で「ある」を選んだ方のみ

(2) 居心地の良い場所をひとりで利用する場合の頻度はどのくらいですか。（番号を1つだけ○で囲む）

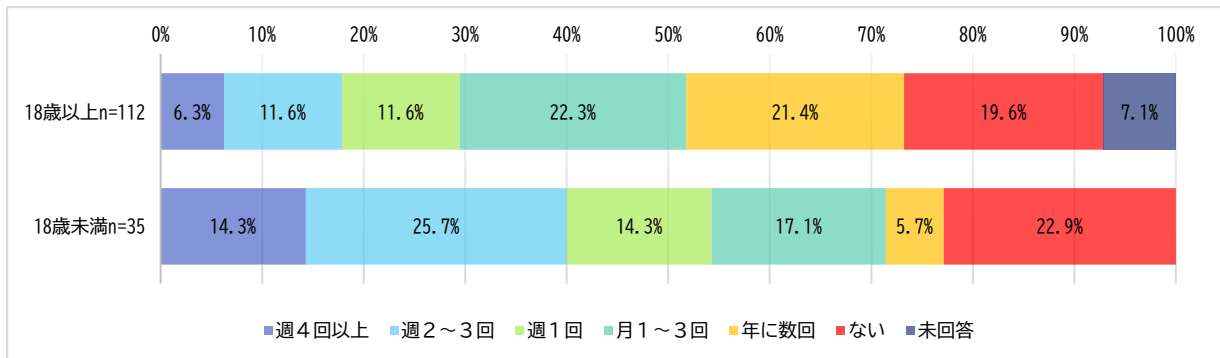
《18歳以上：問50、18歳未満：問40》



居心地のいい場所をひとりで利用する頻度は、18歳以上で「月1～3回」が27.7%と最も多く、次いで「週2～3回」が17.0%などとなっています。18歳未満では「週2～3回」が31.4%と最も多く、次いで「ない」が22.9%などとなっています。

(3) 居心地の良い場所をだれかと利用する場合の頻度はどのくらいですか。(番号を1つだけ○で囲む)

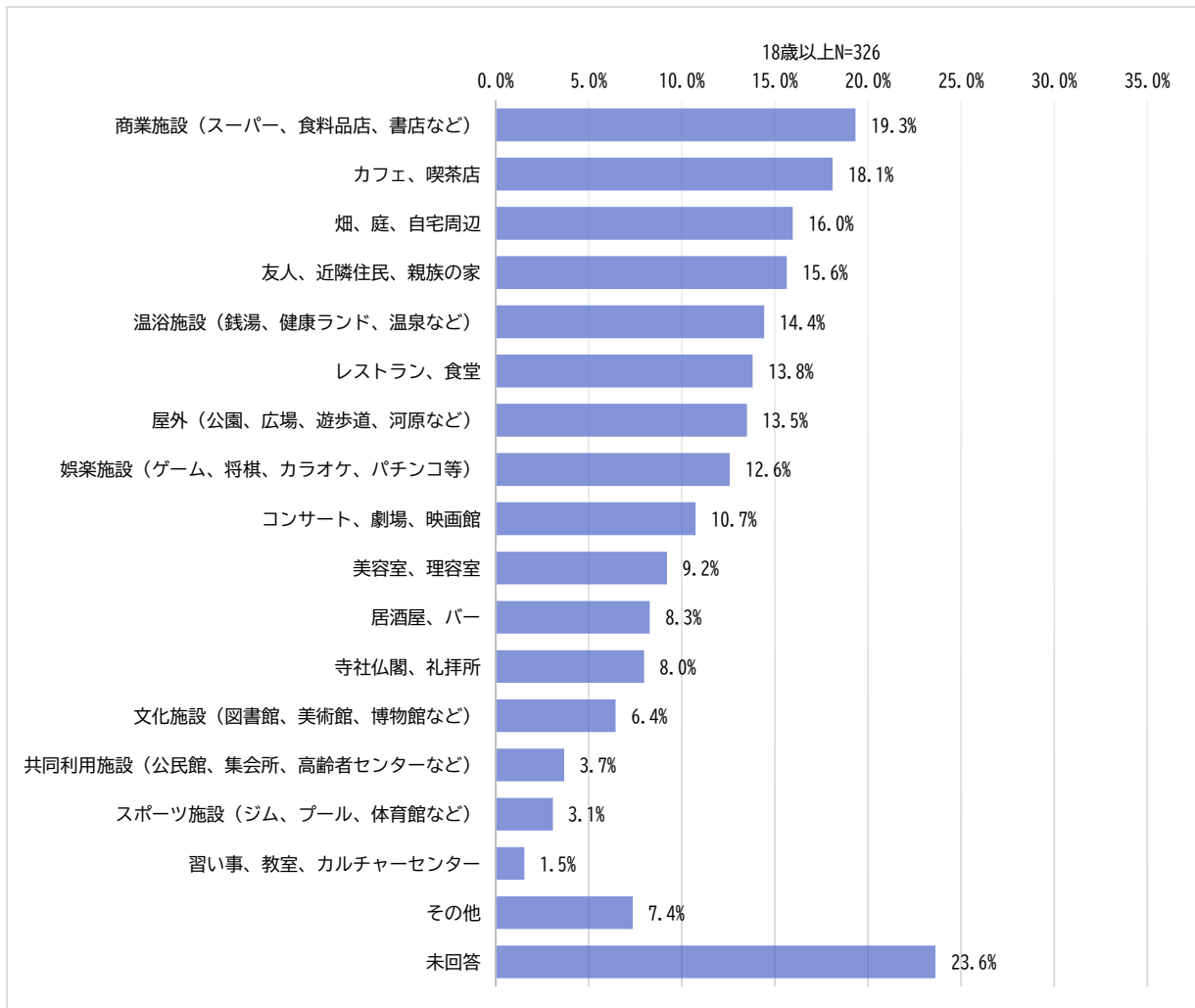
《18歳以上：問51、18歳未満：問41》

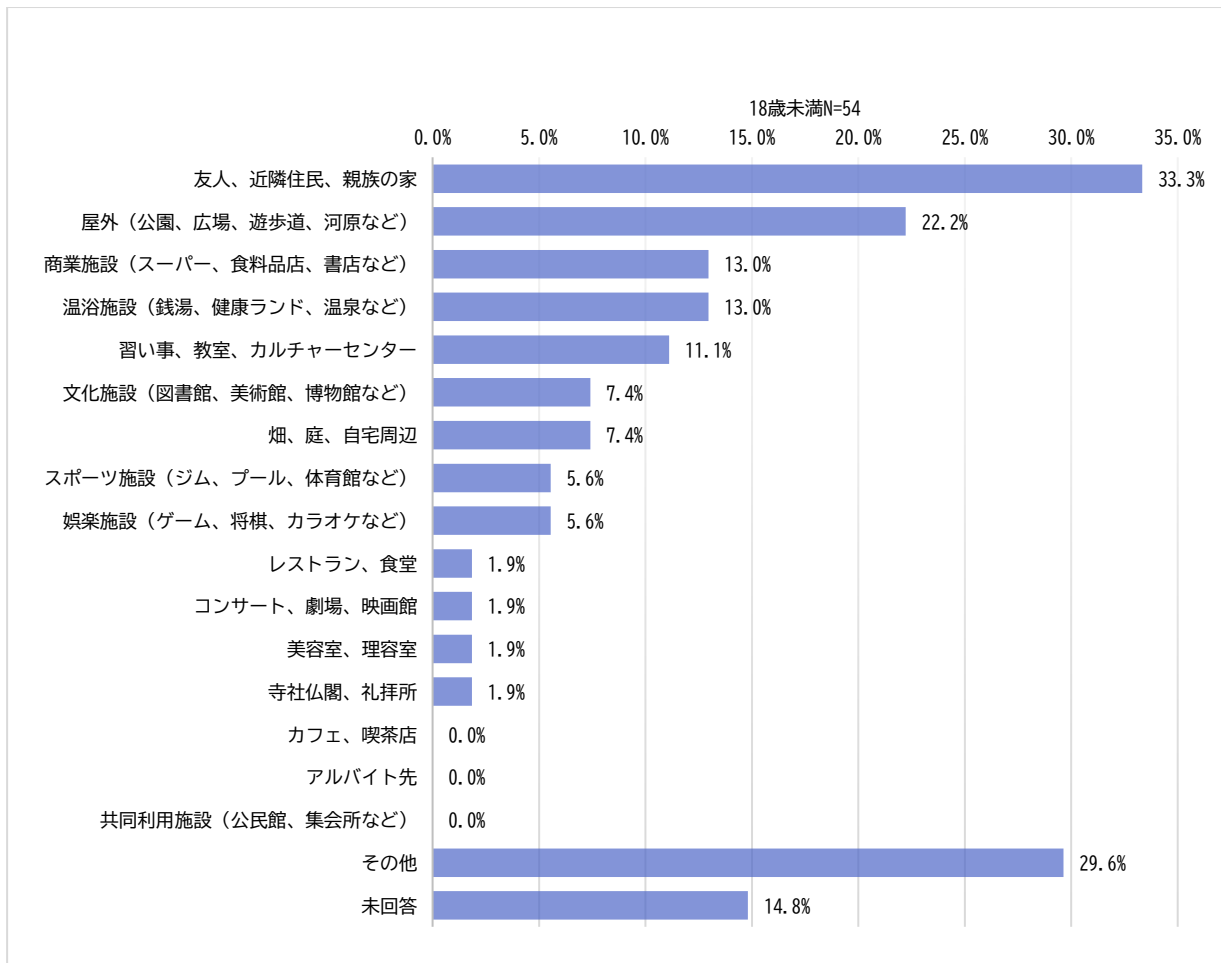


居心地の良い場所をだれかと利用する頻度は、18歳以上で「月1~3回」が22.3%と最も多く、次いで「年に数回」が21.4%となっています。18歳未満では「週2~3回」が25.7%と最も多く、次いで「ない」が22.9%などとなっています。

(4) 自宅や学校など以外に居心地の良い場所はどこですか。(当てはまる番号をすべて○で囲む)

≪18歳以上：問52、18歳未満：問42≫





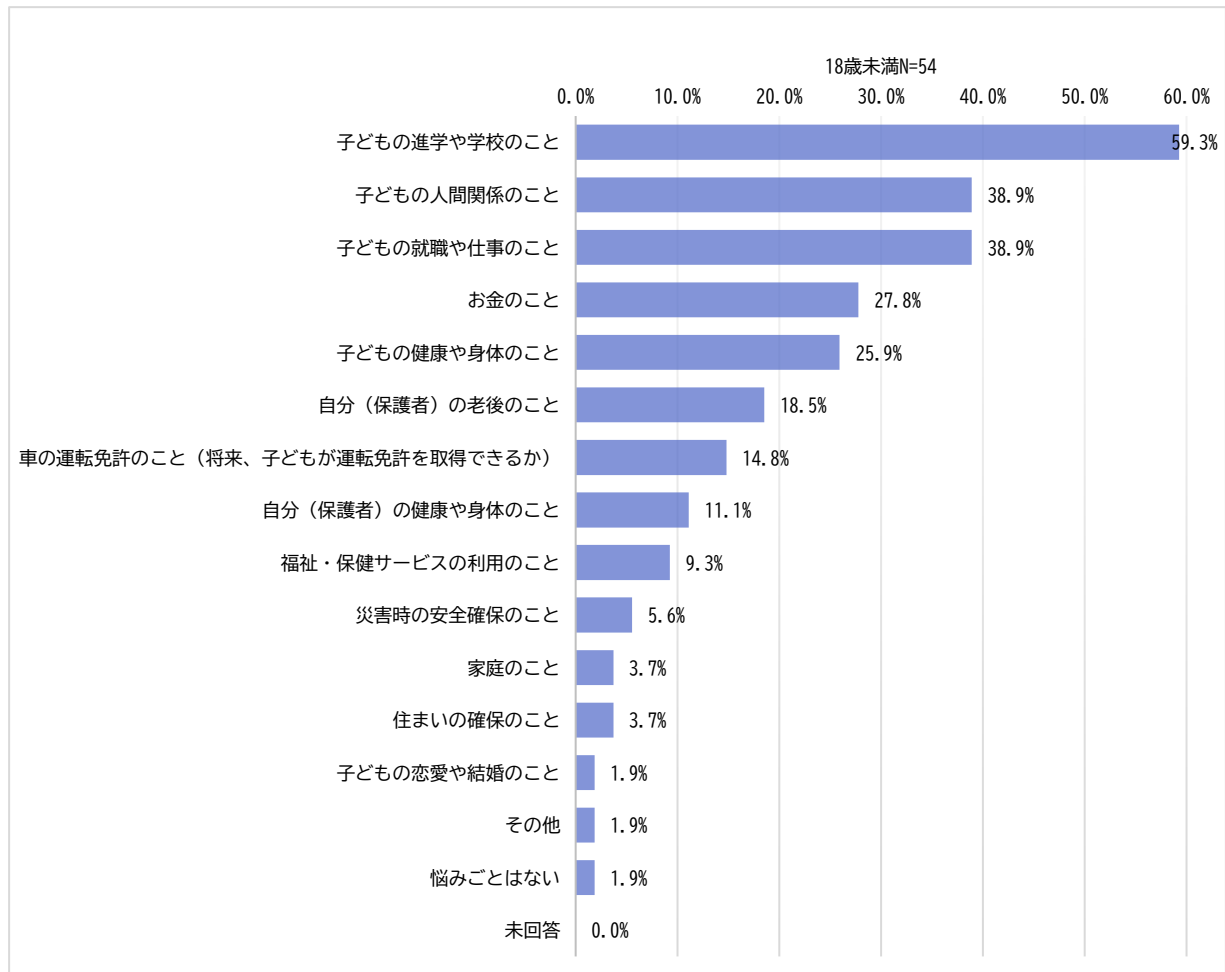
居心地のいい場所は、18歳以上で「商業施設（スーパー、食料品店、書店など）」が19.3%と最も多く、次いで「カフェ、喫茶店」が18.1%などとなっています。18歳未満では「友人、近隣住民、親族の家」が33.3%と最も多く、次いで「屋外（公園、広場、遊歩道、河原など）」が22.2%などとなっています。

●障がい児の療育について

問 52～54 は、18 歳未満の調査対象者の保護者のみ回答

(1) 現在、調査対象者（子ども）に関することで悩みごとがありますか。（番号を3つまで○で囲む）

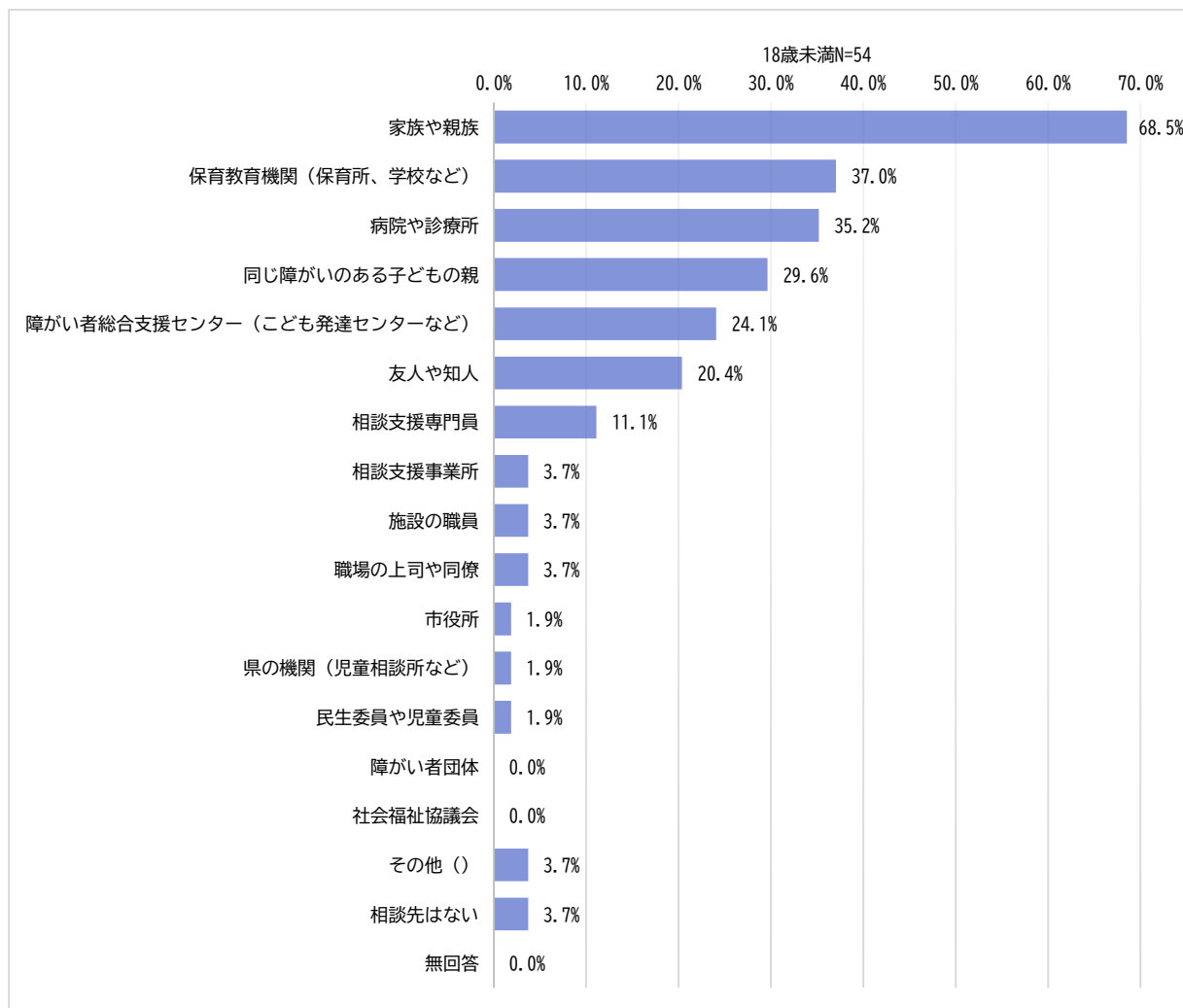
≪18 歳未満：問 52≫



調査対象者（子ども）に関する悩みごとは、「子どもの進学や学校のこと」が 59.3%と最も多く、次いで「子どもの人間関係のこと」「子どもの就職や仕事のこと」が 38.9%などとなっています。

(2) 悩みごとの相談先はどこですか。(番号を3つまで○で囲む)

≪18歳未満：問53≫

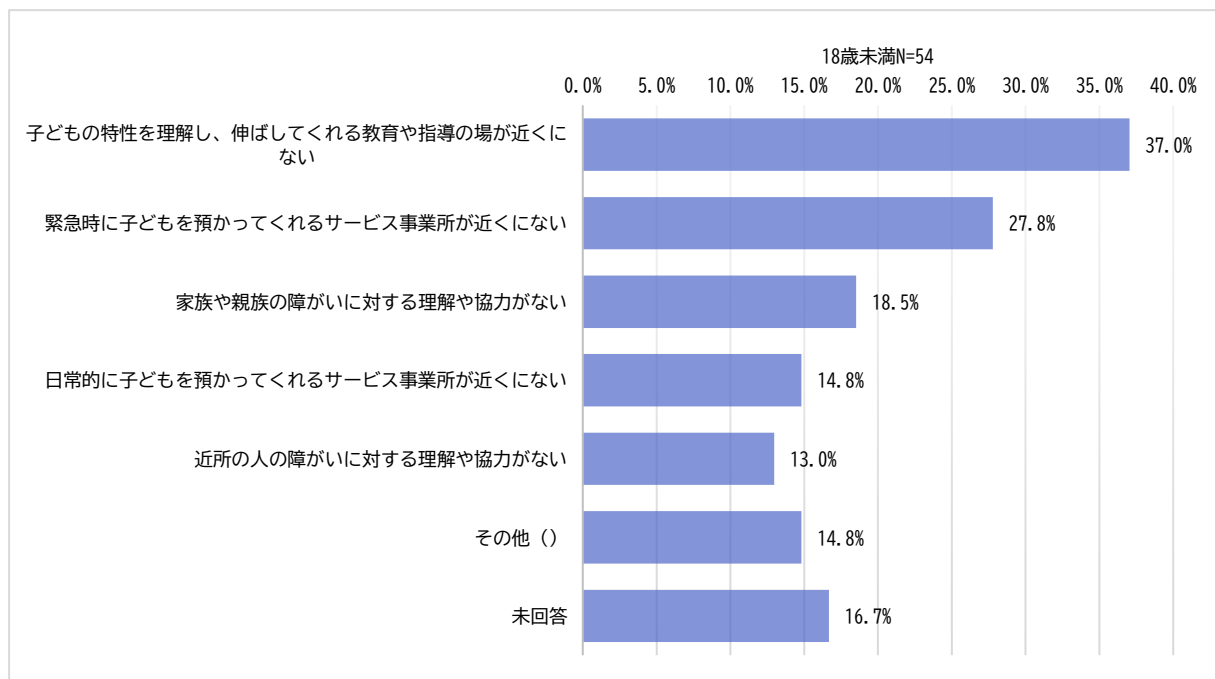


悩みごとの相談先は、「家族や親族」が68.5%と最も多く、次いで「保育教育機関（保育所・学校など）」が37.0%などとなっています。

(3) お子さんを育てる上で、困難であると感じることはどのようなことですか。

(当てはまる番号をすべて○で囲む)

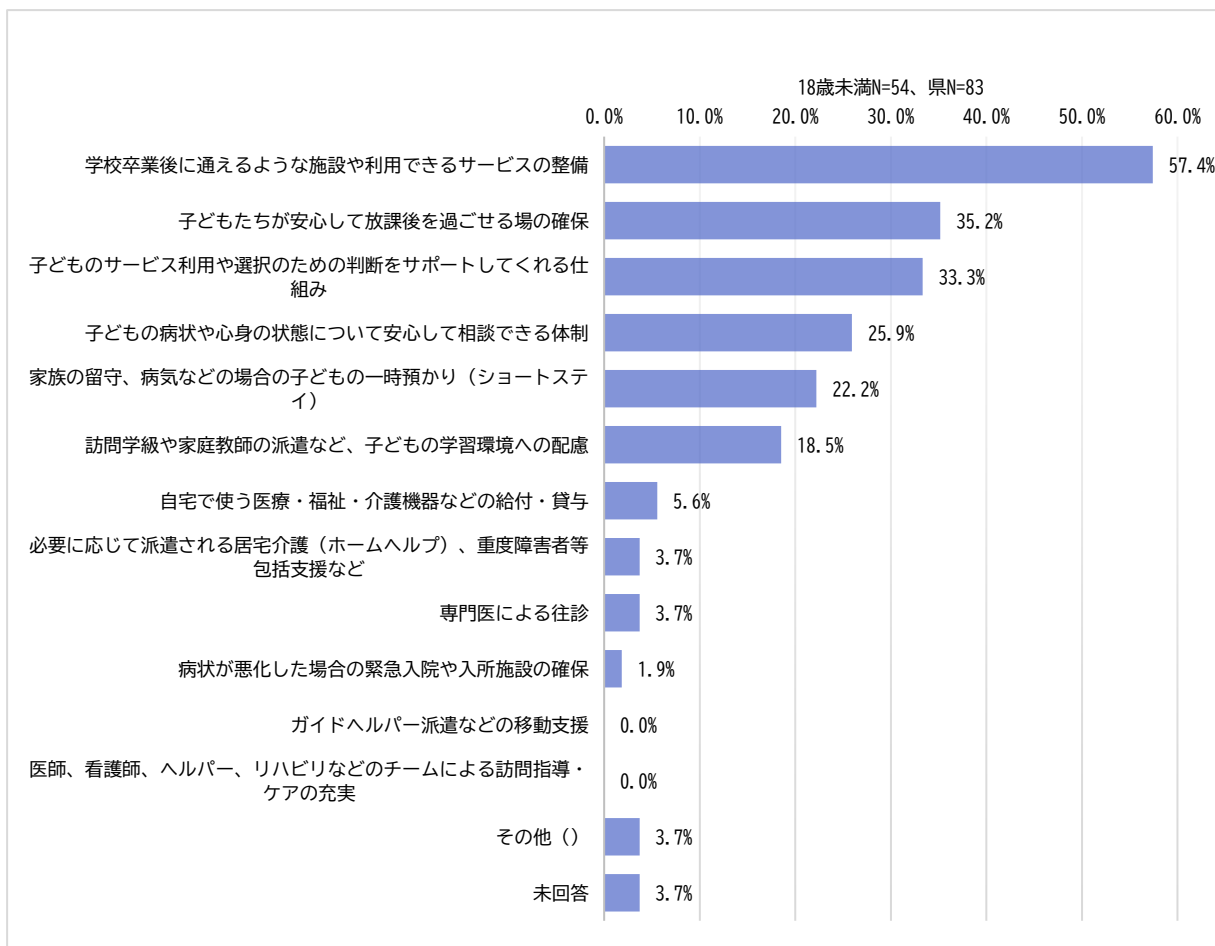
≪18歳未満：問54≫



子どもを育てる上で、困難であると感じることは、「子どもの特性を理解し、伸ばしてくれる教育や指導の場が近くにない」が37.0%と最も多く、次いで「緊急時に子どもを預かってくれるサービス事業所が近くにない」が27.8%などとなっています。

(4) 今後充実してほしい保険・医療・福祉サービスは何ですか。(番号を3つまで○で囲む)

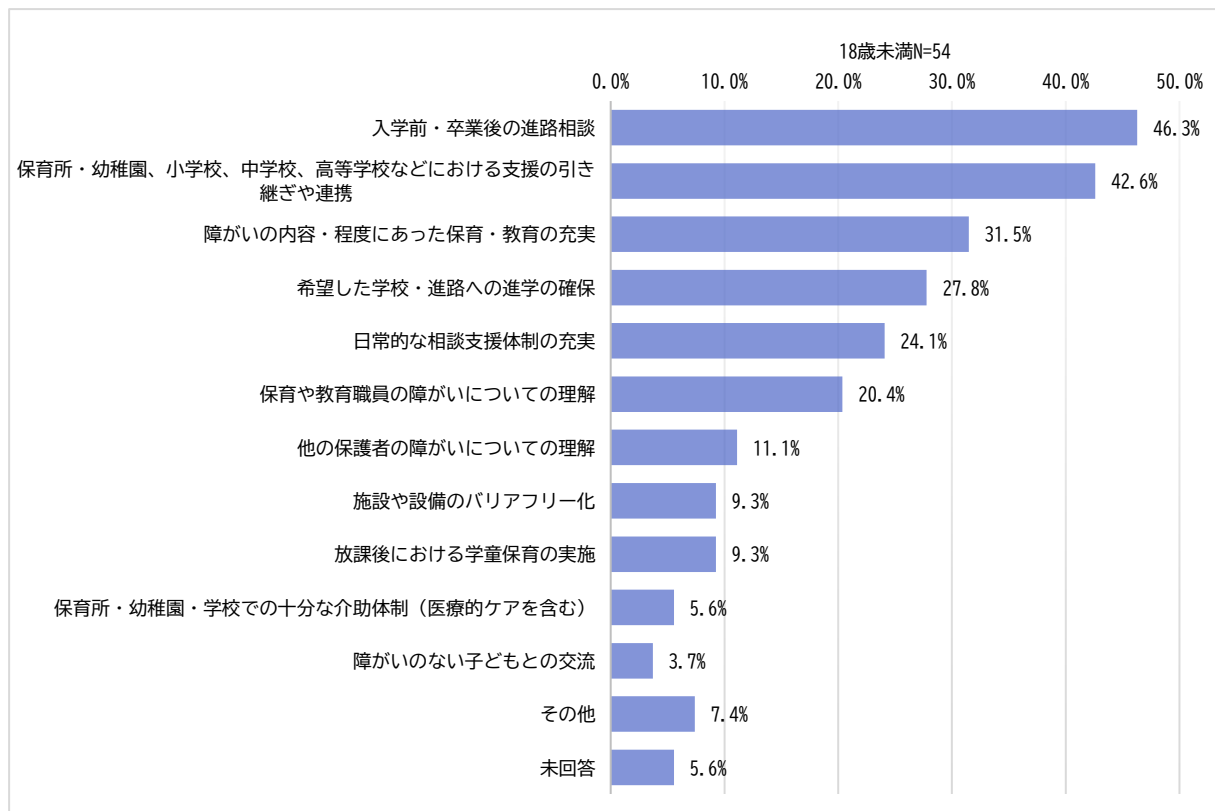
≪18歳未満：問55≫



今後充実してほしい保健・医療・福祉サービスは、「学校卒業後に通えるような施設や利用できるサービスの整備」が57.4%と最も多く、次いで「子どもたちが安心して放課後を過ごせる場の確保」が35.2%などとなっています。

(5) お子さんの保育・教育環境について、今後希望することは何ですか。

≪18歳未満：問56≫

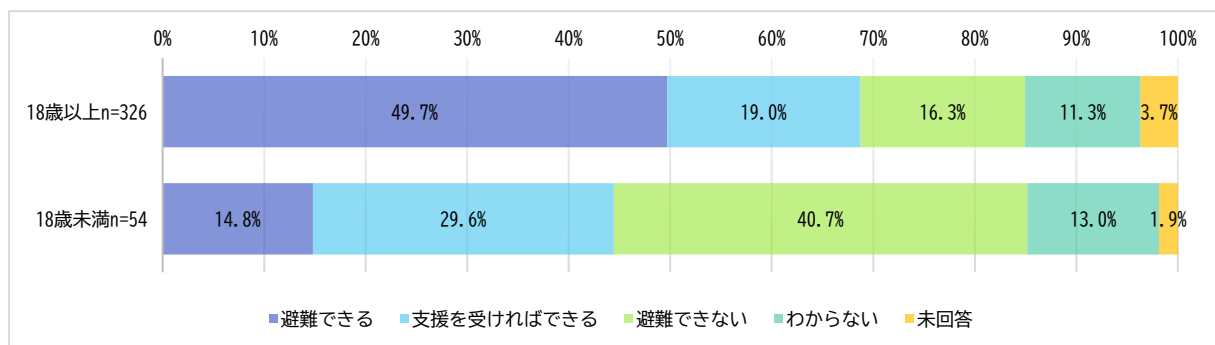


子どもの保育・教育環境について、今後希望することは、「入学前・卒業後の進路相談」が46.3%と最も多く、次いで「保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校などにおける支援の引き継ぎや連携」が42.6%などとなっています。

●災害対策について

(1) 地震や台風などの災害時に、一人で避難することができますか。(番号を1つだけ○で囲む)

《18歳以上：問53、18歳未満：問43》



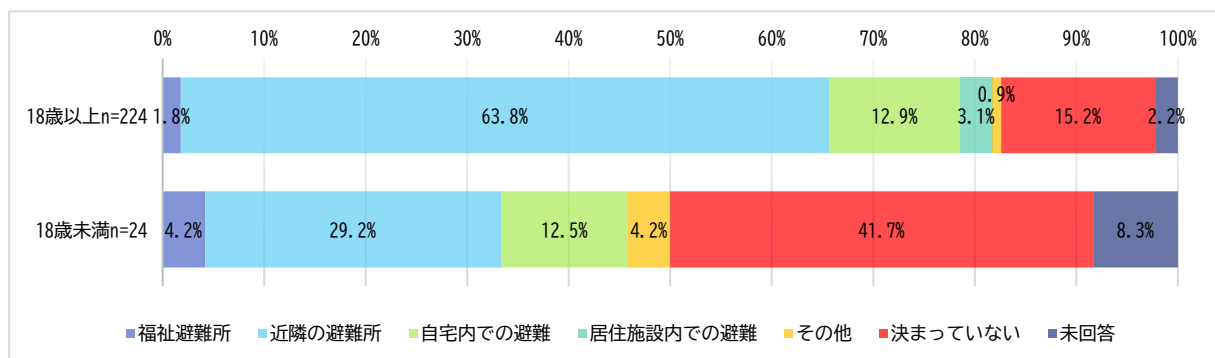
地震や台風などの災害時に、一人で避難することができるかについては、18歳以上において「避難できる」が49.7%と最も多く、次いで「支援を受ければできる」が19.0%などとなっています。

18歳未満においては「避難できない」が40.7%と最も多く、次いで「支援を受ければできる」が29.6%などとなっています。

18歳以上：問53・18歳未満：問43で「避難できる」「支援を受ければできる」を選んだ方のみ

(2) あなたが避難する場所は決まっていますか。(番号を1つだけ○で囲む)

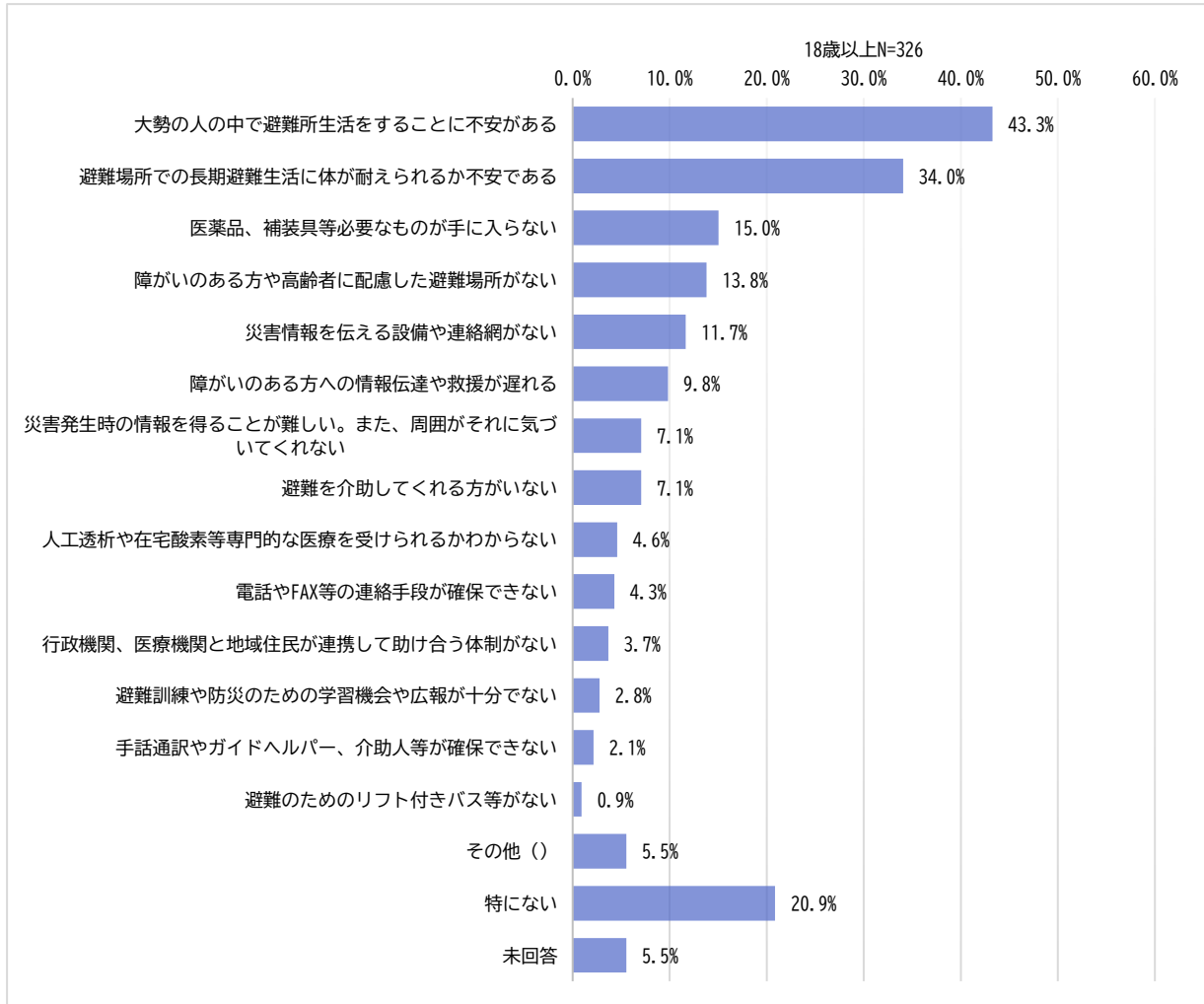
《18歳以上：問54、18歳未満：問44》



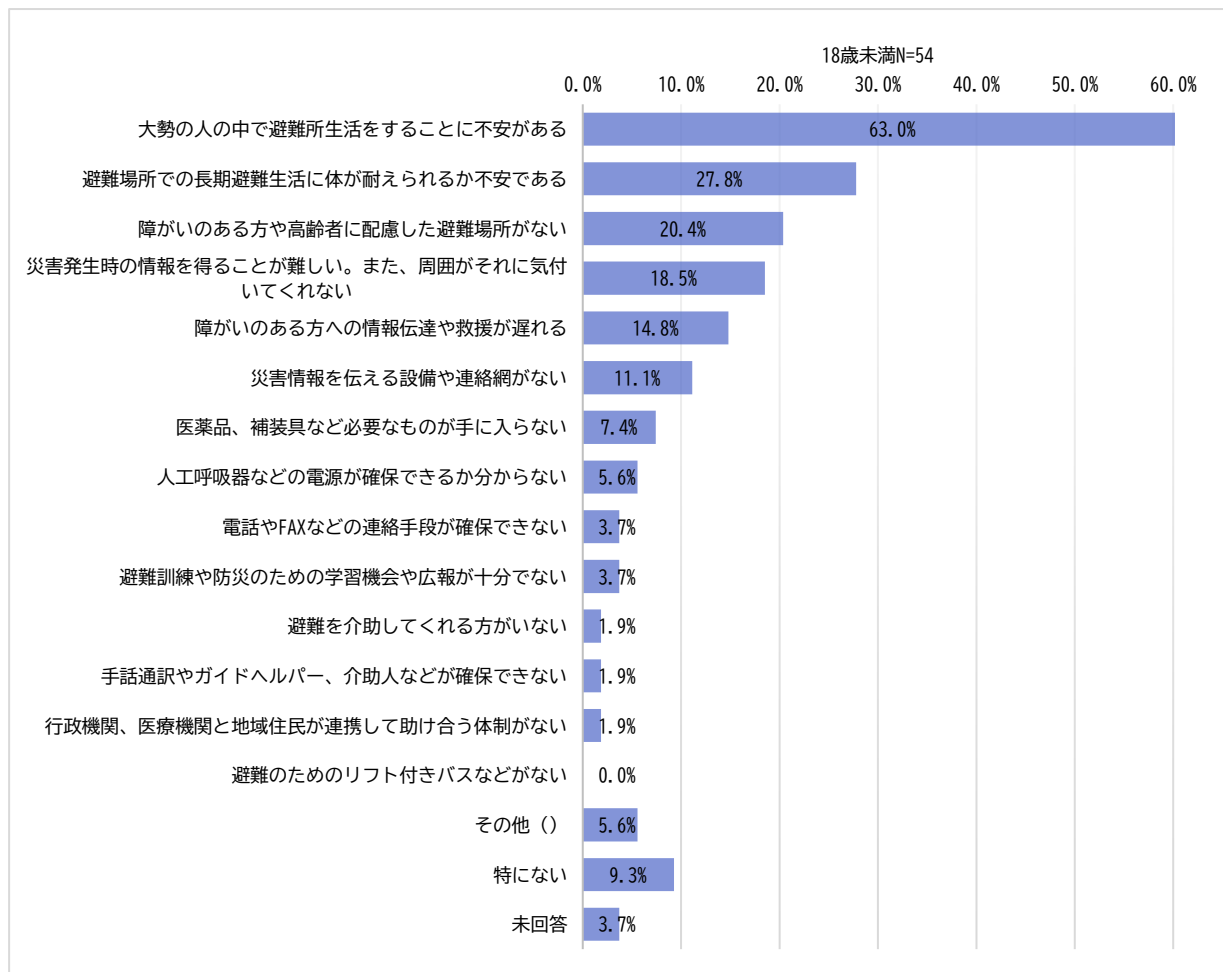
避難する場所は、18歳以上において「近隣の避難所」が63.8%と最も多く、次いで「決まっていない」が15.2%などとなっています。18歳未満においては「決まっていない」が41.7%と最も多く、次いで「近隣の避難所」が29.2%などとなっています。

(3) 地震や台風などの災害時、どのようなことに不安を感じますか。(番号を1つだけ○で囲む)

≪18歳以上：問55、18歳未満：問45≫



地震や台風などの災害時に不安を感じることは、18歳以上において「大勢の人の中で避難所生活をするに不安がある」が43.3%と最も多く、次いで「避難場所での長期避難生活に体が耐えられるか不安である」が34.0%などとなっています。

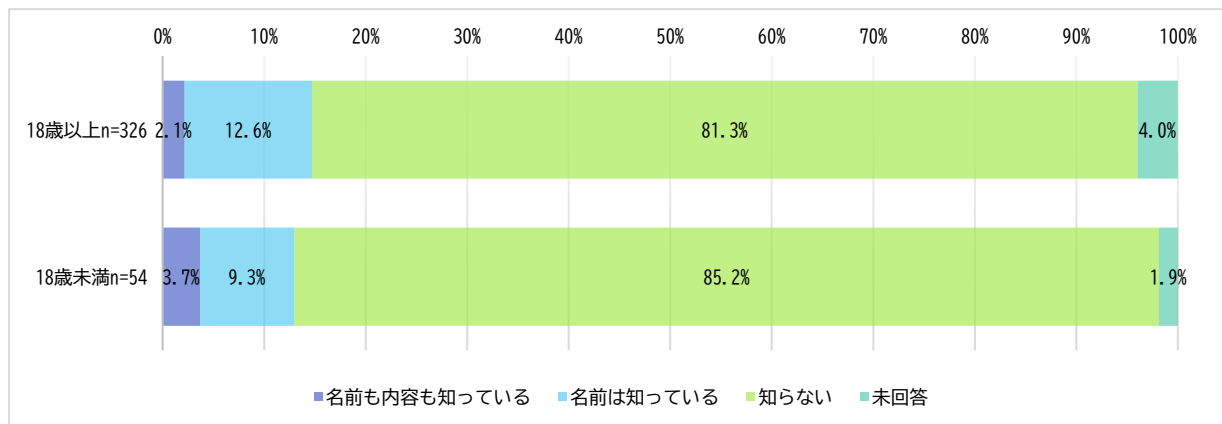


地震や台風などの災害時に不安を感じることは、18歳未満において「大勢の人の中で避難所生活をするに不安がある」が63.0%と最も多く、次いで「避難場所での長期避難生活に体が耐えられるか不安である」が27.8%などとなっています。

(4) 各自治体ごとに定めることが努力義務とされている「個別避難計画」を知っていますか。

(番号を1つだけ○で囲む)

≪18歳以上：問56、18歳未満：問46≫

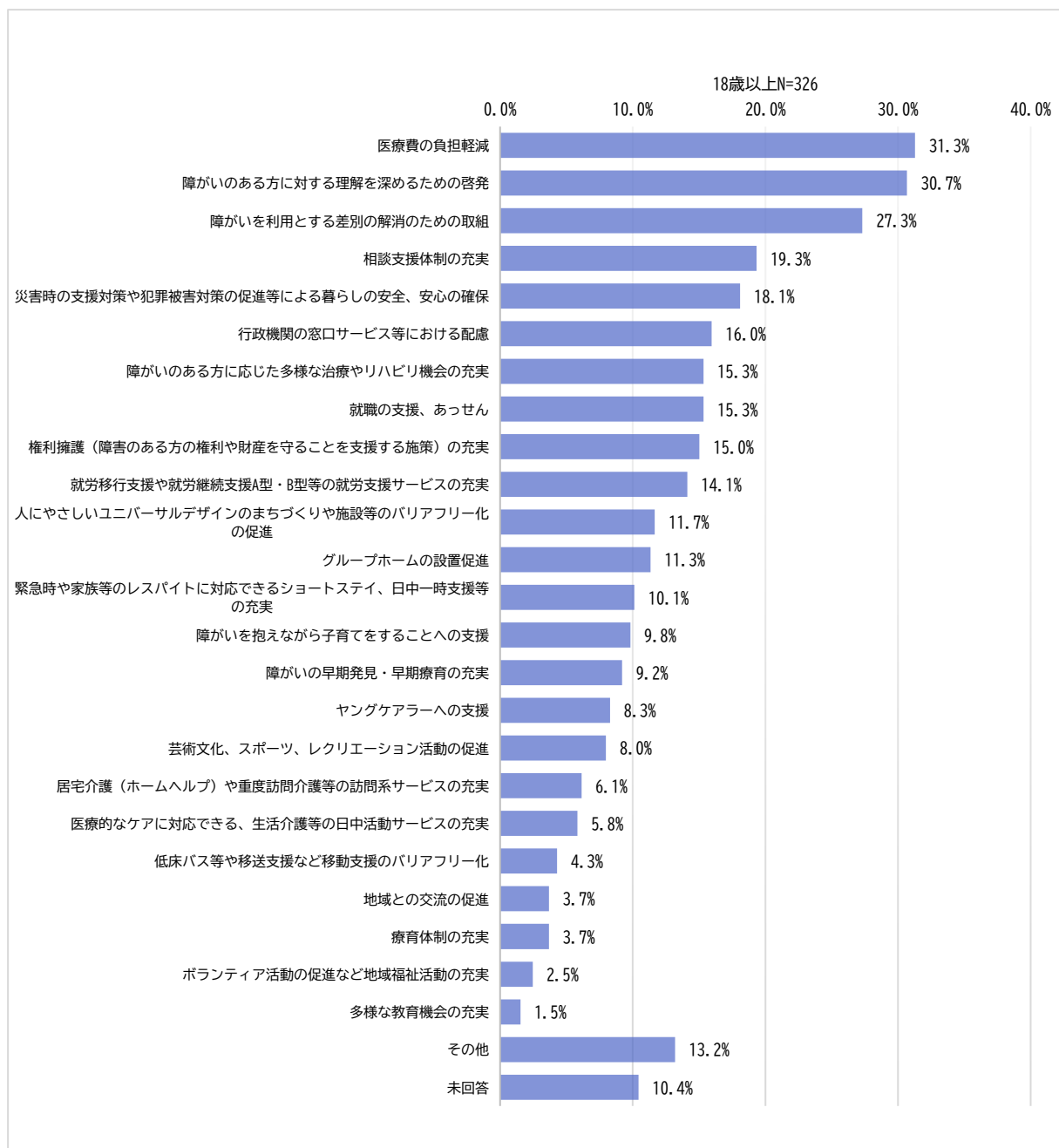


「個別避難計画」の認知度は、18歳以上において「名前も内容も知っている」が2.1%、「名前は知っている」が12.6%、「知らない」が81.3%となっています。18歳未満においては「名前も内容も知っている」が3.7%、「名前は知っている」が9.3%、「知らない」が85.2%となっています。

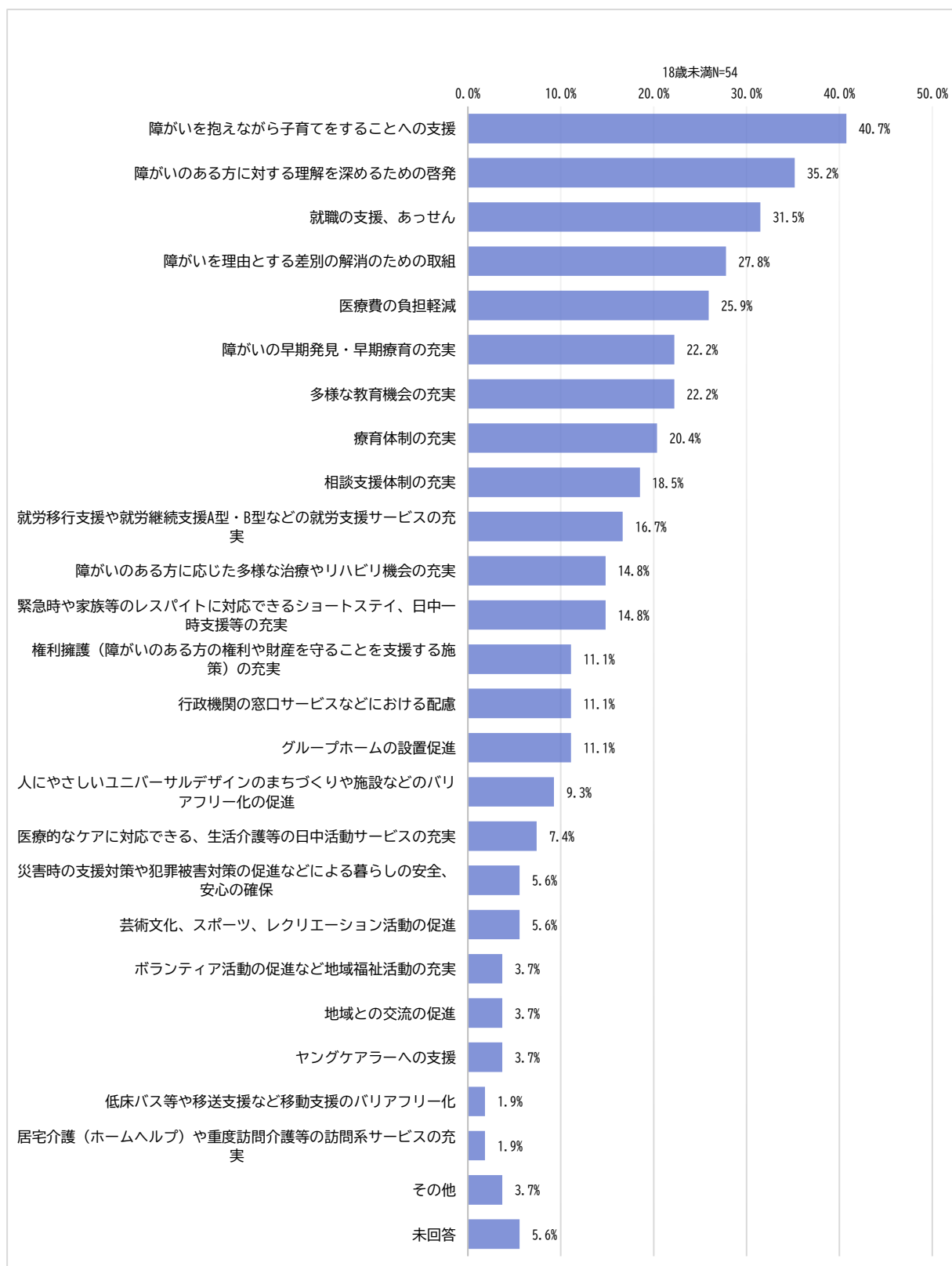
●行政への要望について

(1) 今後、行政において力を入れてほしいことはどのようなことですか。(番号を5つまで○で囲む)

≪18歳以上：問56、18歳未満：問46≫



今後、行政において力を入れてほしいことは、18歳以上において、「医療費の負担軽減」が35.4%と最も多く、次いで「障がいのある方に対する理解を深めるための啓発」が30.7%などとなっています。



今後、行政において力を入れてほしいことは、18歳未満において、「障がいを抱えながら子育てをすることへの支援」が40.7%と最も多く、次いで「障がいのある方に対する理解を深めるための啓発」が35.2%などとなっています。

飯田市

障がいのある方の実態調査分 析結果

報告書

令和5年10月

日本福祉大学講師・一般社団法人南信州基金代表理事

宮國康弘氏

1 調査概要

(1) 調査の目的

飯田市内在住の障がいのある人に対して生活の実態等について調査を行い、次期いいだ障がい福祉プラン 2024（計画期間：令和6年度から令和11年度の計画）の策定及び障がい者施策を検討するための基礎資料とすることを目的としている。

(2) 調査の項目

・対象者自身について ・権利擁護などについて ・相談先等について ・暮らしについて
・障害福祉サービスの利用について ・教育について ・就労について（※18歳以上のみ） ・社会参加等について（※18歳以上のみ） ・障がい児の療育について（※18歳未満のみ） ・災害対策について
・行政への要望について

(3) 調査の設計

調査対象者：飯田市在住で、身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、児童通所支援を利用している方

調査方法：郵送配布・郵送回収またはインターネット回答

調査期間：令和5年1月23日～令和5年2月13日（18歳以上）、
令和5年1月30日～令和5年2月20日（18歳未満）

発送数：18歳以上700件、18歳未満100件

(4) 回収状況

年齢種別	発送数	回収数	有効回収数	有効回収率
18歳以上	700	326	326	46.5%
18歳未満	100	54	54	54.0%

※有効回収数とは、白票または回収が著しく少なくなる票を除いた数

(5) 調査対象者の障害手帳の種類について

問5 お持ちの手帳等の種類をお答えください。（当てはまる番号をすべて○で囲む）

【18歳以上】

身体障害者手帳（153人、49.84%）療育手帳（69人、22.48%）

精神障害者保健福祉手帳（73人、23.78%）

【18歳以下】

身体障害者手帳（11人、20.37%）、療育手帳（23人、42.59%）

精神障害者保健福祉手帳（1人、1.85%）手帳は持っていない（23人、42.59%）

2 調査結果（18歳以上）

18歳以上：学術研究への利用に関する同意に「いいえ」と回答した19名を除外した **307名**が対象

○ 調査対象者自身について

(1) 調査票の記入者をお答えください（一つだけ○で囲む）

	n	%	累積%
本人が自分で記入	205	66.78	66.78
本人の意思を確認して、家族や介護者（施設職員）等が代筆で記入	58	18.89	85.67
本人の意思を確認することが難しいため、家族や介護者（施設職員）等が本人の意向をくみ取って代わりに記入	25	8.14	93.81
欠損値	19	6.19	100
合計	307	100	

○ 年齢構成（問2あなた本人の年齢をお答えください令和5年1月1日時点）

	n	%	累積%
10代	8	2.61	2.61
20代	43	14.01	16.61
30代	38	12.38	28.99
40代	62	20.2	49.19
50代	69	22.48	71.66
60代	41	13.36	85.02
70代	18	5.86	90.88
80代	20	6.51	97.39
90代	5	1.63	99.02
欠損値	3	0.98	100
合計	307	100	

○ 性別

	n	%	累積%
男	164	53.42	53.42
女	143	46.58	100
合計	307	100	

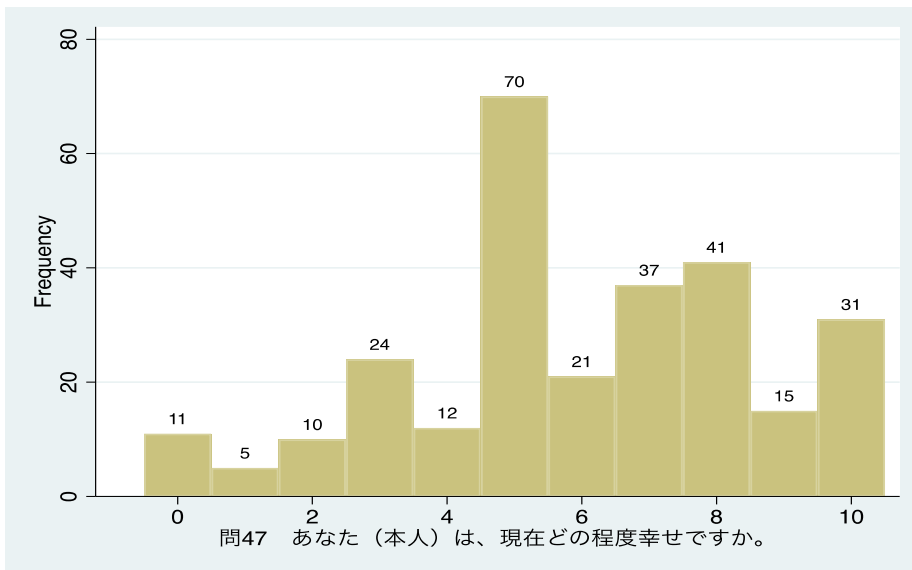
○ 幸福感について（問47 あなた本人は現在どの程度幸せですか）

問47 あなた（^{ほんにん}本人）は、^{げんざい}現在どの程度^{ていどしあわ}幸せですか。

とても不幸 ^{ふこう}	とても幸せ ^{しあわ}
0点---- 1点---- 2点---- 3点---- 4点---- 5点---- 6点---- 7点---- 8点---- 9点---- 10点	

幸福感点数毎の回答者数・割合

幸福感	n	%	累積%
0	11	3.58	3.58
1	5	1.63	5.21
2	10	3.26	8.47
3	24	7.82	16.29
4	12	3.91	20.2
5	70	22.8	43
6	21	6.84	49.84
7	37	12.05	61.89
8	41	13.36	75.24
9	15	4.89	80.13
10	31	10.1	90.23
欠損値	30	9.77	100
合計	307	100	



< 幸福感と関連する要因について（18歳以上） >

図1及び表1は、18歳以上における性別、年齢、情緒的サポート受領（問18）、情緒的サポート提供

(問 19)、手段的サポート受領 (問 20)、手段的サポート提供 (問 21)、就労 (問 36) 地域への愛着 (問 48)、自宅や職場以外の居場所 (問 49) と、幸福感との関連を検証した結果である。

分析した結果、統計的に有意な関連が確認できたのは、年齢 90 代以上で 3.57 点幸福感が高い、情緒的サポート受領がないと-1.11 点幸福感が低い、手段的サポート受領がないと-1.46 点幸福感が低い、仕事をしたことはあるが、現在していないと-0.85 点幸福感が低い、地域への愛着がとても愛着があると比較すると、まあ愛着があると-1.23 点、どちらともいえないと-1.89 点幸福感が低い、あまり愛着がないと-1.71 点幸福感が低い、全く愛着がないと-3.69 点幸福感が低いという結果であった。

着目する点として、地域への愛着について、どのカテゴリでも有意な関連を示しており、地域への愛着が持っている、幸福感が低くならないことと関連している可能性が示唆された。

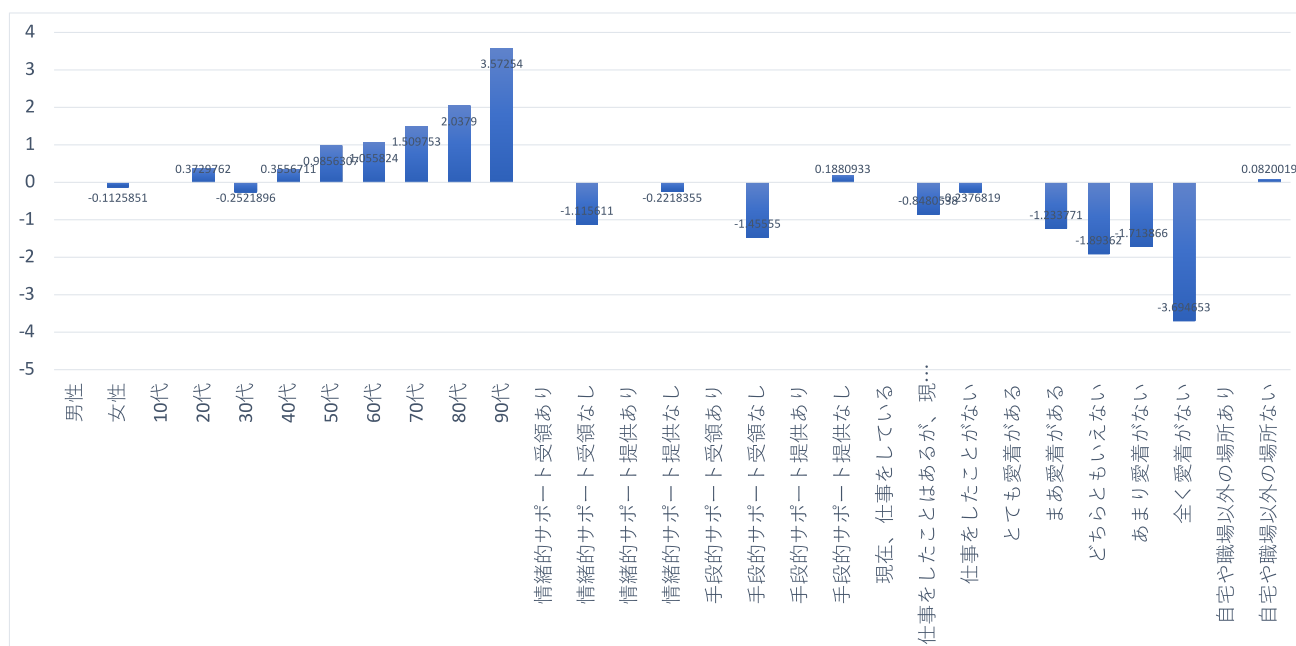


図 1 幸福感と関連する要因 1 (18 歳以上)

表1 幸福感と関連する要因1 (18歳以上)

調査項目	項目カテゴリ	Coef.	P>t	[95% Conf.	Interval]
性別	男性				
	女性	-0.1125851	0.708	-0.7051428	0.4799726
年齢	10代				
	20代	0.3729762	0.707	-1.579393	2.325346
	30代	-0.2521896	0.8	-2.211094	1.706715
	40代	0.3556711	0.716	-1.56684	2.278182
	50代	0.9856307	0.311	-0.9274336	2.898695
	60代	1.055824	0.293	-0.9175323	3.02918
	70代	1.509753	0.199	-0.8018088	3.821314
	80代	2.0379	0.107	-0.4408266	4.516627
	90代	3.57254	0.013	0.7563781	6.388703
情緒的サポート受領	情緒的サポート受領あり				
	情緒的サポート受領なし	-1.115611	0.012	-1.982336	-0.2488854
情緒的サポート提供	情緒的サポート提供あり				
	情緒的サポート提供なし	-0.2218355	0.521	-0.9016424	0.4579715
手段的サポート受領	手段的サポート受領あり				
	手段的サポート受領なし	-1.45555	0.004	-2.43791	-0.473191
手段的サポート提供	手段的サポート提供あり				
	手段的サポート提供なし	0.1880933	0.56	-0.4477145	0.8239011
就労	現在、仕事をしている				
	仕事をしたことはあるが、現在はしていない	-0.8480538	0.011	-1.503474	-0.1926339
	仕事をしたことがない	-0.2376819	0.679	-1.366387	0.8910227
愛着	とても愛着がある				
	まあ愛着がある	-1.233771	0.002	-2.001569	-0.4659731
	どちらともいえない	-1.89362	0	-2.737587	-1.049654
	あまり愛着がない	-1.713866	0.004	-2.884513	-0.54322
	全く愛着がない	-3.694653	0	-5.017926	-2.371379
第3の居場所	自宅や職場以外の場所あり				
	自宅や職場以外の場所ない	0.0820019	0.788	-0.5189176	0.6829213

※有意水準 0.05 とし、それ以下を有意差ありとし、有意差ありの項目カテゴリを黄色でハイライトした。
 ※表の見方として、例えば性別であれば、男性と比較して、女性は約-0.11 点幸福度が低いとみる。男性の Coef. の欄が空欄なのは、基準カテゴリという、〇〇と比較しての部分に当たるカテゴリのため、数値そのものがない。年齢についても、10代と比較して、20代では、30代ではというように数値をみていく。

表2 幸福感に関連する要因1（18歳以上）で使用した項目のn数や割合

調査項目	項目カテゴリ	n	%	累積%
性別	男性	164	53.42	53.42
	女性	143	46.58	100
年齢	10代	8	2.61	2.61
	20代	43	14.01	16.61
	30代	38	12.38	28.99
	40代	62	20.2	49.19
	50代	69	22.48	71.66
	60代	41	13.36	85.02
	70代	18	5.86	90.88
	80代	20	6.51	97.39
	90代	5	1.63	99.02
	欠損値	3	0.98	100
情緒的サポート受領	あり	241	78.5	78.5
	なし	50	16.29	94.79
	欠損値	16	5.21	100
情緒的サポート提供	あり	185	60.26	60.26
	なし	99	32.25	92.51
	欠損値	23	7.49	100
手段的サポート受領	あり	256	83.39	83.39
	なし	37	12.05	95.44
	欠損値	14	4.56	100
手段的サポート提供	あり	159	51.79	51.79
	なし	124	40.39	92.18
	欠損値	24	7.82	100
就労	現在仕事している	172	56.03	56.03
	仕事をしたことはあるが、現在はしてない	95	30.94	86.97
	仕事をしたことがない	27	8.79	95.77
	欠損値	13	4.23	100
地域への愛着	とても愛着がある	77	25.08	25.08
	まあ愛着がある	105	34.2	59.28
	どちらともいえない	70	22.8	82.08
	あまり愛着がない	26	8.47	90.55
	全く愛着がない	16	5.21	95.77
	欠損値	13	4.23	100
第3の居場所	ある	103	33.55	33.55
	ない	169	55.05	88.6
	欠損値	35	11.4	100

図2及び表3は、社会参加項目（問41）と幸福感との関連を検証した結果である。幸福感との関連については、趣味のサークル活動のみが統計的に有意に幸福感と関連しており、0.0067点の高い結果であった。他方でその他の社会参加は有意な関連がなかった。幸福感の点数そのもの影響は小さいが、多数の社会参加項目がある中で、趣味のサークル活動のみに関連が確認できたのは興味深い結果であり、障がいのある人の幸福感を高める可能性を示唆した。

有意な関連は見られないが、傾向としては、家族の会、親の活動は、それぞれ2.04点、2.89点幸福感が高い傾向もみられるが、n数少ない（家族の会該当者 n=4、親の会該当者 n=1）ためあくまで参考値である。

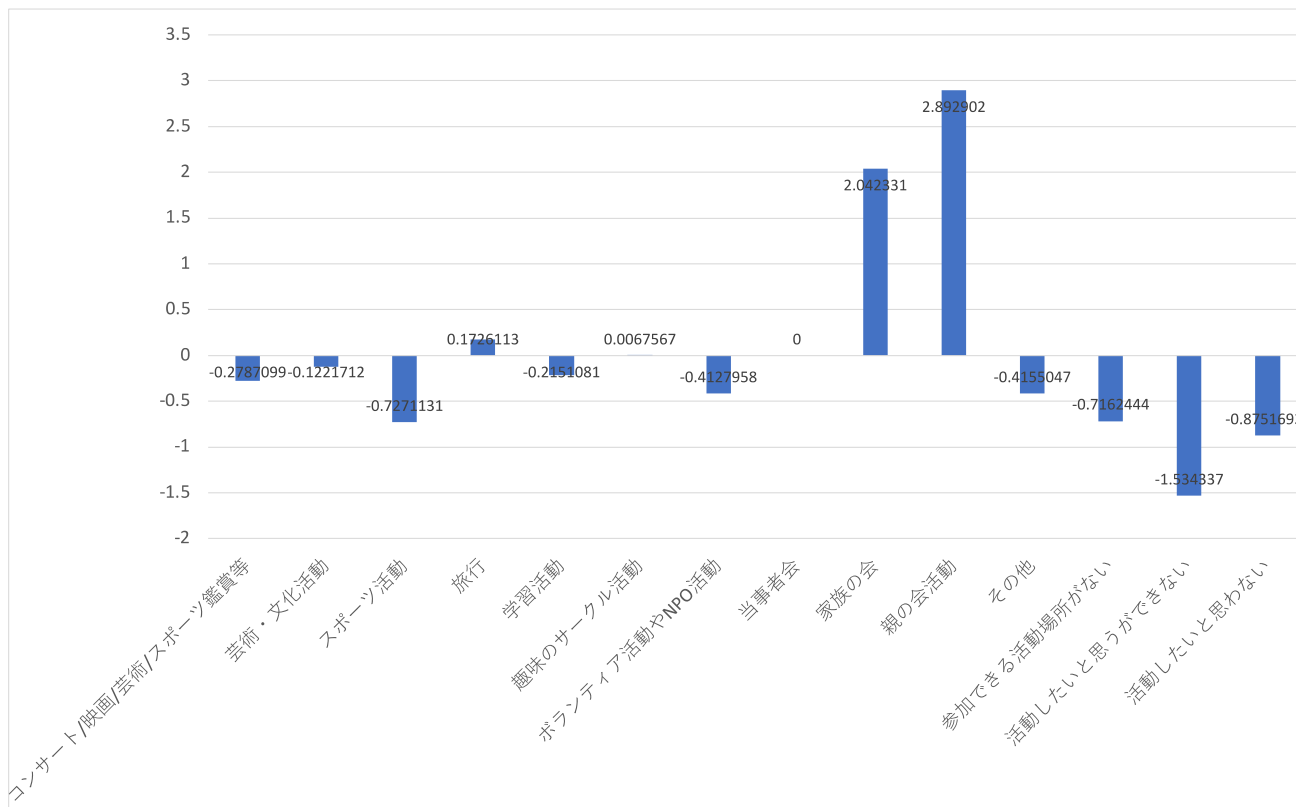


図2 幸福感と関連する要因2（18歳以上）

表3 幸福感と関連する要因2（18歳以上）

	Coef.	Std. Err.	t	P>t	[95% Conf. Interval]
コンサート/映画/芸術/スポーツ鑑賞等	-0.2787099	0.4184787	-0.67	0.506	-1.102705 0.5452852
芸術・文化活動	-0.1221712	0.7192195	-0.17	0.865	-1.538332 1.29399
スポーツ活動	-0.7271131	0.5848538	-1.24	0.215	-1.878705 0.4244787
旅行	0.1726113	0.4380752	0.39	0.694	-0.6899696 1.035192
学習活動	-0.2151081	0.7708902	-0.28	0.78	-1.73301 1.302794
趣味のサークル活動	0.0067567	0.6963821	0.01	0.992	-1.364437 1.377951
ボランティア活動やNPO活動	-0.4127958	0.8259873	-0.5	0.618	-2.039185 1.213594
当事者会	0 (omitted)				
家族の会	2.042331	1.319378	1.55	0.123	-0.555558 4.64022
親の会活動	2.892902	2.811178	1.03	0.304	-2.643562 8.429366
その他	-0.4155047	0.5563642	-0.75	0.456	-1.511 0.6799903
参加できる活動場所がない	-0.7162444	0.5823057	-1.23	0.22	-1.862819 0.4303301
活動したいと思うができない	-1.534337	0.4728782	-3.24	0.001	-2.465446 -0.6032278
活動したいと思わない	-0.8751693	0.5000916	-1.75	0.081	-1.859862 0.1095236

表4 幸福感に関連する要因2（18歳以上）で使用した項目のn数や割合

調査項目	項目カテゴリ	n	%	累積%
コンサート/映画/芸術/ スポーツ鑑賞	なし	237	77.2	77.2
	あり	70	22.8	100
芸術・文化活動	なし	288	93.81	93.81
	あり	19	6.19	100
スポーツ活動	なし	277	90.23	90.23
	あり	30	9.77	100
旅行	なし	253	82.41	82.41
	あり	54	17.59	100
学習活動	なし	294	95.77	95.77
	あり	13	4.23	100
趣味のサークル活動	なし	290	94.46	94.46
	あり	17	5.54	100
ボランティア活動や NPO活動	なし	295	96.09	96.09
	あり	12	3.91	100
当事者会	なし	307	100	100
家族の会	なし	303	98.7	98.7
	あり	4	1.3	100
親の活動	なし	306	99.67	99.67
	あり	1	0.33	100
その他	なし	278	90.55	90.55
	あり	29	9.45	100
参加できる活動場所が ない	なし	282	91.86	91.86
	あり	25	8.14	100
活動したいと思うがで きない	なし	245	79.8	79.8
	あり	62	20.2	100
活動したいと思わない	なし	250	81.43	81.43
	あり	57	18.57	100

<幸福感と関連する「地域への愛着」を増やすには？（18歳以上）>

図1及び表1において、地域への愛着を持っていると、幸福感が低くならないことと関連していることが示唆された。他方で、地域への愛着を増やすための手掛かりについても検討したい。表5は、地域への愛着と関連すると仮説として検討された問12「あなた（本人）は障がいがあることで、困ったり嫌な思いをしたことはありますか。」について、地域への愛着とクロス集計を行った。その結果、障害があることで、困ったり嫌な思いをすることが「ある」と回答する人よりも、「なし」と回答するの方が、地域への愛着がある（とても愛着がある・まあ愛着がある）と答える傾向にある。

反対に、障害があることで、困ったり嫌な思いをすることが「ある」と回答する人よりも、「なし」と回答するの方が、地域への愛着がない（あまり愛着がない・全く愛着がない）と答えない傾向にある。

これは、障がいのある人が、地域・社会での生活において、困りごとや嫌な思いを減らすことが、地域への愛着や幸福感にもつながる可能性を意味する。

表5 地域への愛着と関連する要因の検討（探索的クロス集計）（18歳以上）

		地域への愛着						欠損値	合計
		とても愛着がある	まあ愛着がある	どちらともいえない	あまり愛着がない	全く愛着がない			
あなた（本人）は障がいがあることで、困ったり嫌な思いをしたことはありますか	ある	n	42	65	48	24	12	7	198
		%	21.21	32.83	24.24	12.12	6.06	3.54	100
	なし	n	32	37	19	2	3	2	95
		%	33.68	38.95	20	2.11	3.16	2.11	100
	欠損値	n	3	3	3	0	1	4	14
		%	21.43	21.43	21.43	0	7.14	28.57	100
	合計	n	77	105	70	26	16	13	307
		%	25.08	34.2	22.8	8.47	5.21	4.23	100

表6は、問12「あなた（本人）は障がいがあることで、困ったり嫌な思いをしたことはありますか。」に対して、その場面についての回答である。「自分の障がいに対する理解がないと感じた」が35.5%と最も高く、「直接、偏見的な発言をされた又は態度をとられた」が23.13%と次いで高かった。

表6 障がいがあることで、困ったり嫌な思いをした際の場面（18歳以上）

	n	%
十分話を聞いてもらえなかった	40	13.03
自分の意向や希望を聞いてもらえなかった又は尊重されなかった	49	15.96
利用を断られた又は利用に当たり条件をつけられた	19	6.19
自分の障がいに対応する設備・施設（階段、エレベーター、スロープ、トイレ、休憩所等）がなかった又は配慮されたものでなかった	44	14.33
困ったときに周りの人の手助けがなかった又は断られた	32	10.42
自分の障がいに対する理解がないと感じた	109	35.5
直接、偏見的な発言をされた又は態度をとられた	71	23.13
その他	36	11.73

表 6 で示した障がいのある人本人が、具体的に困ったり嫌な思いをする項目を、地域への愛着の項目と関連分析による検証を行った（表 7）。その結果、統計学的に有意な関連を示したのは、「直接、偏見的な発言をされた又は態度をとられた」であった。「直接、偏見的な発言をされた又は態度をとられた」と回答する方は、そうでない方と比較して、愛着が低くなる傾向がある（約 0.39※）。

表 7 地域への愛着と関連する要因の検証（18 歳以上）

	Coef.	Std. Err.	t	P>t	[95% Conf.	Interval]
十分話を聞いてもらえなかった	0.3534474	0.2056034	1.72	0.087	-0.0512464	0.7581413
自分の意向や希望を聞いてもらえなかった又は尊重されなかった	0.1282491	0.182768	0.7	0.483	-0.2314973	0.4879954
利用を断られた又は利用に当たり条件をつけられた	-0.0997318	0.2642044	-0.38	0.706	-0.6197713	0.4203077
自分の障がいに対応する設備・施設（階段、エレベーター、スロープ、トイレ、休憩所等）がなかった又は配慮されたものでなかった	0.1388185	0.1839934	0.75	0.451	-0.22334	0.5009769
困ったときに周りの人の手助けがなかった又は断られた	0.3639511	0.210677	1.73	0.085	-0.0507292	0.7786313
自分の障がいに対する理解がないと感じた	0.0894037	0.1444602	0.62	0.536	-0.1949405	0.3737479
直接、偏見的な発言をされた又は態度をとられた	0.3893302	0.160417	2.43	0.016	0.0735778	0.7050827
その他	0.3567097	0.1997186	1.79	0.075	-0.0364009	0.7498204

※とても愛着がある=1、まあ愛着がある=2、どちらともいえない=3、あまり愛着がない=4、全く愛着がない=5 と割り当てられており、約 0.39 ということは、偏見的な発言又は態度を取られた人は、そうでない人と比較して、とても愛着がある 1 に 0.39 プラスされて 1.39 となり、2 のまあ愛着があるに近づく。同様に例えば、あまり愛着がないは 4 であるため、4.39 となり、5 の全く愛着がないに数値が近づき、愛着が低くなる。

3 調査結果（18歳未満）

18歳未満：学術研究への利用に関する同意に「いいえ」と回答した1名を除外した 53名が対象

○ 調査対象者自身について

(1) 調査票の記入者をお答えください（一つだけ○で囲む）

	n	%	累積%
本人が自分で記入	4	7.55	7.55
本人の意思を確認して、家族や介護者（施設職員）等が代筆で記入	24	45.28	52.83
本人の意思を確認することが難しいため、家族や介護者（施設職員）等が本人の意向をくみ取って代わりに記入	23	43.4	96.23
欠損値	2	3.77	100
合計	53	100	

○ 年齢構成（問2あなた本人の年齢をお答えください令和5年1月1日時点）

	n	%	累積%
小学生以下（6歳以下）	6	11.32	11.32
小学生（7歳-12歳）	25	47.17	58.49
中学生（13歳-15歳）	12	22.64	81.13
高校生（16歳-18歳）	10	18.87	100
合計	53	100	

○ 性別

	n	%	累積%
男	36	67.92	67.92
女	17	32.08	100
Total	53	100	

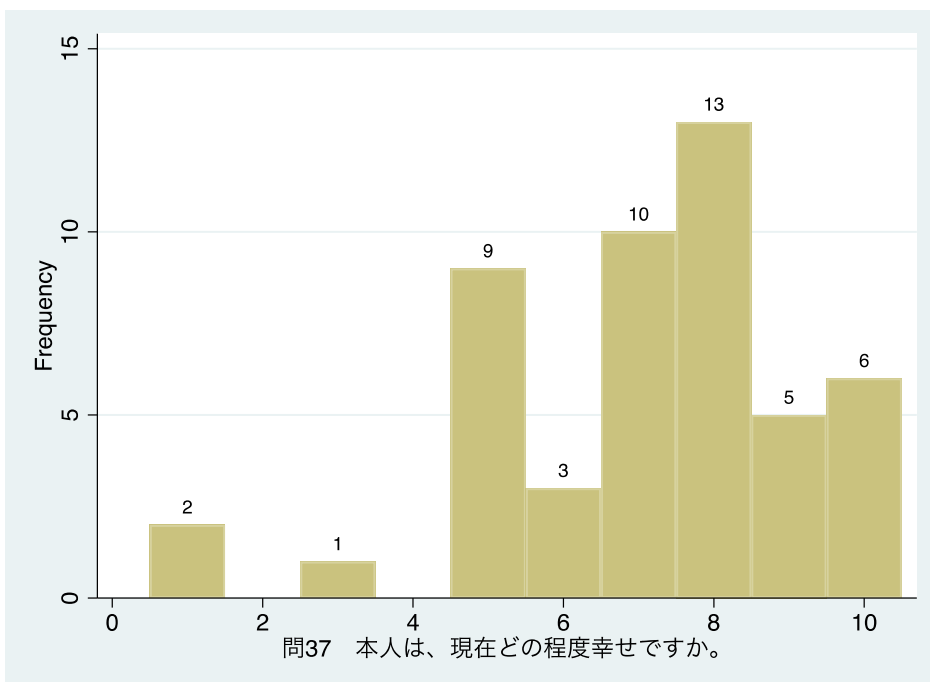
○ 幸福感について（問 37 あなた本人は現在どの程度幸せですか）

問37 あなた（本人）は、現在どの程度幸せですか。



<幸福感点数毎の回答者数・割合>

	n	%	累積%
0	0	0.00	0.00
1	2	3.77	3.77
2	0	0.00	0.00
3	1	1.89	5.66
4	0	0.00	0.00
5	9	16.98	22.64
6	3	5.66	28.3
7	10	18.87	47.17
8	13	24.53	71.7
9	5	9.43	81.13
10	6	11.32	92.45
欠損値	4	7.55	100
合計	53	100	



<幸福感と関連する要因について（18歳未満）>

図3及び表8は、18歳未満における性別、年齢、情緒的サポート受領（問17）、情緒的サポート提供（問18）、手段的サポート受領（問19）、手段的サポート提供（問20）、地域への愛着（問38）、自宅や職場以外の居場所（問39）と、幸福感との関連を検証した結果である。

分析した結果、統計的に有意な関連が確認できたのは、愛着のみで、地域への愛着がとても愛着があると比較すると、あまり愛着がないと-3.24点幸福感が低いという結果であった。統計的に有意な関連は示していないが、まあ愛着があるは-0.88点幸福感が低い、どちらとも言えないは-0.78点幸福感が引く傾向を示しており、n数が53であったため、分析には限界があるが、n数が増えてくると、18歳以上と同様の統計的にも有意な関連を示す可能性は考えられる。全く愛着がないカテゴリは、回答者の中でこのカテゴリを選択する人がいなかったため、0を示している。

18歳以上の結果と同様に、地域への愛着について、地域への愛着が持っている、幸福感が低くならないことと関連している可能性が示唆された。

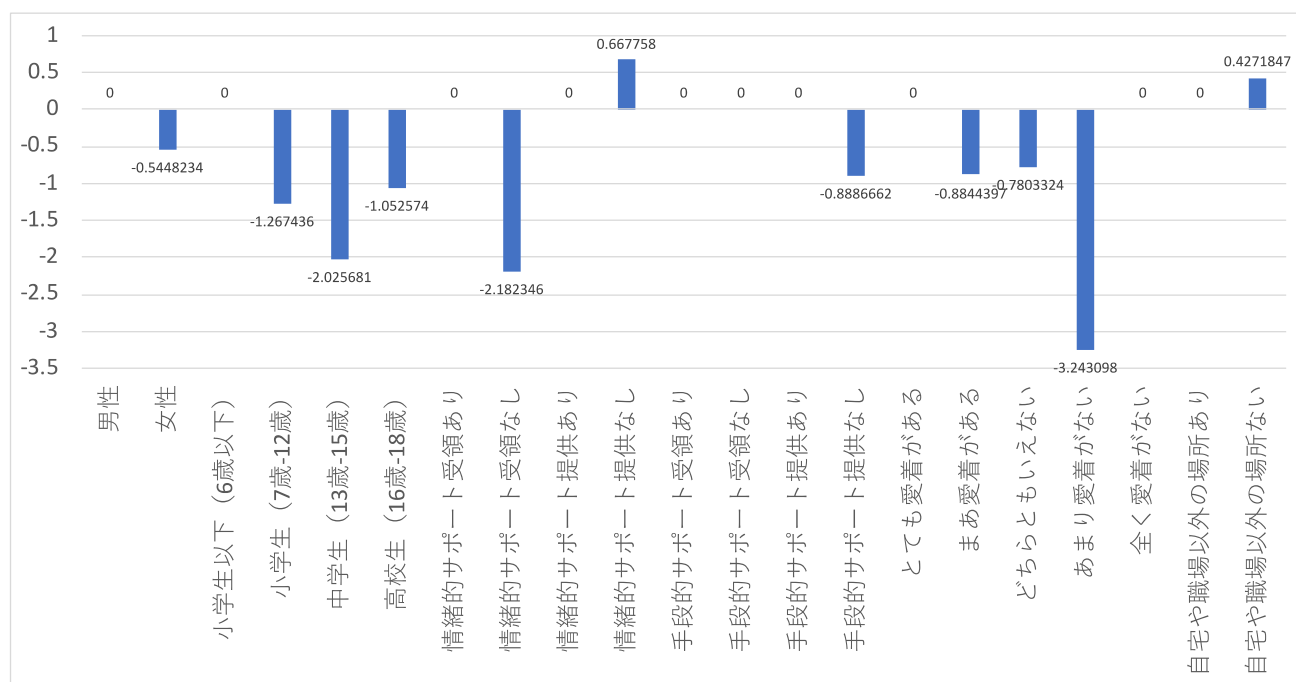


図3 幸福感と関連する要因（18歳未満）

表 8 幸福感と関連する要因（18 歳未満）

調査項目	項目カテゴリ	Coef.	P>t	[95% Conf.	Interval]
性別	男性	0			
	女性	-0.5448234	0.535	-2.31041	1.220763
年齢	小学生以下（6歳以下）	0			
	小学生（7歳-12歳）	-1.267436	0.266	-3.542875	1.008003
	中学生（13歳-15歳）	-2.025681	0.116	-4.575313	0.5239513
	高校生（16歳-18歳）	-1.052574	0.411	-3.618166	1.513019
情緒的サポート受領	情緒的サポート受領あり	0			
	情緒的サポート受領なし	-2.182346	0.242	-5.908897	1.544205
情緒的サポート提供	情緒的サポート提供あり	0			
	情緒的サポート提供なし	0.667758	0.438	-1.058467	2.393983
手段的サポート受領	手段的サポート受領あり	0			
	手段的サポート受領なし	0			
手段的サポート提供	手段的サポート提供あり	0			
	手段的サポート提供なし	-0.8886662	0.414	-3.070068	1.292736
愛着	とても愛着がある	0			
	まあ愛着がある	-0.8844397	0.355	-2.797941	1.029062
	どちらともいえない	-0.7803324	0.458	-2.892051	1.331386
	あまり愛着がない	-3.243098	0.045	-6.409686	-0.0765103
	全く愛着がない	0			
第3の居場所	自宅や職場以外の場所あり	0			
	自宅や職場以外の場所ない	0.4271847	0.584	-1.140041	1.994411

※有意水準 0.05 とし、それ以下を有意差ありとし、有意差ありの項目カテゴリを黄色でハイライトした。

表9 幸福感に関連する要因（18歳未満）で使用した項目のn数や割合

調査項目	項目カテゴリ	n	%	累積%
性別	男性	36	67.92	67.92
	女性	17	32.08	100
年齢	小学生以下（6歳以下）	6	11.32	11.32
	小学生（7歳-12歳）	25	47.17	58.49
	中学生（13歳-15歳）	12	22.64	81.13
	高校生（16歳-18歳）	10	18.87	100
情緒的サポート受領	あり	48	90.57	90.57
	なし	2	3.77	94.34
	欠損値	3	5.66	100
情緒的サポート提供	あり	25	47.17	47.17
	なし	25	47.17	94.34
	欠損値	3	5.66	100
手段的サポート受領	あり	51	96.23	96.23
	なし	0	0.00	0.00
	欠損値	2	3.77	100
手段的サポート提供	あり	14	26.42	26.42
	なし	37	69.81	96.23
	欠損値	2	3.77	100
地域への愛着	とても愛着がある	9	16.98	16.98
	まあ愛着がある	24	45.28	62.26
	どちらともいえない	14	26.42	88.68
	あまり愛着がない	4	7.55	96.23
	全く愛着がない	0	0.00	0.00
	欠損値	2	3.77	100
第3の居場所	ある	35	66.04	66.04
	ない	15	28.3	94.34
	欠損値	3	5.66	100

<幸福感と関連する「地域への愛着」を増やすには？（18歳未満）>

表 10 は、18 歳未満の問 12「あなた（本人）は障がいがあることで、困ったり嫌な思いをしたことはありますか。」について、地域への愛着とクロス集計を行った。しかし、該当者数の少なく、18 歳以上の集計と同様の結果にはならず、安定した傾向を示さなかった。

表 10 地域への愛着と関連する要因の検討（探索的クロス集計）（18 歳未満）

			地域への愛着					欠損値	合計
			とても愛着がある	まあ愛着がある	どちらともいえない	あまり愛着がない	全く愛着がない		
あなた（本人）は障がいがあることで、困ったり嫌な思いをしたことはありますか	ある	n	4	17	7	4	0	0	32
		%	12.50	53.12	21.88	12.50	0	0.00	100.00
	なし	n	4	5	7	0	0	1	17
		%	23.53	29.41	41.18	0	0	5.88	100
	欠損値	n	1	2	0	0	0	1	4
		%	25	50	0	0	0	25	100
	合計	n	9	24	14	4	0	2	53
		%	16.98	45.28	26.42	7.55	0	3.77	100

表 11 は、問 12「あなた（本人）は障がいがあることで、困ったり嫌な思いをしたことはありますか。」に対して、その場面についての回答である。「直接、偏見的な発言をされた又は態度をとられた」が 28.3%と最も高く、「自分の障がいに対する理解がないと感じた」が 26.42%次いで高かった。

問 11 障がいがあることで、困ったり嫌な思いをした際の場面（18 歳未満）

	n	%
十分話を聞いてもらえなかった	6	11.32
自分の意向や希望を聞いてもらえなかった又は尊重されなかった	6	11.32
利用を断られた又は利用に当たり条件をつけられた	5	9.43
自分の障がいに対応する設備・施設（階段、エレベーター、スロープ、トイレ、休憩所等）がなかった又は配慮されたものでなかった	7	13.21
困ったときに周りの人の手助けがなかった又は断られた	5	9.43
自分の障がいに対する理解がないと感じた	14	26.42
直接、偏見的な発言をされた又は態度をとられた	15	28.3
その他	8	15.09

表 11 で示した障がいのある人本人が、具体的に困ったり嫌な思いをする項目を、地域への愛着の項目と関連分析による検証を行った（表 12）。その結果、統計学的に有意な関連を示した項目は確認できなかった。関連を示さなかったのは、対象者の数による影響が大きいのではないかと考えられる。

表 12 地域への愛着と関連する要因の検証（18 歳未満）

	Coef.	Std. Err.	t	P>t	[95% Conf.	Interval]
十分話を聞いてもらえなかった	-0.1582363	0.4336254	-0.36	0.717	-1.033328	0.7168551
自分の意向や希望を聞いてもらえなかった又は尊重されなかった	-0.1649228	0.4084821	-0.4	0.688	-0.989273	0.6594275
利用を断られた又は利用に当たり条件をつけられた	-0.0067794	0.4460484	-0.02	0.988	-0.9069415	0.8933828
自分の障がいに対応する設備・施設（階段、エレベーター、スロープ、トイレ、休憩所等）がなかった又は配慮されたものでなかった	-0.3307407	0.3907507	-0.85	0.402	-1.119308	0.4578261
困ったときに周りの人の手助けがなかった又は断られた	0.6266638	0.4334985	1.45	0.156	-0.2481716	1.501499
自分の障がいに対する理解がないと感じた	-0.0625654	0.350259	-0.18	0.859	-0.7694165	0.6442858
直接、偏見的な発言をされた又は態度をとられた	0.0244895	0.3404951	0.07	0.943	-0.6626576	0.7116365
その他	0.0331292	0.369652	0.09	0.929	-0.7128587	0.7791171

<まとめ>

本分析では、厚生労働省が施策として示す地域共生社会において、障がいのある人も含めた地域住民の「幸福感」について主に検証してきた。その結果、障がいのある人本人が、地域への愛着が持っている、幸福感が低くならないことと関連している可能性が示唆された。

また、幸福感と関連がある「地域への愛着」を増やすための手掛かりを確認するために、探索的に障がいがある人本人の困りごとや嫌な思いに着目し集計・分析を行った。その結果、障害があることで、困ったり嫌な思いをすることが「ある」と回答する人よりも、「なし」と回答するの方が、地域への愛着がある（とても愛着がある・まあ愛着がある）と答える傾向にあった。さらに、困ったり嫌な思いをする具体的場面との関連分析を行った結果、「直接、偏見的な発言をされた又は態度をとられた」と回答する方は、そうでない方と比較して、愛着が低くなる傾向があった。

生活する場としての、地域・社会において、障がいのある人本人に対して、偏見的な発言や態度を取ることが現状よりも少なくなることが、地域への愛着につながり、さらに幸福感の向上につながる可能性も考えられる。

飯田市

障がい福祉に関する市民アンケート

報告書

令和5年10月

飯田市 健康福祉部 福祉課 障害福祉係

1 調査概要

(1) 調査の目的

第5次障害者施策に関する行動計画・第7期障がい福祉計画・第3期障がい児福祉計画の策定及び障がい者施策を計画的に進めるため、障がい及び障がい者に関する市民の意識を把握し、検討資料を得ることを目的として実施するものである。

(2) 調査の項目

(1) 国が令和4年11～12月に実施した障害者に関する世論調査の項目から抜粋

- ①障がい者と共生社会について
- ②障がい者との交流について
- ③障がい者関連施策について
 - ・国や地方公共団体の施策
 - ・企業や民間団体が行う活動

(3) 調査の設計

調査対象者：飯田市に居住する18歳以上の者（50人程度）

調査方法：福祉課障害福祉係職員が、市役所に各種手続き等で来所し、用事を終えて帰る市民に調査への協力を依頼する。回答に協力いただける市民に調査票を手渡し、その場で記入いただき、職員が回収する。郵送配布・郵送回収またはインターネット回答

調査期間：令和5年5月30日～6月1日

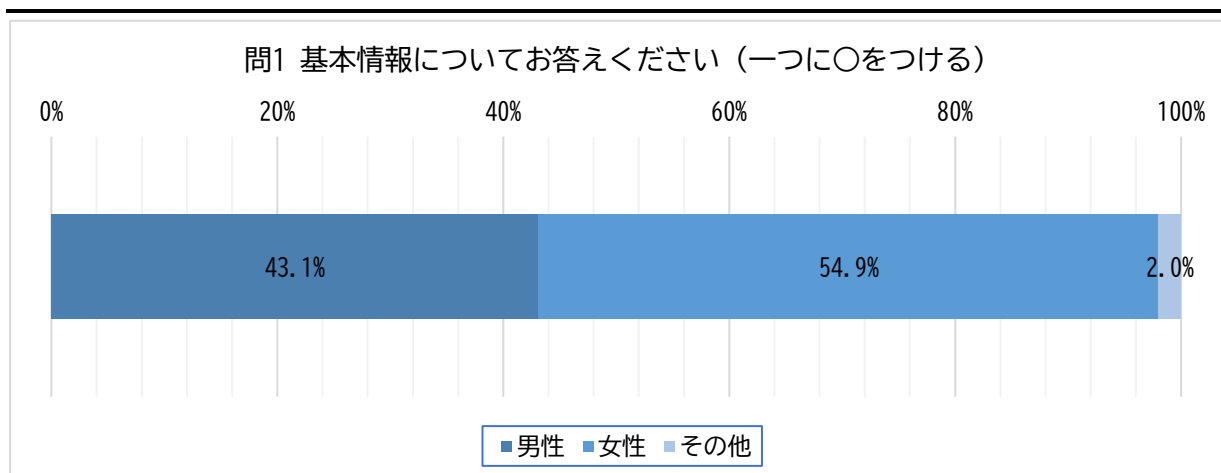
依頼数：51件

(4) 回収状況

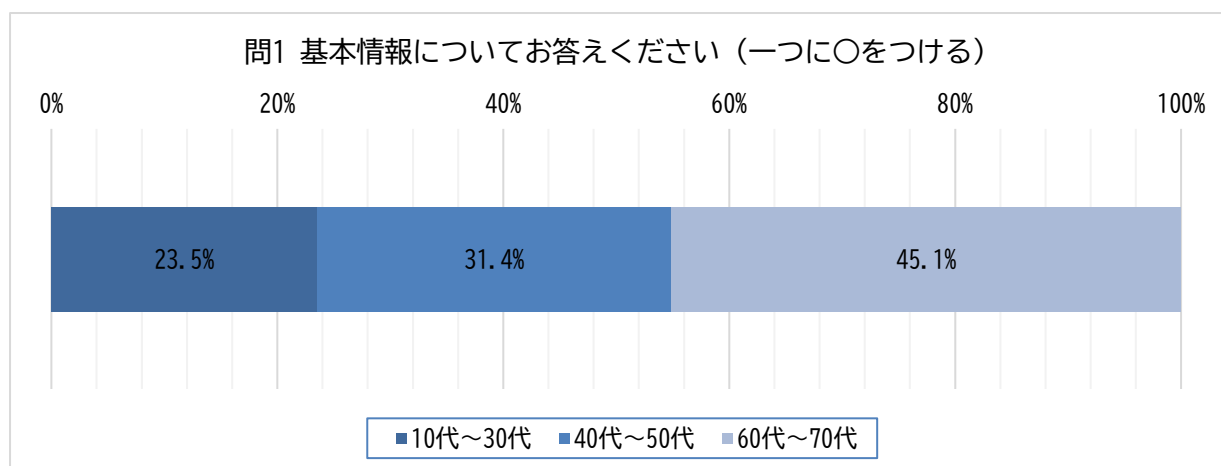
依頼数	回収数	有効回収数	有効回収率
51	51	51	100%

※有効回収数とは、白票または回収が著しく少なくなる票を除いた数

2 調査結果

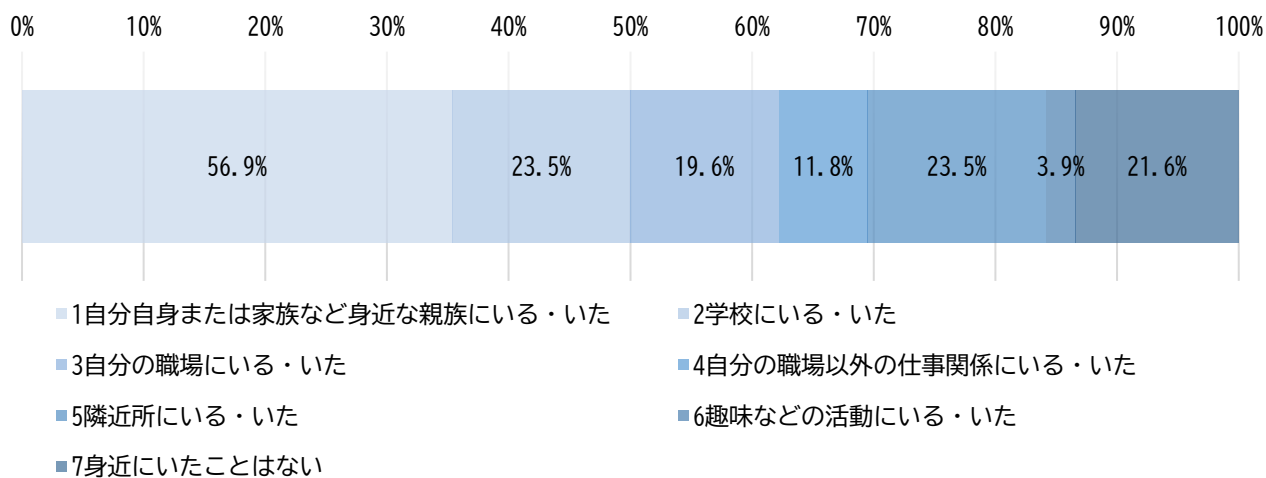


性別は、「男性」が43.1%、「女性」が54.9%、「その他」が2.0%となっています。



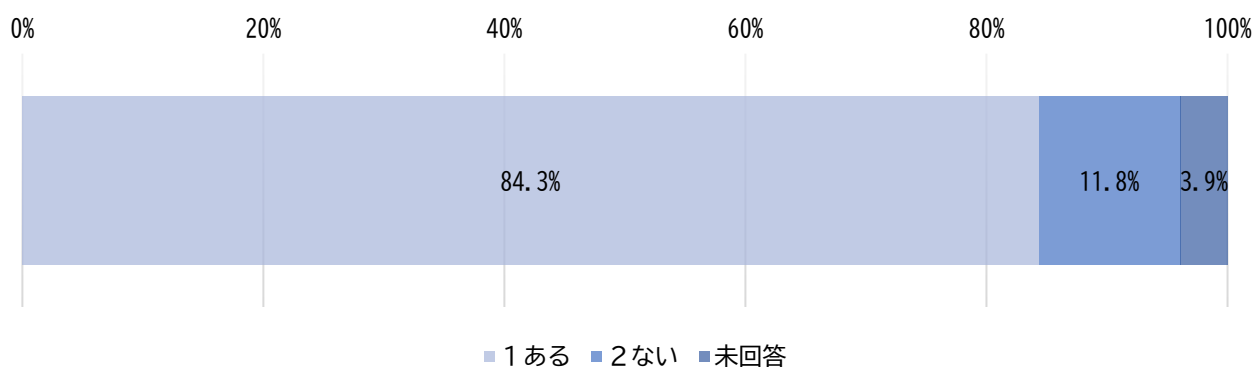
年齢は「10代~30代」が23.5%、「40代~50代」が31.4%、「60代~70代」が45.1%となっています。

問2 あなたの身近に障害のある人がいますか、または、これまでにいたことがありますか。（〇はいくつでも）



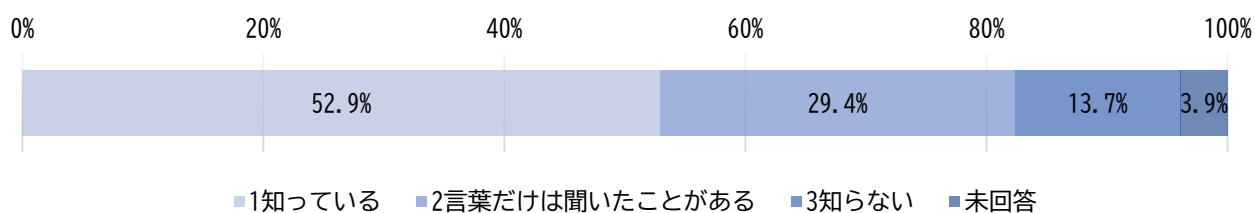
身近に障がいのある人がいるかについては、「1 自分自身または家族など身近な親族にいる・いた」が 56.9%と最も多く、次いで「5 隣近所にいる・いた」が 23.5%などとなっています。

問3 あなたは、障害のある人と気軽に話したり、障害のある人の手助けをしたことがありますか。



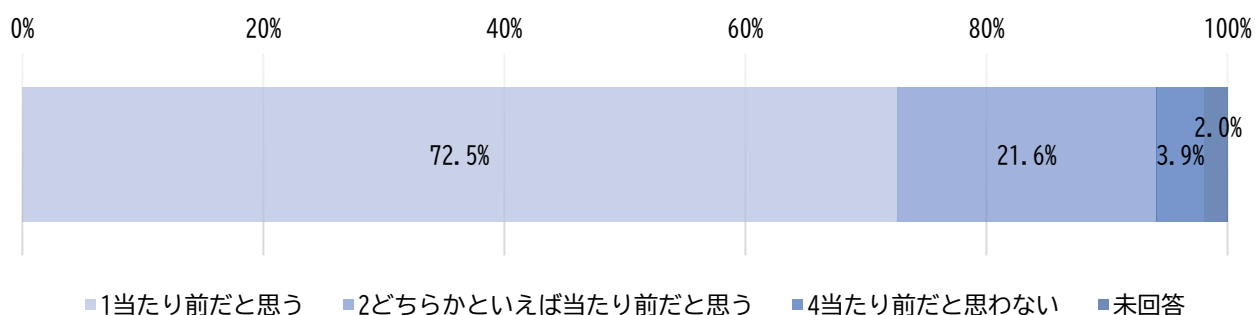
障がいのある人と気軽に話したり、障がいのある人の手助けをしたりしたことがあるかについては、「1 ある」が 84.3%、「2 ない」が 11.8%、「未回答」が 3.9%となっています。

問4 あなたは、障害のある・なしにかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って暮らすことを目指す「共生社会」という考え方を知っていますか。(〇は1つ)



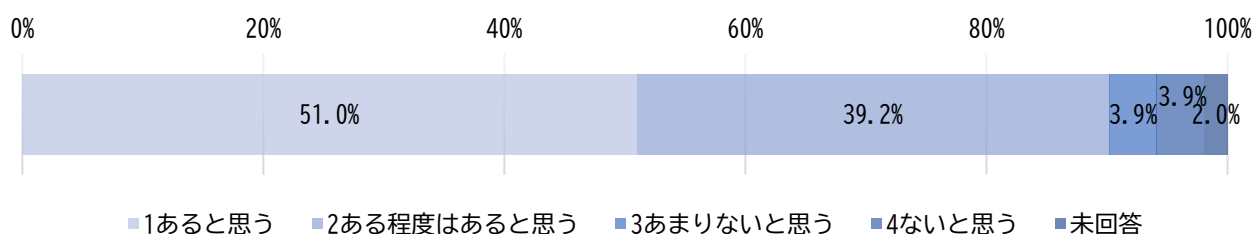
共生社会の認知度については、「1 知っている」が52.9%と最も多く、次いで「2 言葉だけは聞いたことがある」が29.4%などとなっています。

問5 国や地方公共団体では、「共生社会」の考え方に基づいて、障害のある人もない人も共に生活できるための環境づくりを進めています。あなたは、この「障害のある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だ」という考え方について、どう思いますか。(〇は1つ)



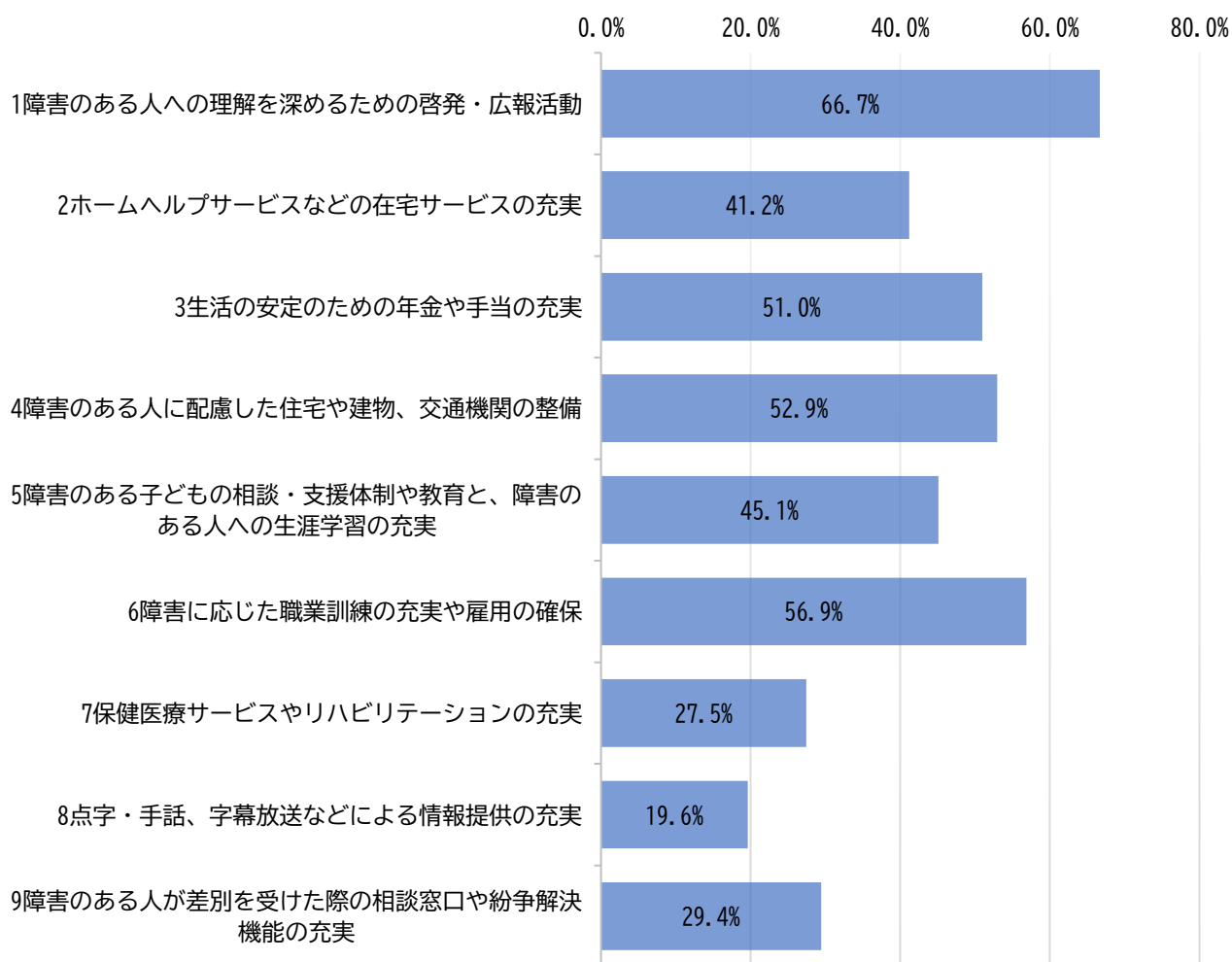
「障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だ」という考えについては、「1 当たり前だと思う」が72.5%と最も多く、次いで「2 どちらかといえば当たり前だと思う」が21.6%などとなっています。

問6 あなたは、世の中には障害のある人に対して、障害を理由とする差別や偏見があると思いますか。(〇は1つ)



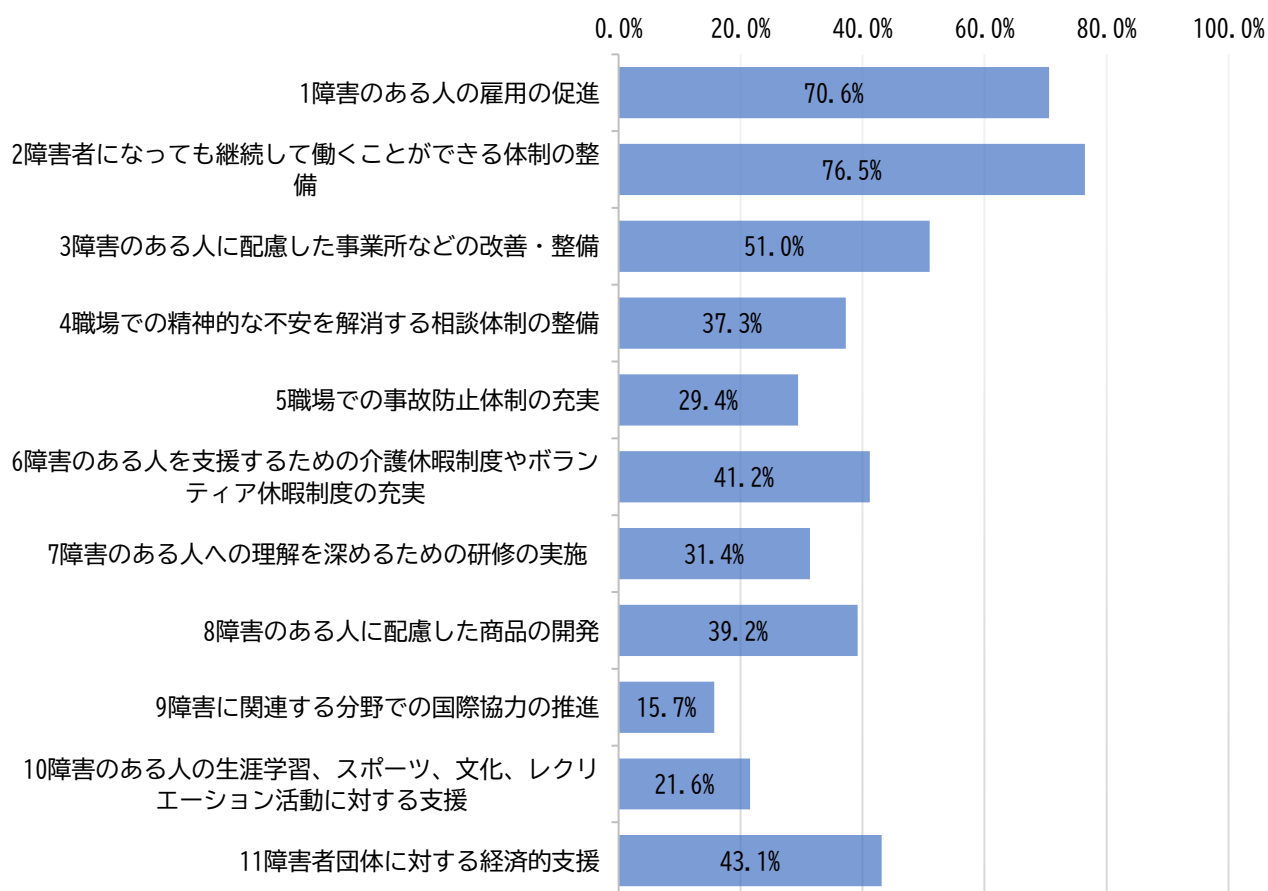
障がいを理由とする差別や偏見があるかについては、「1 あると思う」が51.0%と最も多く、次いで「2 ある程度はあると思う」が39.2%などとなっています。

問7 あなたは、障害のある人に関する国や地方公共団体の施策のうち、もっと力を入れる必要があると思うものは何ですか。（〇はいくつでも）



障がいのある人に関する施策でもっと力を入れる必要があると思うものについては、「1 障がいのある人への理解を深めるための啓発・広報活動」が 66.7%と最も多く、次いで「6 障害に応じた職業訓練の充実や雇用の確保」が 56.9%などとなっています。

問8 あなたは、障害のある人のために企業や民間団体が行う活動について、どのようなことを希望しますか。（〇はいくつでも）



障がいのある人のための企業や民間団体の活動で希望することについては、「2 障がい者になっても継続して働くことができる体制の整備」が 76.5%と最も多く、次いで「1 障がいのある人の雇用の促進」が 70.6%となっています。